

令和4年度

農村集落实態調査

報告書

令和5年3月

新潟市

はじめに（調査目的）

本調査は、新潟市内の農村集落の現状および抱える課題を把握し、今後の農村集落機能の維持・活性化に向けた対策の基礎資料とすることを目的として調査を行った。

目次

1. 新潟市の概況・・・・・・・・・・ p. 1
 - (1) 土地利用
 - (2) 人口
 - (3) 農業の担い手
 - (4) 農業産出額
 - (5) 経営耕地面積

2. 調査概要・・・・・・・・・・ p. 5
 - (1) 対象集落の抽出
 - (2) 代表者ヒアリングの概要
 - (3) アンケート調査の概要

3. 代表者ヒアリング結果・・・・・・・・ p. 8

4. アンケート調査結果・・・・・・・・ p. 26

5. 調査結果の要約・・・・・・・・ p. 89
 - (1) 代表者ヒアリング
 - (2) アンケート調査

6. 総括・・・・・・・・ p. 92

1. 新潟市の概況

(1) 土地利用

- ・本市の農地は、海岸沿いの砂丘部と水田中心の広大な平地部に分けられ、田耕地面積 28,300ha、畑耕地面積 4,530ha（「令和 2 年作物統計調査」農林水産省）で、農用地が市域の約半分を占めている。

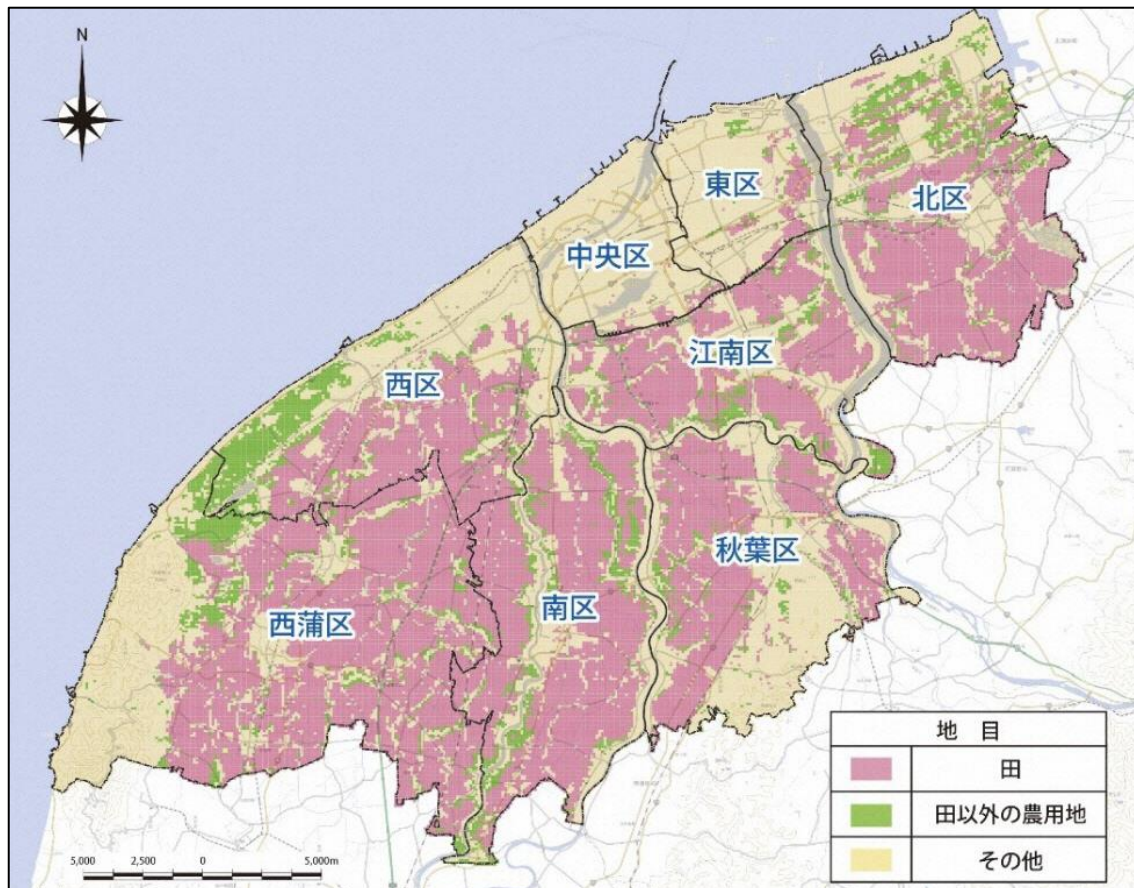


図 1 土地利用図

出典：「国土数値情報 土地利用 3 次メッシュデータ（平成 28 年度）」国土交通省
国土地理院発行地形図

(2) 人口

- ・新潟市の人口は、平成 17 年国勢調査以降は減少が続いており、令和 2 年国勢調査では約 79 万人となっている。
- ・生産年齢人口（15～64 歳）の減少と高齢化が着実に進行している。

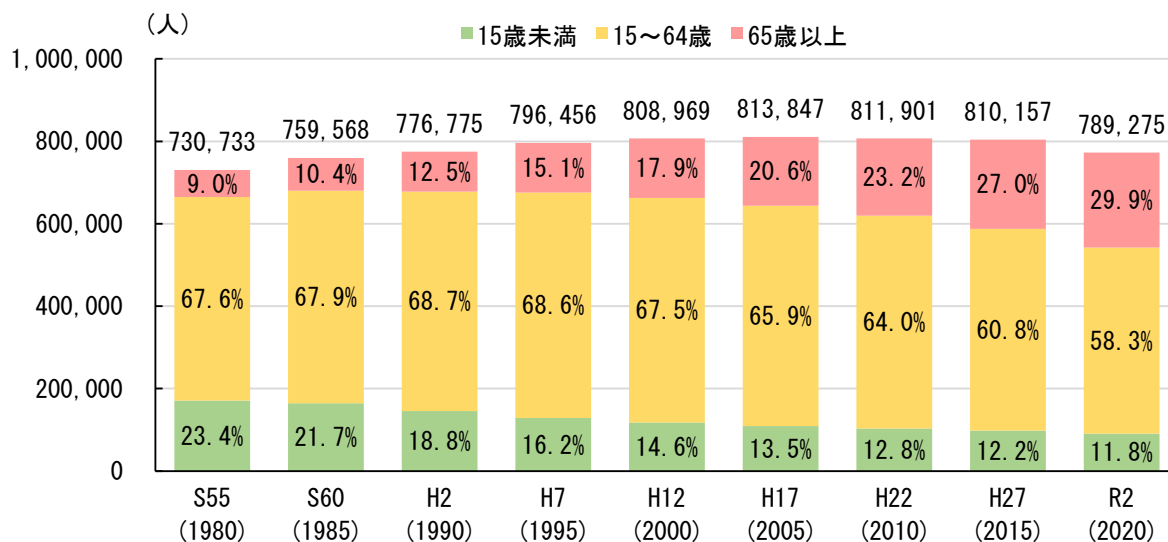


図 2 新潟市の人口の推移

出典：「国勢調査」総務省統計局

(3) 農業の担い手

- ・農家戸数は年々減少しており、平成 12 年から令和 2 年にかけて、20 年間で約 32%減少している。

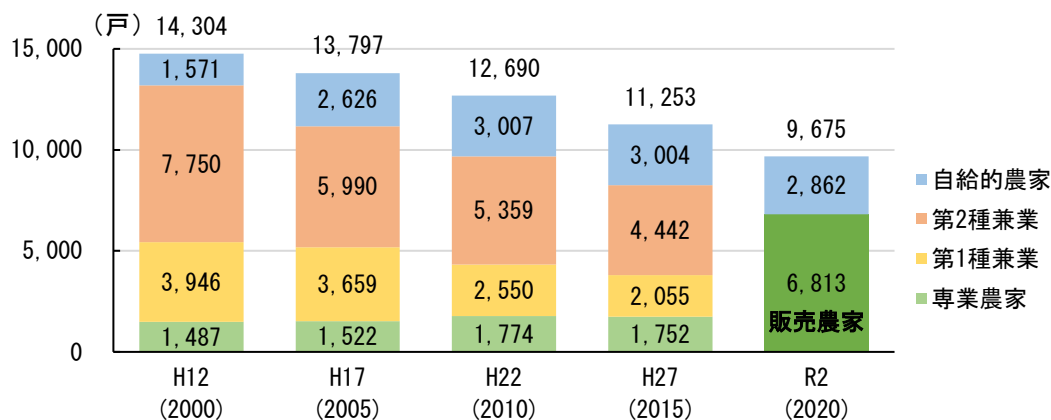


図 3 農家戸数の推移

出典：「農林業センサス」農林水産省

※農林業センサス 2020 から販売農家の内訳として専業・兼業の集計廃止

※「農家」：経営耕地面積が 10 a 以上の農業を営む世帯、又は経営耕地面積が 10 a 未満であっても、調査期日前 1 年間における農産物販売金額が 15 万円以上あった世帯をいう

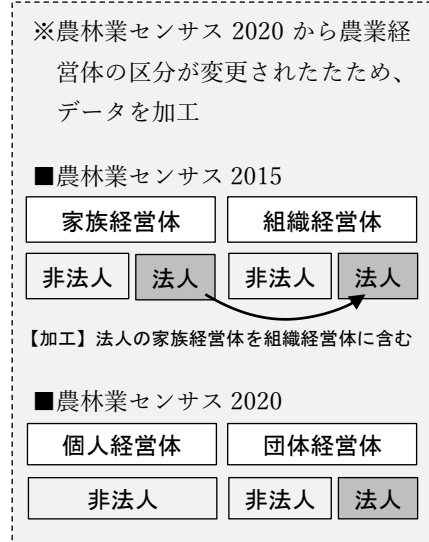
「販売農家」：経営耕地面積が 30 a 以上又は調査期日前 1 年間における農産物販売金額が 50 万円以上の農家をいう

- ・農業経営体は減少しており、令和2年は7,032経営体となっている。
- ・1世帯で農業を行う個人経営体が減少している一方で、法人経営体は増加している。

表1 農業経営体数

	H27 (2015)			
	個人経営体 ※非法人の 家族経営体	組織経営体	法人経営体	計
			新潟市	
新潟県	54,526	1,588	1,184	56,114

	R2 (2020)			
	個人経営体	団体経営体	法人経営体	計
			新潟市	
新潟県	41,955	1,547	1,218	43,502



出典：「農林業センサス」農林水産省

※「農業経営体」：農林産物の生産を行うか又は委託を受けて農林業作業を行い、生産又は作業に係る面積・頭数が、基準のいずれかに該当する事業を行う者をいう（経営耕地面積が30a以上、露地野菜作付面積が15a以上、調査期日前1年間における農業生産物の総販売額50万円に相当 など）

- ・個人経営体の世帯員である基幹的農業従事者は年々減少しており、令和2年は約1万人となっている。
- ・高齢化も急速に進行しており、令和2年は65歳以上が約7割を占めている。

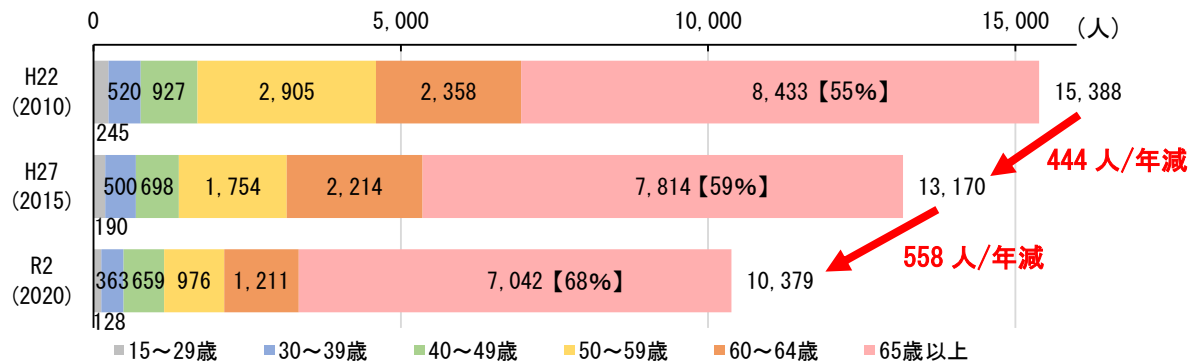


図4 年代別基幹的農業従事者数の推移

出典：「農林業センサス」農林水産省

(4) 農業産出額

- ・令和2年の農業産出額は約570億円で、全国5位を誇る。
- ・米の産出額、田耕地面積ともに日本一を誇る日本最大の米どころであり、農業産出額のうち約6割を米が占めている。

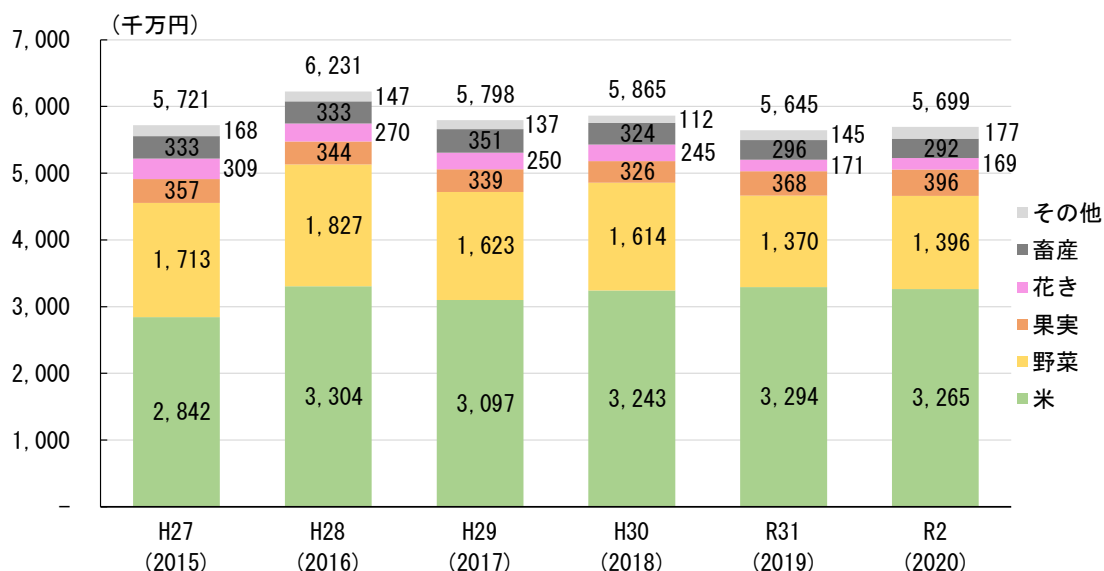


図5 農業産出額の推移

出典：「令和2年市町村別農業産出額（推計）」農林水産省

(5) 経営耕地面積

- ・経営耕地面積のうち約9割を田が占めている。
- ・経営耕地面積は減少傾向にあり、平成17年から令和2年の15年間で約10%減少している。田は7.3%、畑は8.5%、樹園地は34.1%の減少となっており、特に樹園地の減少幅が大きくなっている。

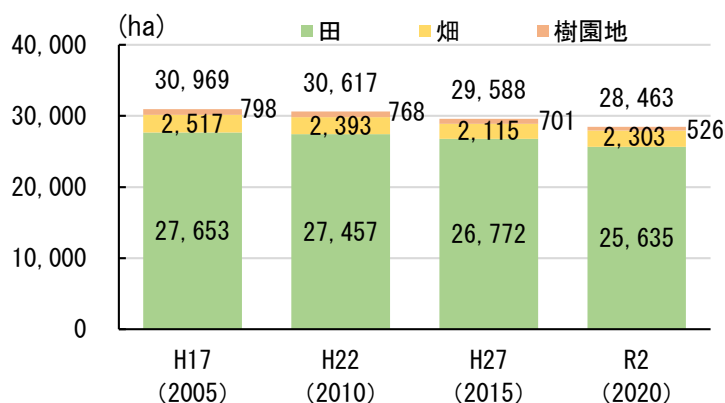


図6 経営耕地面積の推移

出典：「農林業センサス」農林水産省
※農業経営体が対象

2. 調査概要

(1) 対象集落の抽出

本市農村集落の課題等を俯瞰的に把握できるよう、下記の条件に基づき、市内の平均的な農村集落としてA～Fの6集落を選定した。

選定した6集落に対して、代表者ヒアリング及びアンケート調査を実施した。

【選定方法】

1. 農林水産省の「農村地域の姿」のデータ（2015年農林業センサス）を使用し、下記条件により絞り込みを行う。
 - ① 4つの農業地域類型（全572件）のうち、都市的地域（168件）及び平地農業地域（395件）を対象（計563件）
 - ② 販売農家率10%未満（165件）及び算定不能（15件）を除く（383件）
 - ③ 総戸数平均（65.3件）の±10戸の範囲
 - ④ 販売農家率の平均（24.7%）との差および、農林業センサスの総戸数と住民基本台帳の世帯数の差を、区ごとに順位付け
 - ⑤ 上記④の順位の計が少ない集落を選定。ただし、農林業センサスの総戸数と住民基本台帳の世帯数の差が20未満とする
 2. 上記により絞り込み後の集落から、農業地域類型の割合（都市的地域:平地農業地域≒3:7）を考慮のうえ、区役所農政担当課の意見を踏まえ決定。
- ※東区、中央区は、上記②・③により全集落が対象外。北区、江南区、秋葉区、南区、西区、西蒲区から各1集落を選定。

(2) 代表者ヒアリングの概要

【調査方法】

- ・ 集落内の状況について、農家組合長や自治会長など集落の代表者に対し聞き取り調査を実施。
- ・ 調査期間：令和4年8月～9月

【調査項目】

1 集落の概況について 1-1 集落の世帯数の増減の動向やその理由等
2 生活環境について 2-1 公共施設、商業施設、事業所、高齢・介護施設、病院、公共交通等の有無 2-2 空き家、耕作放棄地の状況 2-3 空き家、耕作放棄地の所有者の把握状況 2-4 集落内の農作業に関する苦情や相談の状況
3 支え合いについて 3-1 高齢者のみ世帯の状況 3-2 独居高齢者の数と状況
4 集落行事について 4-1 年中行事（祭礼、運動会等）とその参加状況 4-2 共同作業（江浚い等）の内容と参加状況
5 集落の課題等について 5-1 集落を維持するにあたっての問題点や懸案事項 5-2 集落や集落機能維持のために改善すべき事項とそのために行うべきこと
6 地域農業の就業状況と農業経営について 6-1 地域農業の担い手の状況 6-2 今後の地域農業の維持・振興のために必要と考えること 6-3 土地改良の整備状況（区画の大きさ、用排水の状況、汎用化の条件等）と、今後どのようにあるべきか 6-4 農地の受委託の状況や生産の組織化の状況
7 農業の経営課題について 7-1 地域農業に関し、経営面から課題になっていること 7-2 その課題を解決するために必要な対応や支援

(3) アンケート調査の概要

【調査方法】

- ・令和4年7月31日現在、調査対象集落に住居登録している15歳以上の市民を対象にアンケートを実施。
- ・配布／回収：郵送配布／返信用封筒にて郵送回収
- ・回収期間：令和4年8月16日～8月31日
- ・配布数：1,178部
- ・回収数：489部（回収率：41.5%）

【調査項目】

<p>1 あなたご自身のことを教えてください</p> <p>問1 年代 問2 性別 問3 普段の状況（職業・学生等） 問4 あなたの家は農家か 問5 住所の履歴 問6 世帯員数（住民登録に係わらず実際の同居人数） 問7 就業・就学の場所</p>
<p>2 集落の概況について教えてください</p> <p>問8 就業・就学先への主な移動方法 問9 日用品や食料品等の購入場所 問10 集落内の農家戸数の変化が集落活動に及ぼした変化や影響</p>
<p>3 あなたが感じる集落（地域）の魅力や誇りについて教えてください</p> <p>問11 お住まいの集落（地域）への愛着の有無 問12 お住まいの集落（地域）の魅力や誇りに思うこと</p>
<p>4 生活上の問題点と思うことについて教えてください</p> <p>問13 集落内で問題と思うことや困っていること 問14 集落や集落機能を良くするために必要なこと 問15 その他集落における課題やご意見等（自由記載）</p>
<p>以下は、農業を営んでおられる方のみ回答</p> <p>5 あなたの農業の就業状況と農業経営について教えてください</p> <p>問16 農業経営で、いま課題となっていること 問17 農業の後継者の有無 問18 今後（5～10年）の農業経営について 問19 集落の農業を持続的に発展させるために必要な施策</p> <p>以下は、経営者または経営の代表者の方のみ回答</p> <p>問20 現在（本年度）の営農形態と経営面積 問21 耕作する農地の整備状況</p> <p>農業経営に関わっておられる世帯員の方全員が回答</p> <p>問22 今後の農業経営についての課題やご意見等（自由記載）</p>

3. 代表者ヒアリング結果

北区 集落A

1 集落の概況について

■1-1 集落の世帯数の増減の動向やその理由等

- ・人口は減少傾向、世帯数は横ばいで推移しています。
- ・同居していた世帯が集落内に別の家を建てて分家となるケースがみられ、人口減少に対して世帯数が横ばいとなっている要因の一つと考えられます。

2 生活環境について

■2-1 公共施設、商業施設、事業所、高齢・介護施設、病院、公共交通等の有無

分類	施設の有無	備考
公共施設	○	幼稚園、保育園
商業施設	×	
高齢・介護施設	○	デイサービス
病院	×	
公共交通(バス停)	○	民間路線バス(平日3往復、休日6往復)
その他	—	

■2-2 空き家、耕作放棄地の状況

- ・空き家が2軒程度あります。
- ・耕作放棄地は何か所かあります。

■2-3 空き家、耕作放棄地の所有者の把握状況

- ・空き家の持ち主は把握しており、ある程度管理されています。
- ・耕作放棄地は、雑草が繁茂し、藪状態になっているところもみられます。区役所を通して改善要望等を伝えていますが、特に藪状態だと重機を使用する必要があり、改善要望を出しても管理が進まないところもあります。

■2-4 集落内の農作業に関する苦情や相談の状況

- ・特にありません。

3 支え合いについて

■3-1 高齢者のみ世帯の状況

- ・75歳以上の高齢者のみの世帯は10世帯程度です。
- ・そのうち近隣に分家があるのは4世帯程度です。

■3-2 独居高齢者の数と状況

- ・75歳以上の高齢者の1人暮らしは3世帯程度です。
- ・自分で車を運転する方もいて、元気そうなので、当面は問題なく暮らせそうな様子です。
- ・家族等の来訪状況はあまり把握できていない状況です。

4 集落行事について

■4-1 年中行事（祭礼、運動会等）とその参加状況

- ・集落行事として、春祭りとお祭りを行っています。参加者数はやや減少しており、以前は夜店も数軒出ていましたが、近年はみられません。
- ・子ども会が主体となりお祭りの神行事を行っています。子どもが減ってきているため、近年は自治会の協力を得て行っています。

■4-2 共同作業（江浚い等）の内容と参加状況

- ・春に自治会主催の江浚いを行っており、水路を利用する住民のうち8～9割が参加しています。
- ・夏に農家組合主催で排水路の江浚いを行っており、10戸程度の農家が参加しています。
- ・高齢化が進んでおり、今以上に人手が減る場合は、耕作者だけでなく土地の所有者にも出てもらう必要がある状況です。
- ・農道は、業者に依頼して春に砂利敷きを行います。

5 集落の課題等について

■5-1 集落を維持するにあたっての問題点や懸案事項

【自治会費】

- ・自治会費は月1,500円程度で、世帯数が少ないため1世帯あたりの負担額が比較的高くなっていますが、不平不満の声はあまり出ていません。自治会費を安くしていく流れはなく、むしろ人口が減ったら上げざるを得ないのでと考えています。

【スクールバス】

- ・小学生の子どもは5人いますが、通学の距離がスクールバスの運行条件を満たしていないため、2～3km程度を徒歩で通学しており、特に低学年の子どもや暑い夏場は通学が大変です。

■5-2 集落や集落機能維持のために改善すべき事項とそのために行うべきこと

【公共交通】

- ・路線バスのバス停が集落の端にしかないため、バス停まで歩いて20分程度かかる場所もあります。ワゴン車などの小さな車両でもいいので、区バスが集落内まで入ってくると公共交通を利用しやすくなります。

6 地域農業の就業状況と農業経営について

■6-1 地域農業の担い手の状況

- ・農家は10戸程度で、30代が2人程度、60代が5人程度、70代が6人程度です。
- ・60～70代の人には子どもが働きに出ていて後継者を確保できていない場合も多くみられます。

■6-2 今後の地域農業の維持・振興のために必要と考えること

- ・担い手が減ってきたら、組合などの組織で活動して、機械も使いまわした方が効率良いのではないかと考えています。

■6-3 土地改良の整備状況（区画の大きさ、用排水の状況、汎用化の条件等）と、今後どのようにあるべきか

- ・一区画は概ね20a～30aで、基盤整備は50年程前に実施されました。
- ・さらなる大区画化の要望はあまりありません。

■6-4 農地の受委託の状況や生産の組織化の状況

- ・集落の人は、概ね集落内の農家に委託していますが、集落外の人が近隣の生産組合に委託している場合もあります。集落の農家が減っていけば、農業法人や生産組織に委託することが必要になります。
- ・集落内で生産組織などをつくる動きはありません。

7 農業の経営課題について

■7-1 地域農業に関し、経営面から課題になっていること

- ・儲からないので後継者を確保できない農家が増えています。後継者が確保できない理由として、汚い、辛いといったイメージが残っていることも挙げられます。
- ・農業機械が高価になり、経営を圧迫しています。以前は消毒や堆肥の散布機などの機械の共同利用をしていましたが、利用者が減ったため近年解散しました。
- ・以前は農業機械を使ったジャガイモや人参の栽培も行っていましたが、農業機械が壊れたタイミングで辞めてしまう農家が多くみられました。

■7-2 その課題を解決するために必要な対応や支援

- ・効率よく作業をするためには、大区画のほ場で農業機械を使うしかないと考えています。
- ・農業機械が高価になり、個人で購入するのは難しいため、購入費への補助や融資、市が中心となったリースなどの検討が必要だと考えられます。

1 集落の概況について

■1-1 集落の世帯数の増減の動向やその理由等

- ・人口は減少傾向、世帯数は横ばいで推移しています。

2 生活環境について

■2-1 公共施設、商業施設、事業所、高齢・介護施設、病院、公共交通等の有無

分類	施設の有無	備考
公共施設	×	
商業施設	×	
高齢・介護施設	○	老人ホーム
病院	×	
公共交通	○	民間路線バス（平日 10 往復、休日 6 往復） 住民バス（平日 8 往復、休日運休）
その他	○	運動施設

■2-2 空き家、耕作放棄地の状況

- ・空き家は 1 軒あります。
- ・耕作放棄地はほとんどありません。

■2-3 空き家、耕作放棄地の所有者の把握状況

- ・空き家は所有者によって管理されています。

■2-4 集落内の農作業に関する苦情や相談の状況

- ・特にありません。

3 支え合いについて

■3-1 高齢者のみ世帯の状況

- ・高齢者のみは 2 世帯程度です。

■3-2 独居高齢者の数と状況

- ・高齢者の 1 人暮らしは 2 世帯程度、兄弟や友人、介護ヘルパーなどとの交流がみられ、うち 1 世帯は近くに子どもの分家があります。
- ・生活に困っている様子はみられません。

4 集落行事について

■4-1 年中行事（祭礼、運動会等）とその参加状況

- ・8月に祭りがあり、周辺施設から協賛を得て、子ども会でお神輿などを行っています。
- ・集落の集まりとして総会を行っています。

■4-2 共同作業（江浚い等）の内容と参加状況

- ・春先にU字溝の掃除を行っており、7~8割が参加しています。高齢化に伴い、参加者数は徐々に減少しています。
- ・農家組合の役員が中心となって、除草やゴミ拾いを行っています。

5 集落の課題等について

■5-1 集落を維持するにあたっての問題点や懸案事項

【耕作放棄地】

- ・農業に携わる人がさらに減ると、耕作放棄地が増えて、除草などの管理が困難になることも考えられます。

■5-2 集落や集落機能維持のために改善すべき事項とそのために行うべきこと

【公共交通】

- ・最終バスの時間帯が早く、外出の際に利用しにくくなっています。
- ・路線バスの待合小屋が強風で壊れて、2~3年前に撤去されましたが、住民から再整備の要望があります。周辺集落と協力して整備することも検討しましたが、費用が高く断念しました。
- ・バス利用者が道路を渡る際の安全性を高めるため、バス停に合わせて横断歩道の位置をずらすことを検討しており、警察署とも相談しています。

【人口減少】

- ・集落への新規転入はほとんどありません。市街地や病院も近く、立地としては便利なものの、公共交通の利便性があまり高くないことや、し尿処理場が近くにあることなども足かせとなっているのではないかという意見もあります。

【近隣施設】

- ・近隣にし尿処理施設が立地していますが、地域住民への恩恵が少ないと感じる住民もいます。

6 地域農業の就業状況と農業経営について

■6-1 地域農業の担い手の状況

- ・農業の担い手は8人程度で、周辺集落の2人とあわせて38ha程度を耕作しています。
- ・周辺集落と共同防除なども行っています。

- ・担い手の年齢は、50歳から80歳くらいです。

■6-2 今後の地域農業の維持・振興のために必要と考えること

- ・法人化、組織化など、集落でまとまって営農して人員を確保することが必要だと考えています。
- ・堤外地は段差があったり浸水しやすかったりして営農条件が厳しいですが、もう少し区画を大きく整備すると耕作放棄が減るのではと考えています。

■6-3 土地改良の整備状況（区画の大きさ、用排水の状況、汎用化の条件等）と、今後どのようにあるべきか

- ・一区画の大きさは様々で、基本的には10aや20a、大きいところで30a、小さいと5a未満のところもあります。
- ・農地を所有している世帯でも、農業をせず勤めている場合も多く、大区画化の話をまとめるには時間がかかりますし、資金調達も困難です。

■6-4 農地の受委託の状況や生産の組織化の状況

- ・非農家を含むと、40戸程度が農家組合に入っています。
- ・数年前に生産組織の立ち上げの動きがありましたが、実現には至りませんでした。
- ・耕作条件が良くない堤外地の農地を手放したいという人が少しずつ出てきています。
- ・農地をまとめて管理していくためには、農地を持っている人たちで協力しようという意識を非農家も持つことが必要と考えています。

7 農業の経営課題について

■7-1 地域農業に関し、経営面から課題になっていること

- ・コストと労力に見合ったリターンが得られず、農業に職業としての魅力がないことが担い手不足の要因の一つだと考えています。
- ・耕地が少ないので、面積をまとめて効率的に大規模経営をすることが難しい環境です。
- ・稲作が中心なので、米価が上がるのが最も重要と考えています。

■7-2 その課題を解決するために必要な対応や支援

- ・農家が働いた分がきちんとリターンとしてもらえるような施策が必要と考えています。
- ・ほ場整備を加速させることが必要と考えています。

1 集落の概況について

■1-1 集落の世帯数の増減の動向やその理由等

- ・人口は減少傾向、世帯数は横ばいで推移しています。

2 生活環境について

■2-1 公共施設、商業施設、事業所、高齢・介護施設、病院、公共交通等の有無

分類	施設の有無	備考
公共施設	×	
商業施設	×	
高齢・介護施設	×	
病院	×	
公共交通	○	民間路線バス（平日5往復、休日3往復）
その他	—	

■2-2 空き家、耕作放棄地の状況

- ・管理されていない空き家が4軒程度あります。他にも2軒程度空き家はありますが、持ち主の親戚等が管理しています。

■2-3 空き家、耕作放棄地の所有者の把握状況

- ・委託を受けていた農家が耕作できなくなってしまった農地が荒れて、耕作放棄地となっています。堤外地の占用組合は、耕作できる人がいなくなったため占用権を手放す人がおり、会員は50戸から30戸程度まで減りました。

■2-4 集落内の農作業に関する苦情や相談の状況

- ・特にありません。

3 支え合いについて

■3-1 高齢者のみ世帯の状況

- ・65歳以上の高齢者のみの世帯は集落の半数程度です。

■3-2 独居高齢者の数と状況

- ・75歳以上の1人暮らしは6世帯程度です。
- ・元気な人が多く、生活に困っている様子はありません。

4 集落行事について

■4-1 年中行事（祭礼、運動会等）とその参加状況

- ・春祭りと秋祭りを行っています。
- ・1年おきに、郷土料理をふるまったりする文化祭を開催しています。
- ・小学生は2人、小学生未満は6人程度います。

■4-2 共同作業（江浚い等）の内容と参加状況

- ・江浚いは農家組合と自治会の共同で実施しています。下水と田んぼの排水路をそれぞれ年に2回、計4回行っています。
- ・参加率は高く、60戸程度のうち50戸程度が参加しています。
- ・農道の砂利敷きは農家組合が行っています。
- ・年に3回程度、集落が主導して公園の草刈りや花壇の整備も行っています。

5 集落の課題等について

■5-1 集落を維持するにあたっての問題点や懸案事項

【人口減少】

- ・堤防沿いで土地が低く、水害を懸念して新しく住宅団地をつくるといった構想は出ていません。
- ・子どもを育てる世代が新しく集落に入ってくないことが課題となっています。

■5-2 集落や集落機能維持のために改善すべき事項とそのために行うべきこと

【公共交通】

- ・堤防の上にあるバス停まで登るのが大変なので、集落のなかに小型のバスが入ってほしいという要望があり、区に相談しようと考えています。

【人口減少】

- ・高齢化や人口減少が進んでおり、今はまだ共同作業で成り立っていますが、これから5年、10年くらいで状況は大きく変わり、周囲の集落とも協力する必要性が出てくる可能性があります。

【下水道整備】

- ・集落の一部では下水道が引かれていないところがあります。

6 地域農業の就業状況と農業経営について

■6-1 地域農業の担い手の状況

- ・専業農業は2戸で、1戸は後継者がいません。また、兼業農家が1戸あります。

■6-2 今後の地域農業の維持・振興のために必要と考えること

- ・担い手として、集約型農業、園芸農業などをやりたい人を集落の外から呼び込むことも考えられます。
- ・以前は農協、土地改良区、県などの職員に、自分でも野菜を作っている人が多くいましたが、今はそういう人が少なく、情報を聞いたり相談したりすることが難しい状況です。

■6-3 土地改良の整備状況（区画の大きさ、用排水の状況、汎用化の条件等）と、今後どのようにあるべきか

- ・一区画は基本的には10a程度です。20a、30aにしているのは、専業農家のみです。
- ・ほ場整備は15年程度前に行われました。

■6-4 農地の受委託の状況や生産の組織化の状況

- ・集落の人の多くは、専業農家の2戸に委託しています。
- ・以前は飼料生産組合がありましたが、現在はそのような組織はありません。

7 農業の経営課題について

■7-1 地域農業に関し、経営面から課題になっていること

- ・堤外地では水害が発生しやすく経営が安定しにくい環境です。共済をかけても2~3割程度しか受け取れません。

■7-2 その課題を解決するために必要な対応や支援

- ・農業機械が高く、更新費の負担が大きくなっています。
- ・集落の地理的条件に合わせた安定経営の仕組みなどの情報を教えてもらえると、農業を継続しやすくなります。
- ・米だけの農家は、1人に対して20ha、2人なら40ha程度を耕作しないと経営が成り立たないのではと感じています。

南区 集落D

1 集落の概況について

■1-1 集落の世帯数の増減の動向やその理由等

- ・人口は減少傾向、世帯数はやや増加傾向で推移しています。

2 生活環境について

■2-1 公共施設、商業施設、事業所、高齢・介護施設、病院、公共交通等の有無

分類	施設の有無	備考
公共施設	×	
商業施設	×	
高齢・介護施設	×	
病院	×	
公共交通	○	区バス（平日 1.5 往復、休日運休）
その他	—	

■2-2 空き家、耕作放棄地の状況

- ・空き家は3軒程度あります。
- ・集落の奥に10a程度の耕作放棄地があります。米価がもっと安くなったら、今よりも耕作放棄地が増える可能性があります。

■2-3 空き家、耕作放棄地の所有者の把握状況

- ・空き家の所有者は把握できています。

■2-4 集落内の農作業に関する苦情や相談の状況

- ・特にありません。

3 支え合いについて

■3-1 高齢者のみ世帯の状況

- ・独居以外の高齢者のみの世帯数は把握していません。

■3-2 独居高齢者の数と状況

- ・高齢者の1人暮らしの世帯は1~2世帯で、子どもや親戚との交流がみられます。

4 集落行事について

■4-1 年中行事（祭礼、運動会等）とその参加状況

- ・春と秋に自治会の役員でお宮を祭ることはしますが、昔のように大々的に行うことはなくなりました。
- ・以前は子ども会が主催の祭りも行っていましたが、子どもが減ってきたため現在は行っていません。
- ・小学生は7～8人で、今年の夏にはささやかに花火大会を行いました。

■4-2 共同作業（江浚い等）の内容と参加状況

- ・春に用排水路の江浚いを、農家組合主体で行っています。
- ・農家だけでなく、委託に出している土地の持ち主も参加しており、15人程度が参加しています。人手が減ってきているので、畑や果物を栽培している農家にも参加を呼び掛けています。

5 集落の課題等について

■5-1 集落を維持するにあたっての問題点や懸案事項

【自治会費】

- ・1世帯あたり年間26,000円程度で、自治会費が比較的高くなっています。

■5-2 集落や集落機能維持のために改善すべき事項とそのために行うべきこと

【人口減少】

- ・集落の総会は年2回程度実施しているものの、新興住宅地の住人と以前から住んでいる住人との交流の場が少ない状況です。

6 地域農業の就業状況と農業経営について

■6-1 地域農業の担い手の状況

- ・専業農家は4戸程度です。兼業農家を含めると20戸程度で、半分以上が認定農業者となっています。

■6-2 今後の地域農業の維持・振興のために必要と考えること

- ・新しく集落に入ってきた人が農家になるということは今までにほとんどありません。
- ・山崩れなどの災害の不安が比較的少ないことは良い点と考えています。

■6-3 土地改良の整備状況（区画の大きさ、用排水の状況、汎用化の条件等）と、今後どのようにあるべきか

- ・一区画は10a程度です。ほ場整備はおよそ30年前に行われました。
- ・大区画化には賛同しますが、農家の負担金が生じるのであれば実施する農家は少ないと考えられます。

- ・ 降水が少ない時期は、場所によっては、必要な用水量を確保できず苦勞している人もいます。

■6-4 農地の受委託の状況や生産の組織化の状況

- ・ 今の段階では、集落内で農地を引き受ける余裕のある農家はいます。
- ・ 一方で、隣接する集落の農家に委託している人もみられます。
- ・ 生産組織を作る話は集落内で出たことがありましたが、まとまらず実現しませんでした。

7 農業の経営課題について

■7-1 地域農業に関し、経営面から課題になっていること

- ・ 農業機械の価格が上がっており、更新費の負担が大きくなっています。
- ・ 以前は農協の職員と農家が顔見知りで、お茶を飲みながら情報交換をしたりしていましたが、現在は人事異動で人が入れ替わるため、気軽に相談ができる場が減っています。

■7-2 その課題を解決するために必要な対応や支援

- ・ 最近の農業機械は機能が豊富ですが、必要以上の性能のものもあり、基本性能だけの低価格な農業機械があると経営に応じた選択ができると思われます。行政から補助金などの支援があると農業経営の助けになります。
- ・ このくらいの経営規模なら、このくらいの収入を確保できるなどの目安があると、経営の参考にできると考えています。
- ・ 小規模な農家に対しても営農を継続できるような支援があるとよいと考えています。

西区 集落E

1 集落の概況について

■1-1 集落の世帯数の増減の動向やその理由等

- ・人口は減少傾向で、世帯数はやや増加傾向で推移しています。
- ・ここ数年で集落外からの転入は2人程度です。

2 生活環境について

■2-1 公共施設、商業施設、事業所、高齢・介護施設、病院、公共交通等の有無

分類	施設の有無	備考
公共施設	×	
商業施設	×	
高齢・介護施設	×	
病院	×	
公共交通	×	集落内にバス停なし。 近隣集落で高速バスや民間路線バスが運行。
その他	—	

■2-2 空き家、耕作放棄地の状況

- ・空き家は2軒程度あります。
- ・耕作放棄地はありません。

■2-3 空き家、耕作放棄地の所有者の把握状況

- ・空き家の所有者は把握できており、管理されています。

■2-4 集落内の農作業に関する苦情や相談の状況

- ・枝豆の収穫時期は、夜中からトラクターで往復するため、騒音の苦情がありました。また、枝豆を収穫した後の葉っぱを集落の近くに山積みにしたことがあり、においや虫で苦情があったため、現在は住宅から離れた場所を使用するようにしています。

3 支え合いについて

■3-1 高齢者のみ世帯の状況

- ・高齢者のみの世帯は6世帯程度です。

■3-2 独居高齢者の数と状況

- ・そのうち1人暮らしの高齢者は2人程度です。
- ・生活に困っている様子はみられません。

4 集落行事について

■4-1 年中行事（祭礼、運動会等）とその参加状況

- ・4月と8月に祭りがあります。また、毎年10月の第1日曜日に地蔵講を行い、お経をあげています。
- ・以前は地区対抗の運動会を行っていましたが、実施しなくなったため、代わりに集落のゴミ拾いなどを行うクリーン作戦を集落全体で行っており、80人程度が参加しています。
- ・集落の小学生は12人程度です。

■4-2 共同作業（江浚い等）の内容と参加状況

- ・江浚いは農家組合で年3回程度実施しています。基本的には、農家は各戸1名以上が参加しています。

5 集落の課題等について

■5-1 集落を維持するにあたっての問題点や懸案事項

【自治会費】

- ・自治会費が高額で、その使い道などが問題視されていましたが、現在は改善しています。

■5-2 集落や集落機能維持のために改善すべき事項とそのために行うべきこと

【自治会運営】

- ・市から自治会に依頼される仕事が増加しており、住民の負担が増えていると感じています。一方で、人口減少や定年年齢の延長などで、自治会の役員をする人が減り、人員の確保が難しい状況です。

6 地域農業の就業状況と農業経営について

■6-1 地域農業の担い手の状況

- ・後継者不足が深刻化しています。
- ・生産組合の組合員数は減少が続いており、現在は25戸程度が参加しています。
- ・昔から枝豆を中心とした複合営農を行ってきた地域です。枝豆は収益性がありますが、夜間や早朝の作業があるため、昼夜逆転する生活となることから、高齢になると体力的にも継続することが難しく、新規の担い手の確保も厳しい状況です。
- ・専業農家は少なく、冬場は勤めに出る農家が多くなっています。

■6-2 今後の地域農業の維持・振興のために必要と考えること

- ・今後、さらに地域内農地の活用を進めるためには、新技術を導入できるようなほ場形態ではないため、ほ場整備が必要と考えています。例えば、自動の水管理システムを導入するためには、現在のU字溝で水を引く形ではなく、パイプライン方式等で必要な水が一定量必ず入るといった条件が整わないと使用できません。

■6-3 土地改良の整備状況（区画の大きさ、用排水の状況、汎用化の条件等）と、今後どのようにあるべきか

- ・一区画は10aが基本となっています。
- ・農地の不具合は、江浚い等を行って、その都度、修復しています。

■6-4 農地の受委託の状況や生産の組織化の状況

- ・農地中間管理機構の活用や個人の受委託により、集落内のほぼすべての農地を集落内で引き受けています。
- ・生産組合はライスセンターを共同利用していますが、あくまで農家が個々に乾燥調製を行っています。以前、田植え機の共同利用も検討したことがありましたが、転作の関係で田んぼが飛び飛びになったり、別の作物を作付けした事などから、実現に至りませんでした。

7 農業の経営課題について

■7-1 地域農業に関し、経営面から課題になっていること

- ・ある程度生産の形態はできていますが、それを受け継ぎ、少しずつでも規模拡大してくれるような後継者の確保の見込みが立っていません。
- ・枝豆は、A品の価格を保つため、C品は販売せず堆肥化しています。農商工連携ということで、食品加工企業へ働きかけはしていますが、C品でも他の枝豆より単価が高いこともあり、材料として使ってくれる企業が見つからない状況です。

■7-2 その課題を解決するために必要な対応や支援

- ・農家が独自でそれぞれ販売を行っているため、枝豆のブランドの確立が課題となっています。他県では知事をはじめとして県を挙げて市場への売り込みをしているところもあり、生産者の努力だけでなく、行政や農協のバックアップが必要だと考えています。
- ・リスク分散として、ブロッコリーやチェーリップなどを栽培する農家もいます。

1 集落の概況について

■1-1 集落の世帯数の増減の動向やその理由等

- ・人口、世帯数ともに横ばいで推移しています。

2 生活環境について

■2-1 公共施設、商業施設、事業所、高齢・介護施設、病院、公共交通等の有無

分類	施設の有無	備考
公共施設	×	
商業施設	×	
高齢・介護施設	×	
病院	×	
公共交通	×	集落内にバス停なし。近隣で区バスが運行。
その他	○	事業所が7軒程度あり。

■2-2 空き家、耕作放棄地の状況

- ・空き家は6軒程度です。
- ・耕作放棄地はありません。

■2-3 空き家、耕作放棄地の所有者の把握状況

- ・空き家のうち4軒は親戚等が管理を行っていますが、2軒は所有者が不明です。

■2-4 集落内の農作業に関する苦情や相談の状況

- ・特にありません。

3 支え合いについて

■3-1 高齢者のみ世帯の状況

- ・70歳以上の高齢者のみ世帯は5世帯程度です。

■3-2 独居高齢者の数と状況

- ・75歳以上の高齢者の1人暮らしは4世帯程度です。子どもなどが訪れている様子がみられます。

4 集落行事について

■4-1 年中行事（祭礼、運動会等）とその参加状況

- ・春と秋に祭りを行っており、8割程度の住人が参加しています。
- ・地域で大運動会を実施しており、60人程度が参加していましたが、新型コロナウイルスの影響で近年は中止となっています。

■4-2 共同作業（江浚い等）の内容と参加状況

- ・春先に生活排水路と農業用排水路の江浚いを行っています。50人程度が参加しています。
- ・春と秋に、集落内の一斉清掃を行っています。

5 集落の課題等について

■5-1 集落を維持するにあたっての問題点や懸案事項

【不法投棄】

- ・家庭ゴミ等の不法投棄がみられ、警察に相談したり、子どもたちが書いた呼びかけのポスターを貼るなどの対策を行っています。

【空き家の管理】

- ・住宅の敷地内の木の枝が道路へはみだして、通行の支障となっているところがあります。特に空き家に大きい木がありますが、勝手に切れないため伸び放題となっています。

■5-2 集落や集落機能維持のために改善すべき事項とそのために行うべきこと

【空き家の管理】

- ・集落で所有者を把握していない空き家については、行政から所有者に集落の要望を伝えて、対処を依頼してもらうことが必要と考えています。また、空き家からはみだして安全面に影響がある木などは、集落が代わりに伐採することが可能か、行政と相談したいと考えています。

6 地域農業の就業状況と農業経営について

■6-1 地域農業の担い手の状況

- ・法人が集落の農地をまとめて営農を行っています。法人の経営面積は70ha程度で、新たな農地を受け入れる余裕があります。
- ・法人のほかには、米農家が13戸程度あります。

■6-2 今後の地域農業の維持・振興のために必要と考えること

- ・米価の下落が収入に大きく影響しており、資金繰りが困難となっているため、米以外の大豆などの作付けを増やす方針です。

■6-3 土地改良の整備状況（区画の大きさ、用排水の状況、汎用化の条件等）と、今後どの

ようにあるべきか

- ・一区画 1.2ha のほ場整備が完了しています。
- ・ほ場整備から 10 年以上経っているところもあるため、陥没などが生じてきており、土地改良区の担当者に相談しています。

■6-4 農地の受委託の状況や生産の組織化の状況

- ・法人で新しく農地を引き受ける場合は、水稻を増やさず大豆などに転作する方針としています。大豆のコンバインなどの農業機械に稼働の余力があるため、できるだけ活用したいと考えています。農地の取りまとめの窓口は JA が担ってくれています。

7 農業の経営課題について

■7-1 地域農業に関し、経営面から課題になっていること

- ・米価の下落が収入に大きく影響しており、資金繰りが困難となっています。(再掲)

■7-2 その課題を解決するために必要な対応や支援

- ・枝豆や園芸などの高収益な作物の作付けにも取り組みましたが、やはり手間がかかり、繁忙期が米と重なるため人手が足りず続きません。
- ・農業機械が高性能になり、価格が高くなって更新費の負担が大きいため、規模拡大などの条件がない、機械購入の補助制度が求められます。
- ・農薬や肥料のドローン散布を行っており、作業が楽になりました。今後は、ドローンを活用した作業の委託を受けることも検討しています。

4. アンケート調査結果

表2 各問の掲載ページ及び掲載するクロス集計

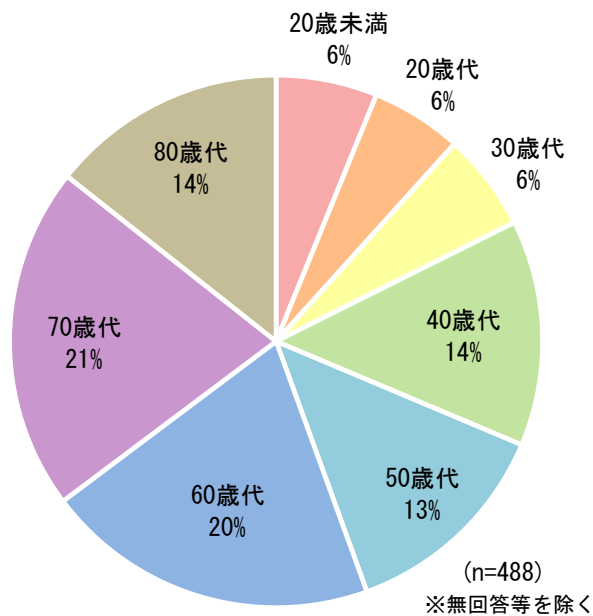
設問	掲載ページ	クロス集計				
		年代	性別	農家が	住所の履歴	後継者の有無
1 あなたご自身のことを教えてください						
問1 年代	27					
問2 性別	27	●				
問3 普段の状況（職業・学生等）	28	●				
問4 あなたの家は農家か	29					
問5 住所の履歴	30	●	●	●		
問6 世帯員数（住民登録に係わず実際の同居人数）	32	●				
問7 就業・就学の場所	33	●	●			
2 集落の概況について教えてください						
問8 就業・就学先への主な移動方法	35	●	●			
問9 日用品や食料品等の購入場所	37	●	●			
問10 集落内の農家戸数の変化が集落活動に及ぼした変化や影響	40	●	●	●		
3 あなたが感じる集落（地域）の魅力や誇りにについて教えてください						
問11 お住まいの集落（地域）への愛着の有無	44	●	●		●	
問12 お住まいの集落（地域）の魅力や誇りに思うこと	46	●	●	●	●	
4 生活上の問題点と思うことについて教えてください						
問13 集落内で問題と思うことや困っていること	51	●	●			
問14 集落や集落機能を良くするために必要なこと	55	●	●		●	
問15 その他集落における課題やご意見等（自由記載）	61					
5 あなたの農業の就業状況と農業経営について教えてください （以下は、農業を営んでおられる方のみ回答）						
問16 農業経営で、いま課題となっていること	68			●		●
問17 農業の後継者の有無	71	●		●		
問18 今後（5～10年）の農業経営について	73	●				●
問19 集落の農業を持続的に発展させるために必要な施策	76	●				
問20 現在（本年度）の営農形態と経営面積 （経営者または経営の代表者の方のみ回答）	79					
問21 耕作する農地の整備状況 （経営者または経営の代表者の方のみ回答）	82	●		●		●
問22 今後の農業経営についての課題やご意見等（自由記載） （農業経営に関わっておられる世帯員の方全員が回答）	87					

※各問の回答比率は、端数処理の関係で合計値が100%とならない場合がある。

1 あなたご自身のことを教えてください。

問1. あなたの年代を教えてください。

- ・30歳代以下の割合が低い。

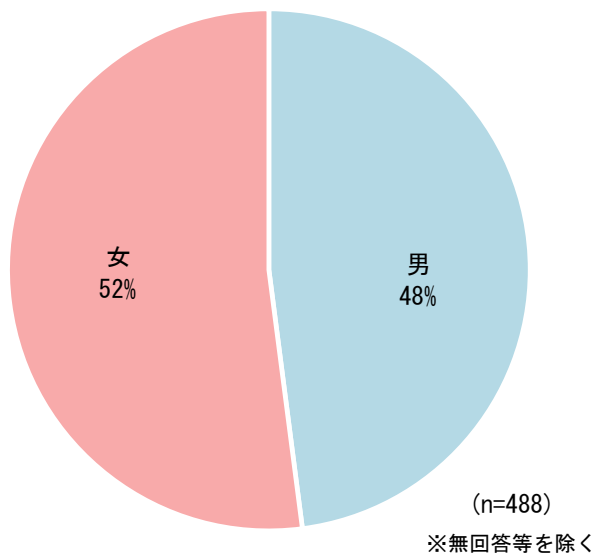


項目	回答数	比率
20歳未満	30	6%
20歳代	27	6%
30歳代	29	6%
40歳代	67	14%
50歳代	64	13%
60歳代	99	20%
70歳代	102	21%
80歳代	70	14%
計	488	100%

図7 年代

問2. あなたの性別を教えてください。

- ・回答者の性別は、男女でおおよそ半々となっている。



項目	回答数	比率
男	234	48%
女	254	52%
計	488	100%

図8 性別

【クロス集計：年代】

・年代による差はみられない。

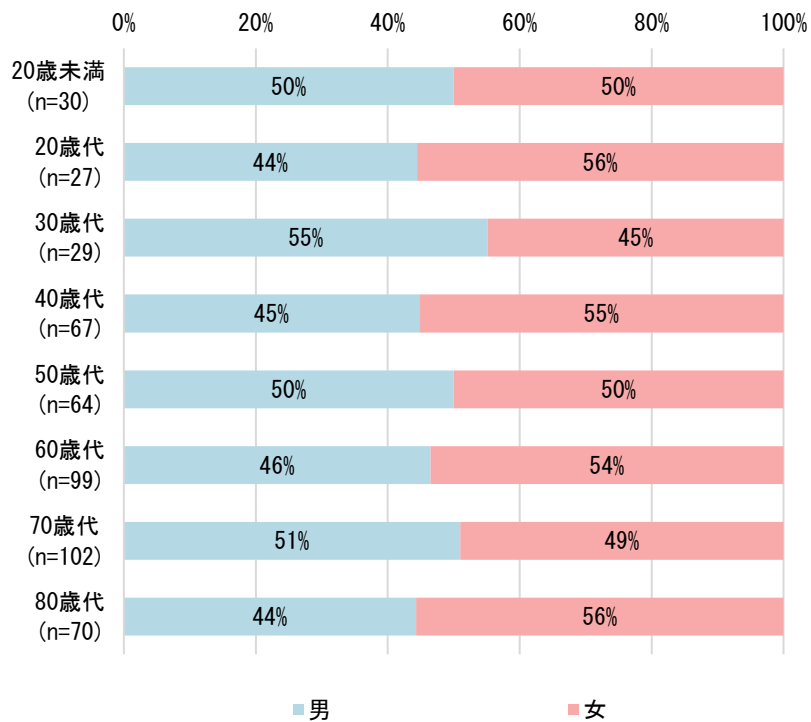
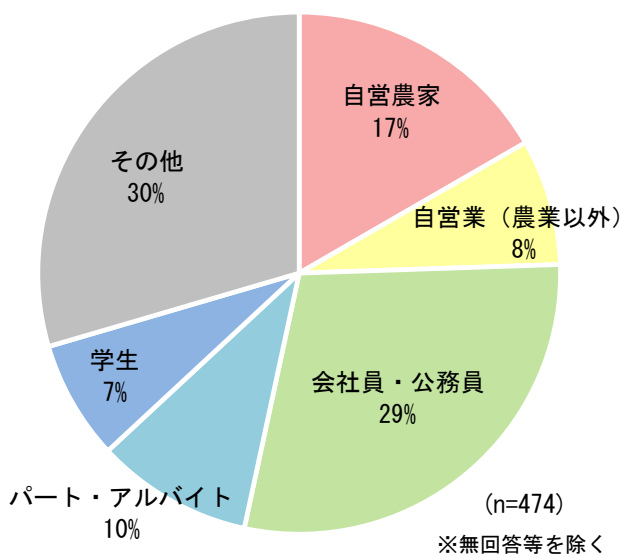


図9 性別（年代別）

問3. あなたの普段の状況を教えてください。

・「自営農家」は17%となっている。



項目	回答数	比率
自営農家	79	17%
農業法人等の役員または従業員	0	0%
自営業 (農業以外)	37	8%
会社員・公務員	137	29%
パート・アルバイト	46	10%
学生	35	7%
その他	140	30%
計	474	100%

■その他の主な内容

項目	回答数
無職	68
主婦	24

図10 普段の状況

【クロス集計：年代】

・年代が高いほど、「自営農家」の割合が高くなる傾向がみられる。

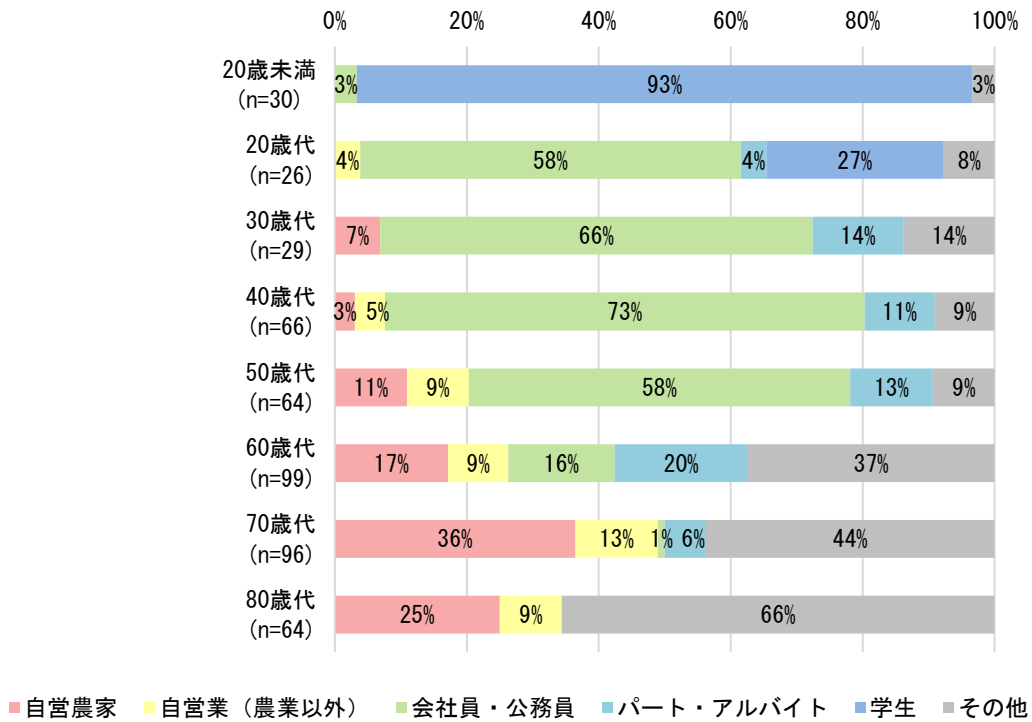


図 11 普段の状況（年代別）

問 4. あなたの家は農家ですか。

- ・「現在も農家」「第1種兼業」「第2種兼業」「自給的農家」の合計は46%で、約半数が農家となっている。
- ・「もともと農家ではない」が36%、「以前は農家だった」が17%となっており、農村集落の約半数が現在は農業に携わっていない住民となっている。

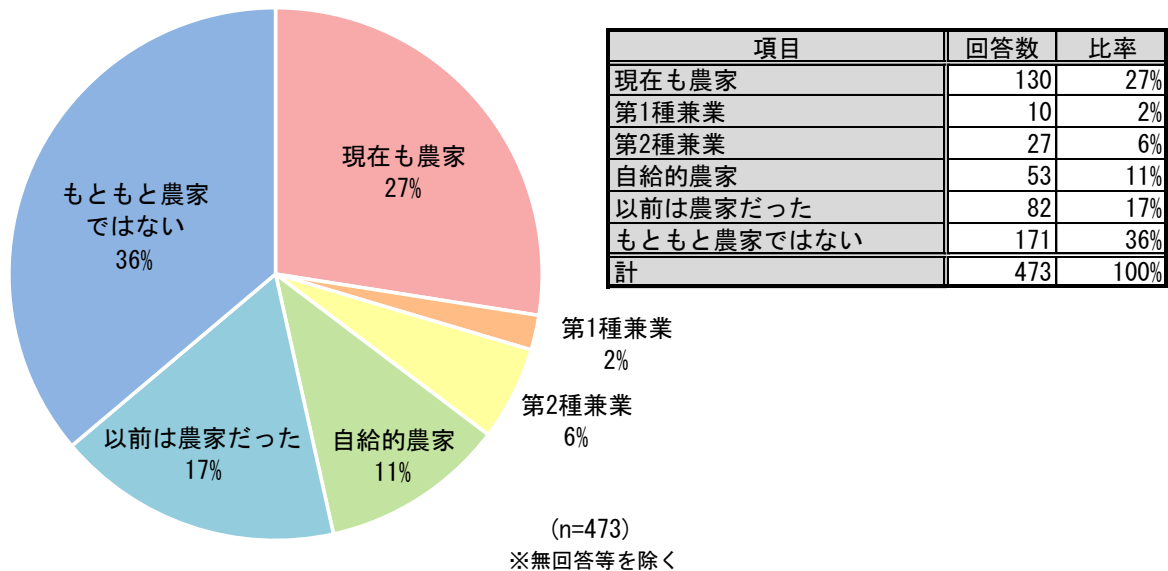
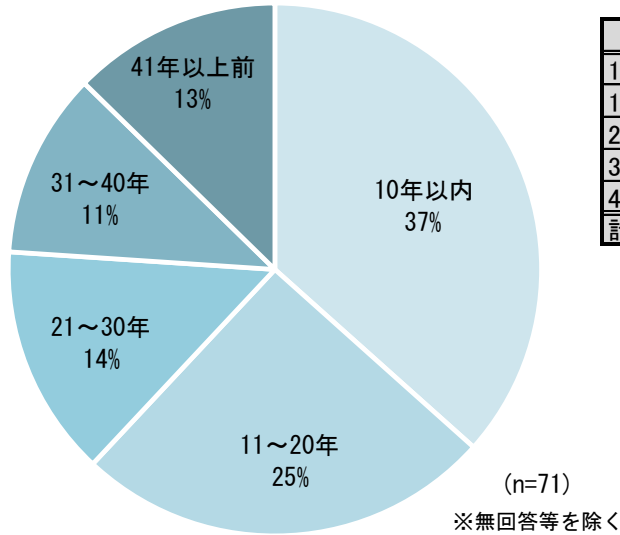


図 12 あなたの家は農家か

【問4で「以前は農家だった」を選んだ人のみ回答】

■農家をやめてから何年程度か。

- ・農家をやめてからの年数が少ないほど割合が高くなっており、離農する家が増加傾向にあると考えられる。

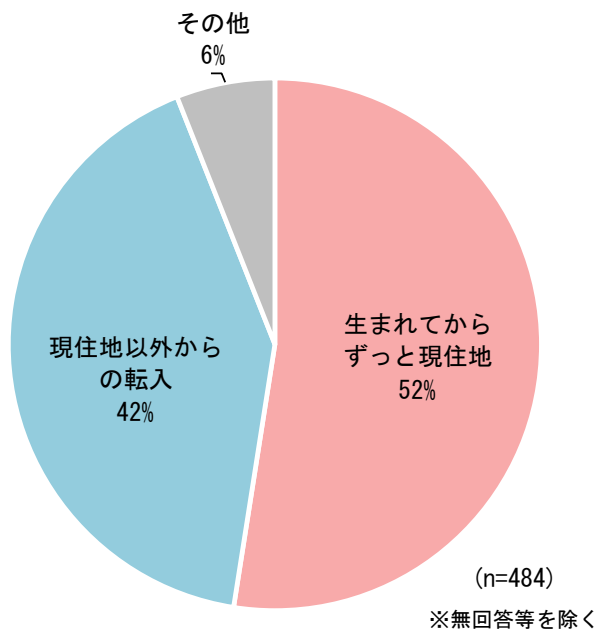


項目	回答数	比率
10年以内	26	37%
11～20年	18	25%
21～30年	10	14%
31～40年	8	11%
41年以上前	9	13%
計	71	100%

図13 農家をやめてから何年程度か

問5. あなたの住所の履歴を教えてください。

- ・「生まれてからずっと現住地」と「現住地以外からの転入」はおおよそ半々となっている。



項目	回答数	比率
生まれてからずっと現住地	254	52%
現住地以外からの転入	201	42%
その他	29	6%
計	484	100%

■その他の主な内容

項目	回答数
一度転出して戻ってきた	13
結婚を機に転入	9

図14 住所の履歴

【クロス集計：年代】

- ・ 20 歳代以下は「生まれてからずっと現住地」の割合が他の年代よりも高い。

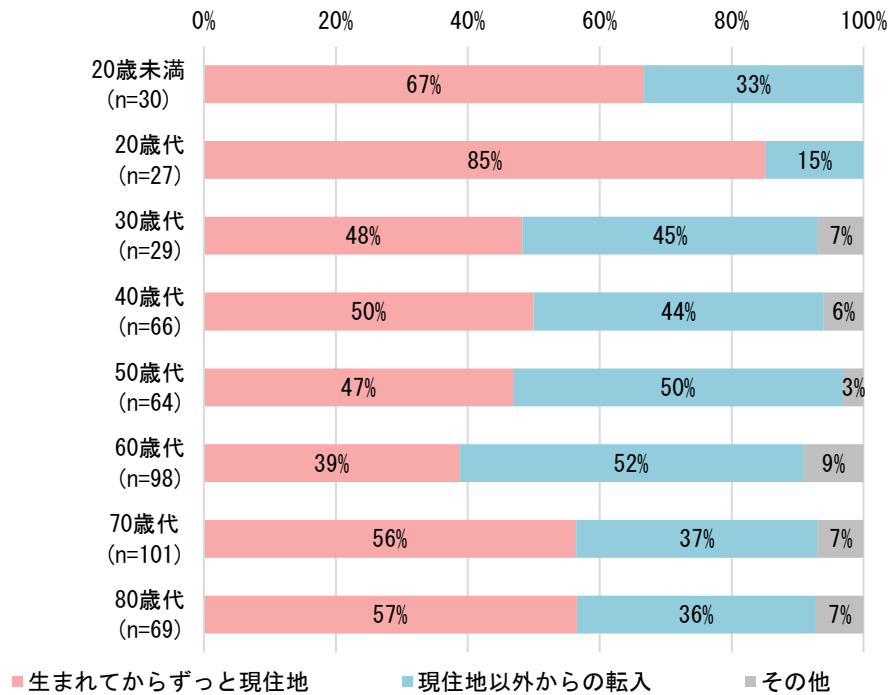


図 15 住所の履歴（年代別）

【クロス集計：性別】

- ・ 男性は「生まれてからずっと現住地」の割合が 72% で最も高い一方で、女性は「現住地以外からの転入」の割合が 59% で最も高くなっており、性別による差が大きい理由としては、女性は男性よりも結婚を機に転入・転出する人が多いことが考えられる。

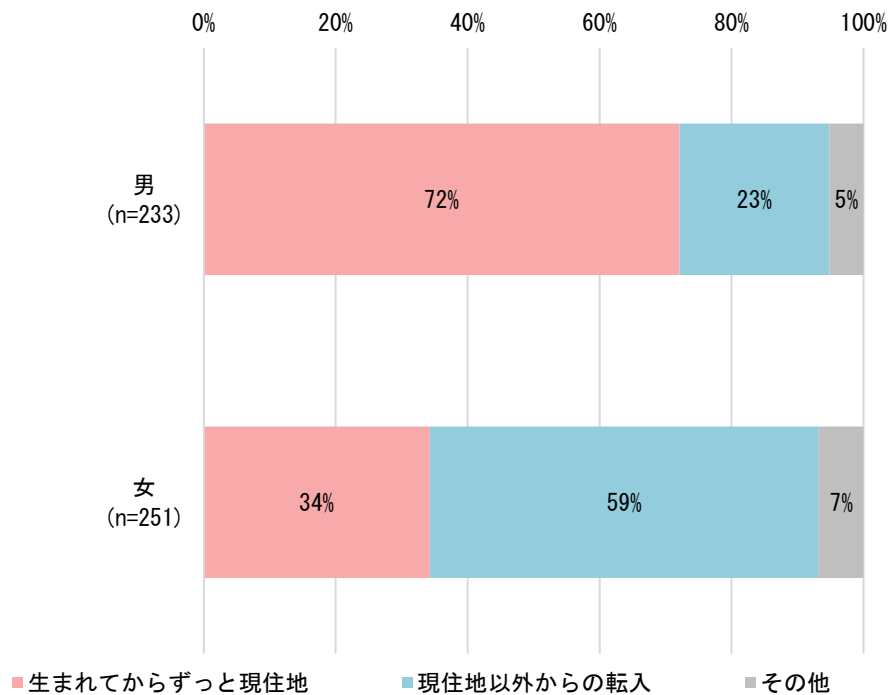


図 16 住所の履歴（男女別）

【クロス集計：あなたの家は農家か】

- ・「現住地以外からの転入」の割合は、「もともと農家ではない」と回答した人は57%で半数以上となっている一方で、「現在も農家」「第1種兼業」「第2種兼業」「自給的農家」と回答した人は3~4割となっており、農家は転入・転出が比較的少ないと考えられる。

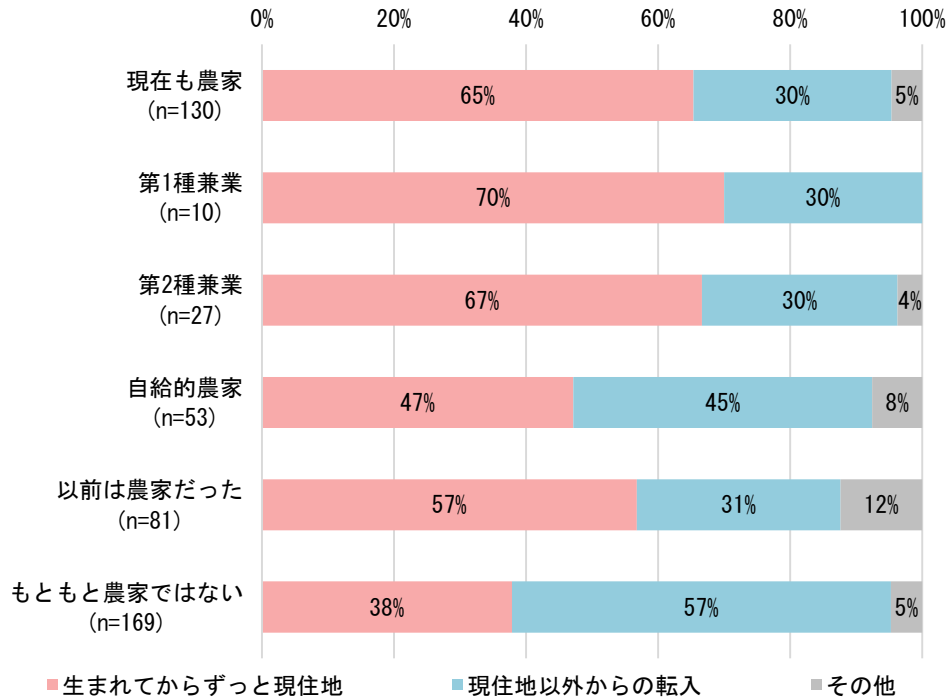
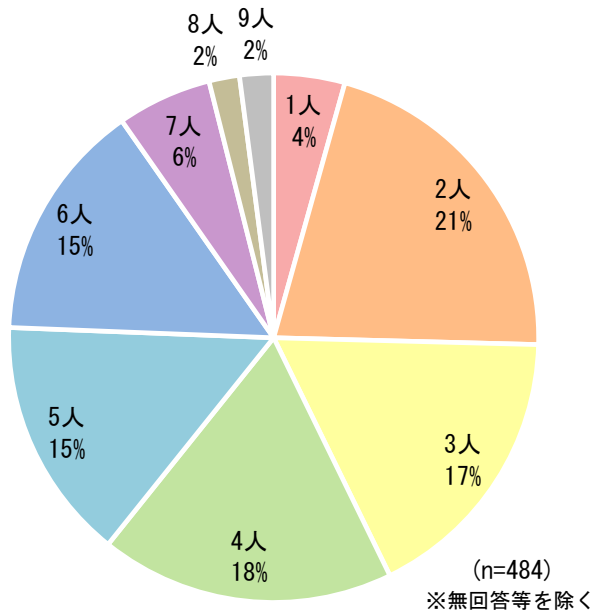


図 17 住所の履歴（あなたの家は農家かの回答別）

問 6. あなたの世帯の世帯員数（住民登録に係わらず実際の同居人数）を教えてください。（あなたを含めて）

- ・世帯員数は、「2人」から「6人」がそれぞれ15~21%となっている。世帯員数が「1人」の単身世帯の人は4%となっている。



項目	回答数	比率
1人	21	4%
2人	102	21%
3人	84	17%
4人	87	18%
5人	72	15%
6人	71	15%
7人	28	6%
8人	9	2%
9人	10	2%
計	484	100%

図 18 世帯員数

【クロス集計：年代】

- ・ 60 歳代から 2 人世帯が増加する。

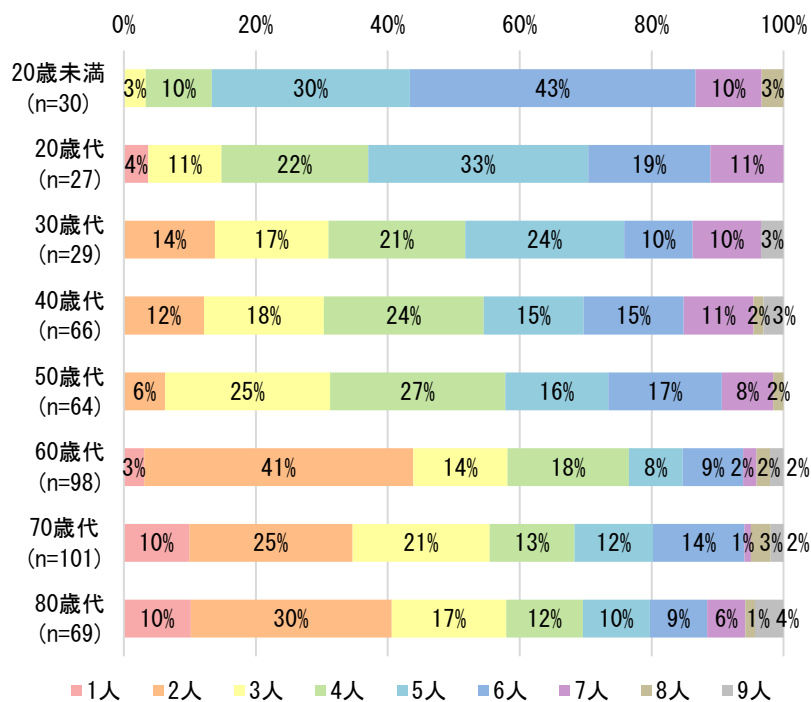


図 19 世帯員数（年代別）

問 7. あなたの就業・就学の場所を教えてください。

- ・ 「近隣以外（車で 20 分以上）で就業・就学」の割合が 41%で最も高く、次いで「近隣（車で 15 分程度まで）で就業・就学」が 33%、「集落内で就業・就学」が 26%となっている。

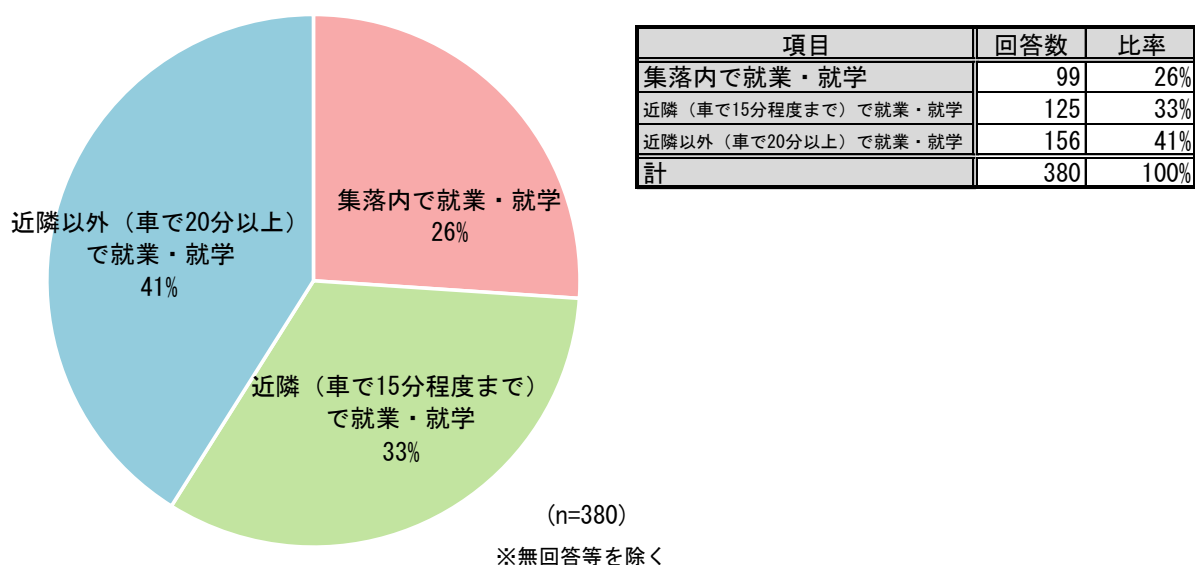


図 20 就業・就学の場所

【クロス集計：年代】

・年代が高いほど、「集落内で就業・就学」の割合が高くなる傾向がみられる。20歳代以下は、「近隣以外（車で20分以上）で就業・就学」が7割を超えている。

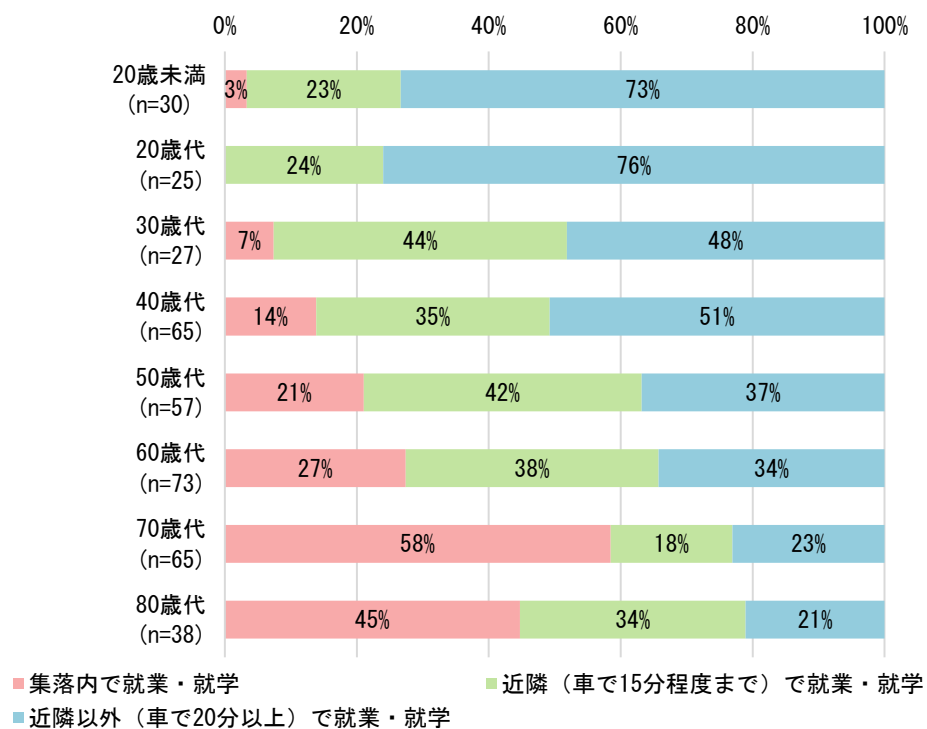


図 21 就業・就学の場所（年代別）

【クロス集計：性別】

・女性は男性と比較して「近隣（車で15分程度まで）で就業・就学」の割合が高い。

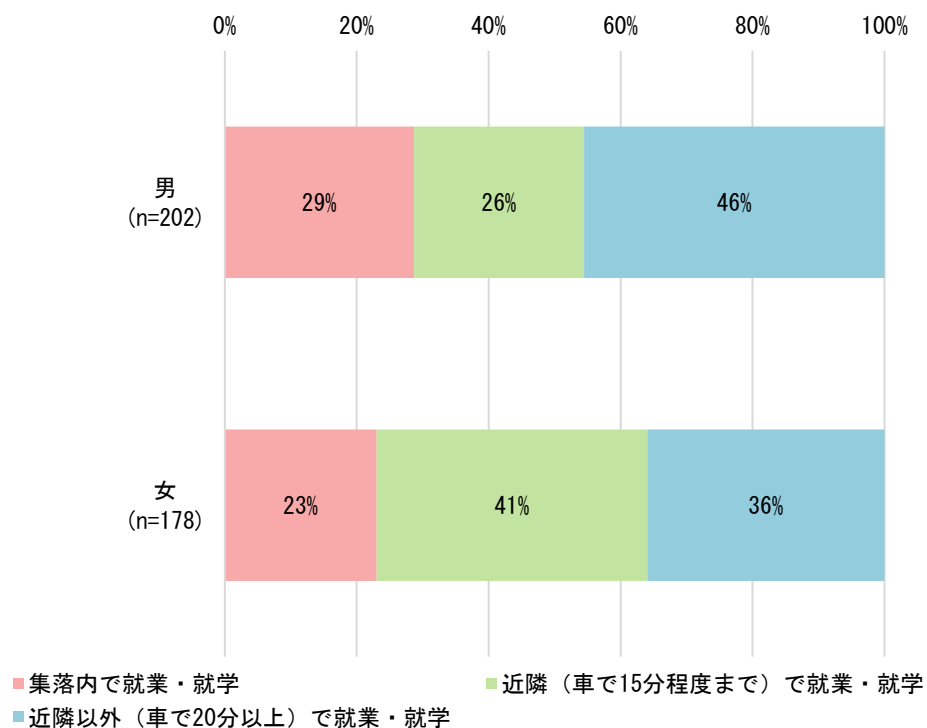


図 22 就業・就学の場所（男女別）

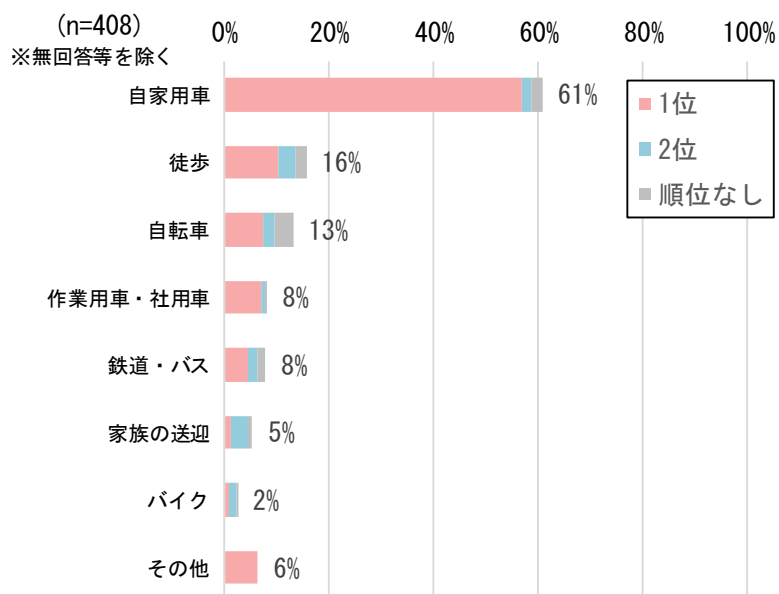
2 集落の概況について教えてください

問8. あなたの就業・就学先への主な移動方法を教えてください。

※2つまで（第1位：◎ 第2位：○）

※○が2つの場合は順位なしで集計

- ・「自家用車」と回答した人の割合が61%で最も高く、次いで「徒歩」が16%、「自転車」が13%となっている。



項目	1位	2位	順位なし	計	
	回答数	回答数	回答数	回答数	比率
自家用車	232	7	9	248	61%
徒歩	42	14	8	64	16%
自転車	31	8	15	54	13%
作業用車・社用車	29	3	1	33	8%
鉄道・バス	18	8	6	32	8%
家族の送迎	5	13	4	22	5%
バイク	4	5	1	10	2%
その他	26	0	0	26	6%
サンプル数	—	—	—	408	—

■その他の主な内容

項目	回答数
移動なし	16
自宅外から通勤・通学	3

図 23 就業・就学場所への主な移動方法

【クロス集計：年代】

・20歳未満は、「鉄道・バス」や「家族の送迎」の割合が高くなっている。

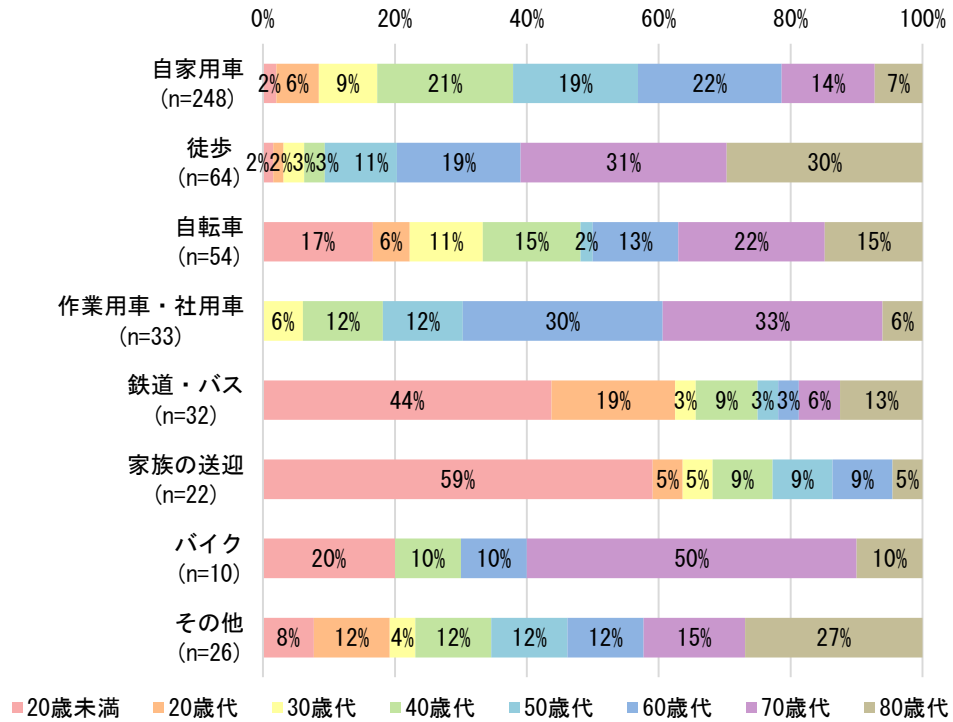


図 24 就業・就学場所への主な移動方法（年代別内訳）

【クロス集計：性別】

- ・「自家用車」「自転車」については、性別による差はあまりみられない。
- ・「鉄道・バス」「家族の送迎」は、女性の割合が比較的高い。

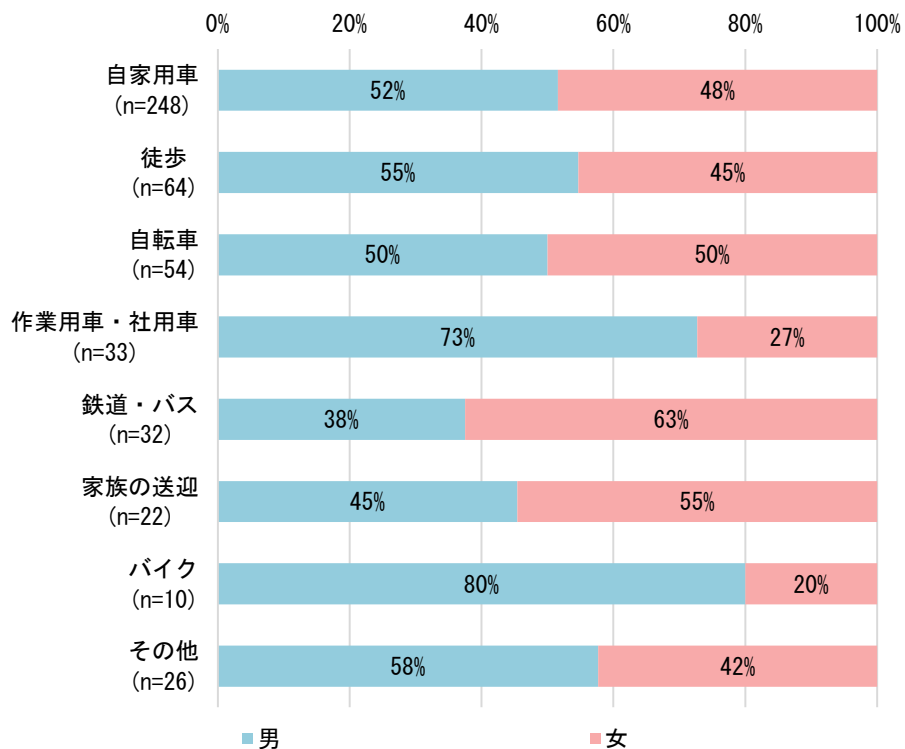
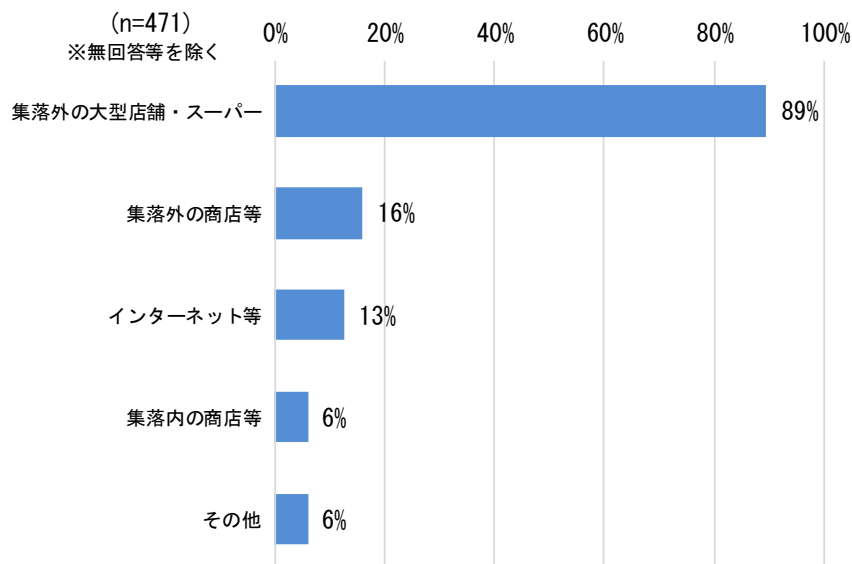


図 25 就業・就学場所への主な移動方法（男女別内訳）

問9. あなたは日頃、日用品や食料品等をどこで買っていますか。(複数回答可)

- ・「集落外の大型店舗・スーパー」の割合が最も高く、約9割を占めている。「集落内の商店等」の割合は6%で、最も低くなっている。



項目	回答数	比率
集落外の大型店舗・スーパー	421	89%
集落外の商店等	75	16%
インターネット等	59	13%
集落内の商店等	28	6%
その他	28	6%
サンプル数	471	—

■その他の主な内容

項目	回答数
家族が買う	6
生協	4
宅配コープ	2
直売所	2

図 26 日用品や食料品等の購入場所

【クロス集計：年代】

- ・40歳代以下は、「インターネット等」の割合が高くなっている。
（回答者全体の年齢構成割合との比較による。）

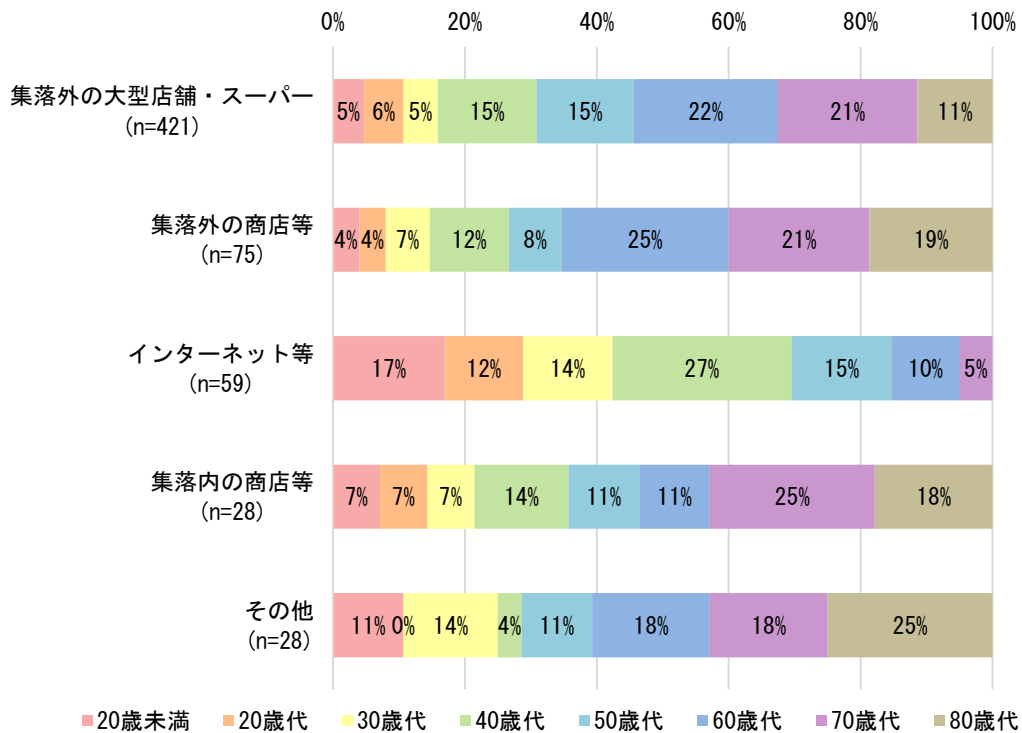


図 27 日用品や食料品等の購入場所（年代別内訳）

【クロス集計：性別】

- ・「集落内の商店街等」「インターネット等」は、女性の割合が比較的高い。

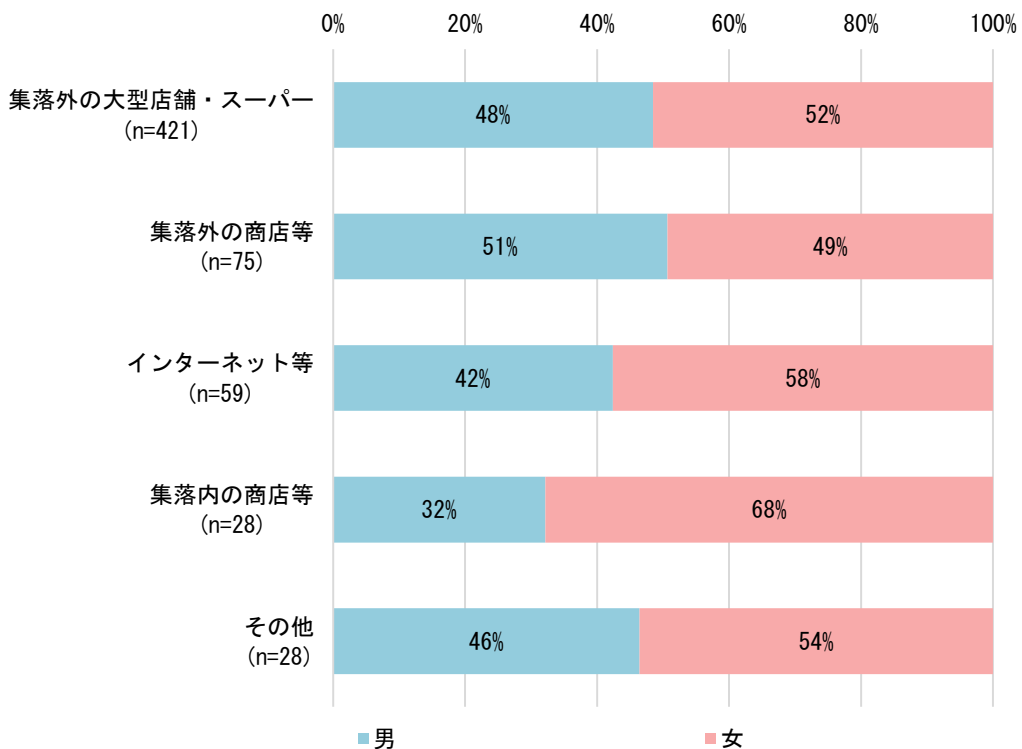


図 28 日用品や食料品等の購入場所（男女別内訳）

[参考] 回答数に占める割合を集計

※ (n=000) : 回答者数、[000] : 回答数

【クロス集計：年代】

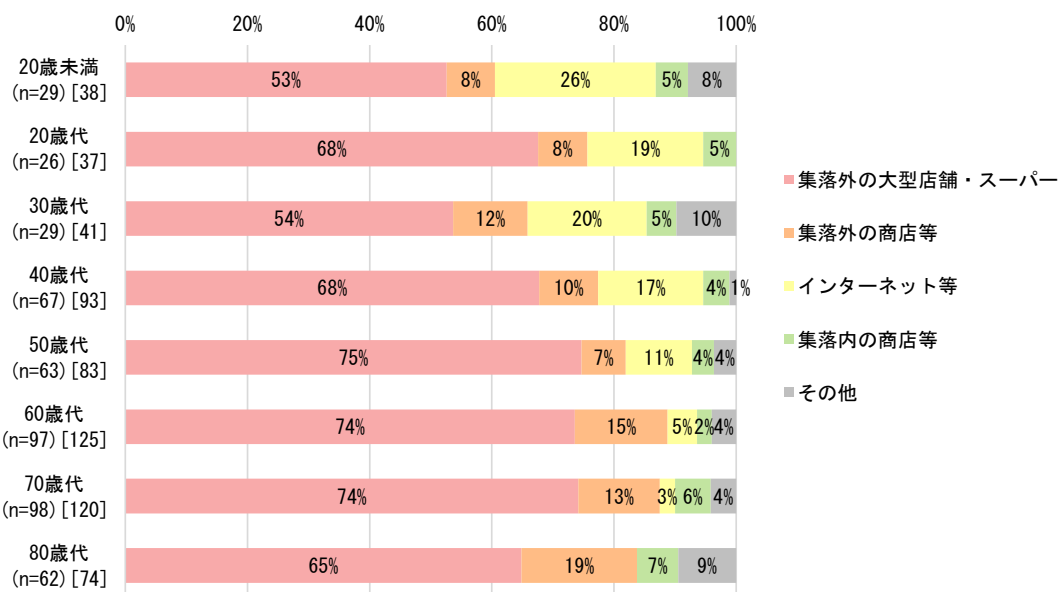


図 29 日用品や食料品等の購入場所（年代別）

【クロス集計：性別】

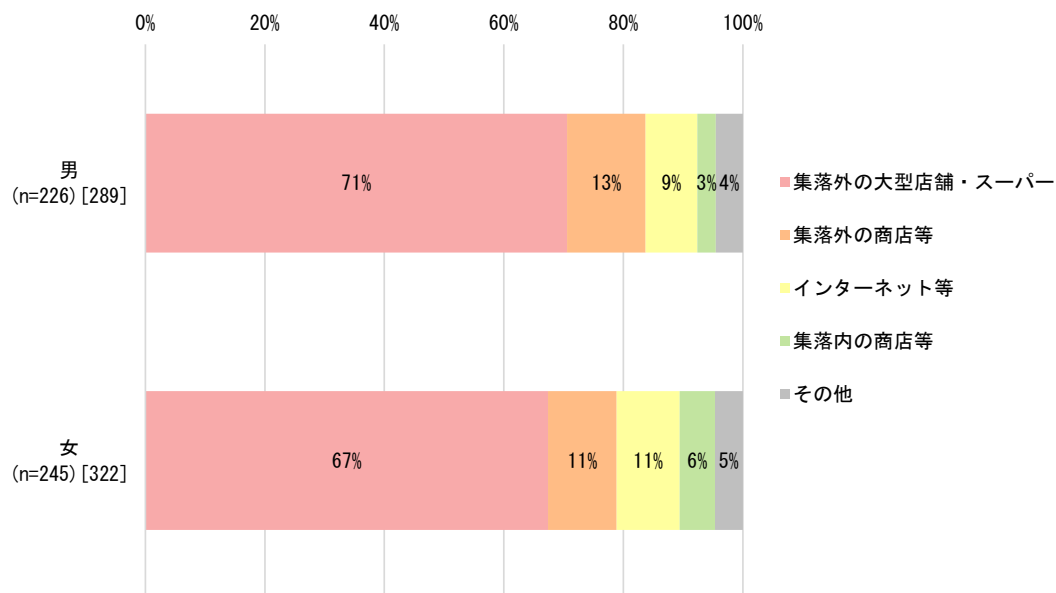
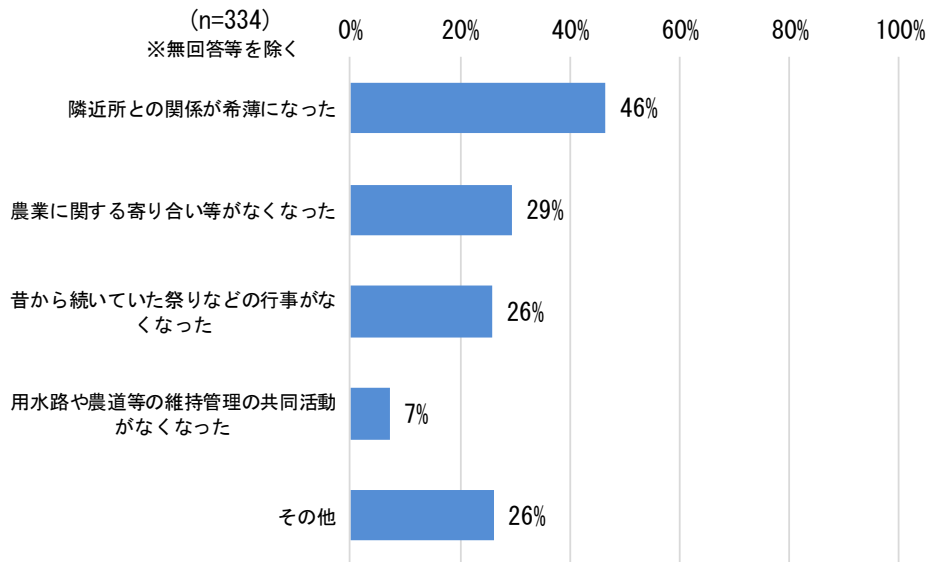


図 30 日用品や食料品等の購入場所（男女別）

問10. あなたの集落で農家戸数の変化が集落活動に及ぼした変化や影響があったと思える事柄があれば教えてください。(複数回答可)

- ・「隣近所との関係が希薄になった」の割合が46%で最も高く、農家戸数の変化によって集落の住民間での交流が減っていると考えられる。



項目	回答数	比率
隣近所との関係が希薄になった	155	46%
農業に関する寄り合い等がなくなった	98	29%
昔から続いていた祭りなどの行事がなくなった	86	26%
用水路や農道等の維持管理の共同活動がなくなった	24	7%
その他	87	26%
サンプル数	334	—

■その他の主な内容

項目	回答数
なし/分からない	42
コロナの影響がある	8
役員等の担い手が不足している	5
少子高齢化・人口減少が進んでいる	5
行事等の回数が減った	4

図 31 集落内の農家戸数の変化が集落活動に及ぼした変化や影響

【クロス集計：年代】

・「用水路や農道等の維持管理の共同活動がなくなった」は、60歳代、70歳代の割合が高い。

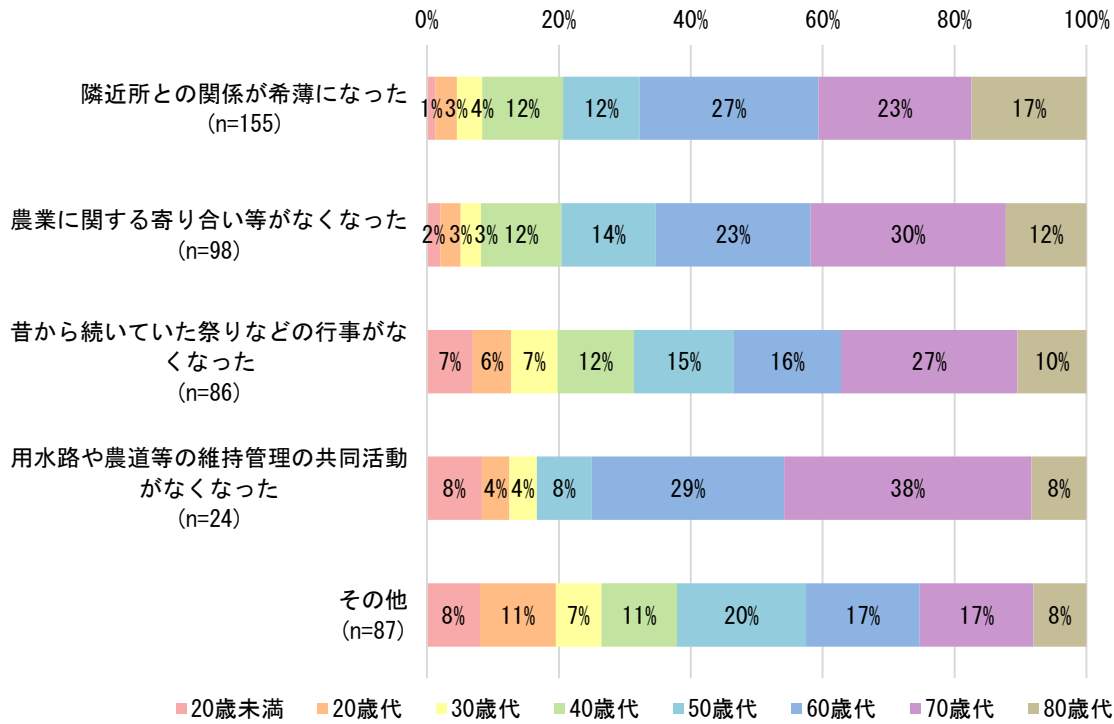


図 32 集落内の農家戸数の変化が集落活動に及ぼした変化や影響（年代別内訳）

【クロス集計：性別】

・「農業に関する寄り合い等がなくなった」や「用水路や農道等の維持管理の共同活動がなくなった」は、男性の割合がやや高い。

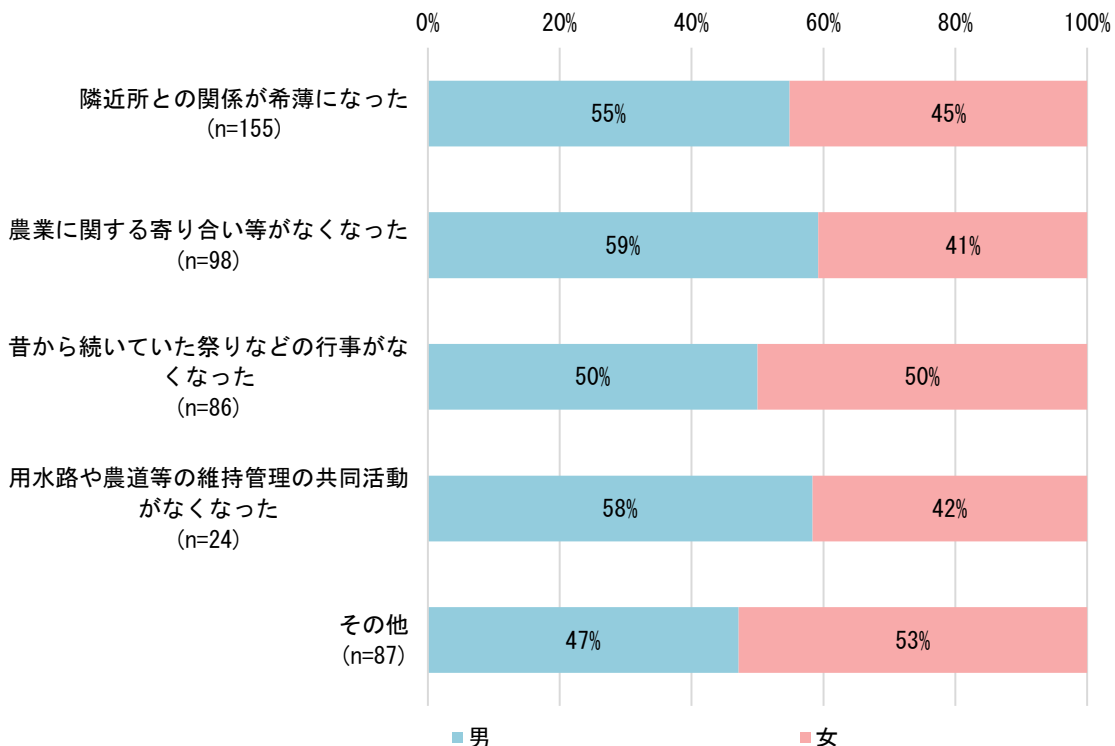


図 33 集落内の農家戸数の変化が集落活動に及ぼした変化や影響（男女別内訳）

【クロス集計：あなたの家は農家か】

・「農業に関する寄り合い等がなくなった」は、「現在も農家」の割合が高い。

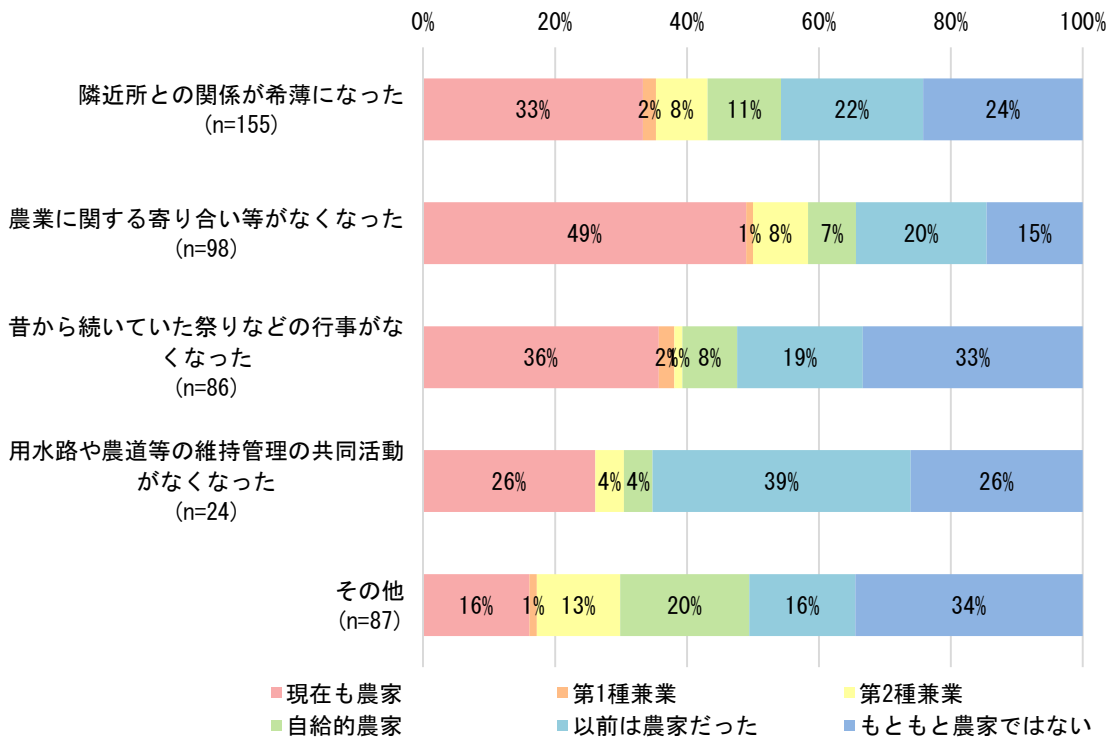


図 34 集落内の農家戸数の変化が集落活動に及ぼした変化や影響 (あなたの家は農家かの回答別内訳)

[参考] 回答数に占める割合を集計

※ (n=000) : 回答者数、[000] : 回答数

【クロス集計：年代】

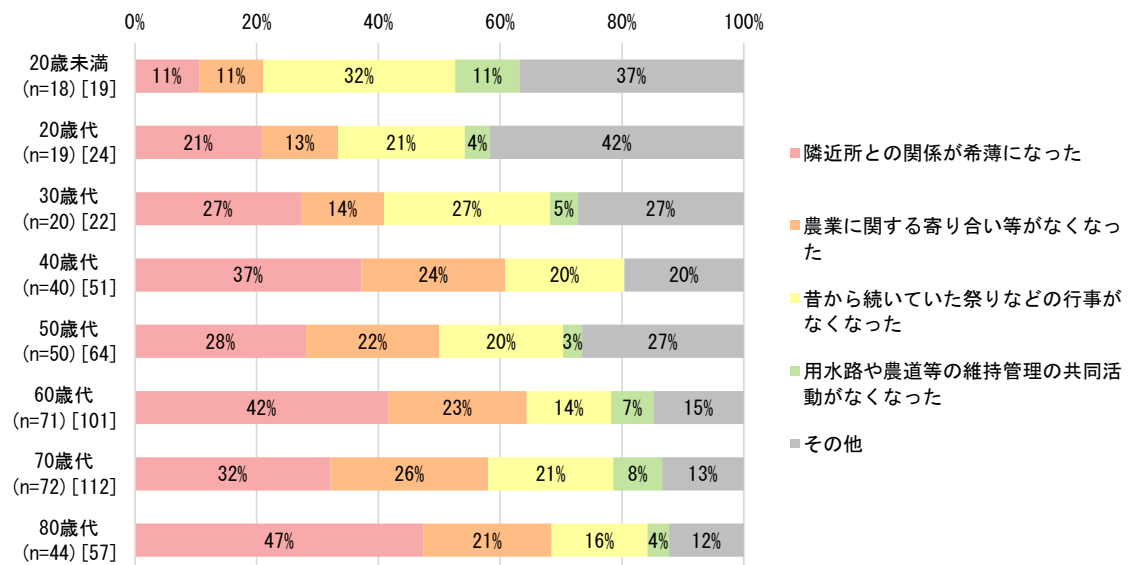


図 35 集落内の農家戸数の変化が集落活動に及ぼした変化や影響 (年代別)

[参考] 回答数に占める割合を集計

※ (n=000) : 回答者数、[000] : 回答数

【クロス集計：性別】

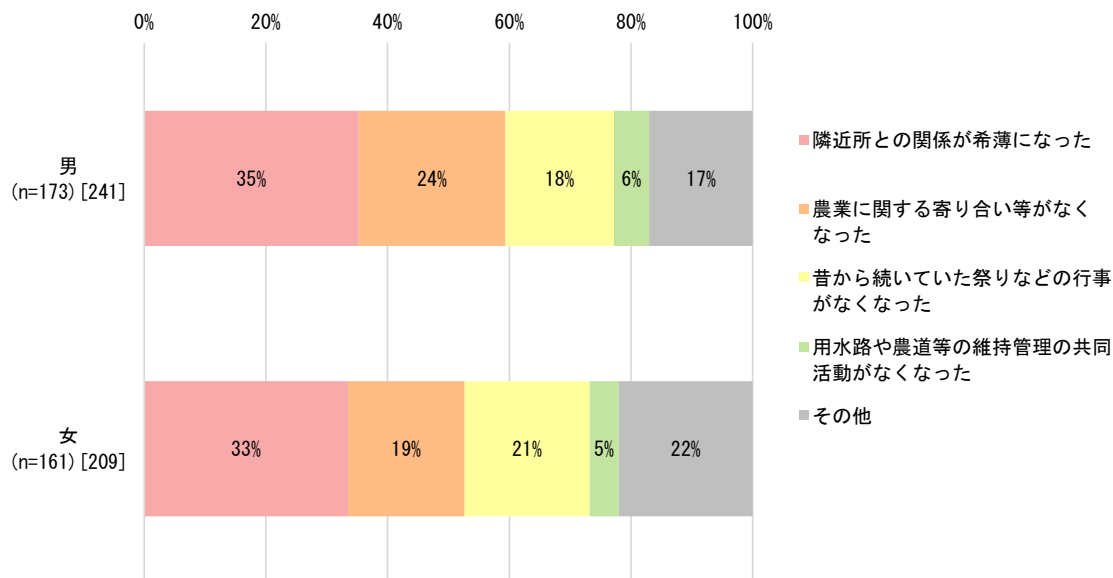


図 36 集落内の農家戸数の変化が集落活動に及ぼした変化や影響（男女別）

【クロス集計：あなたの家は農家か】

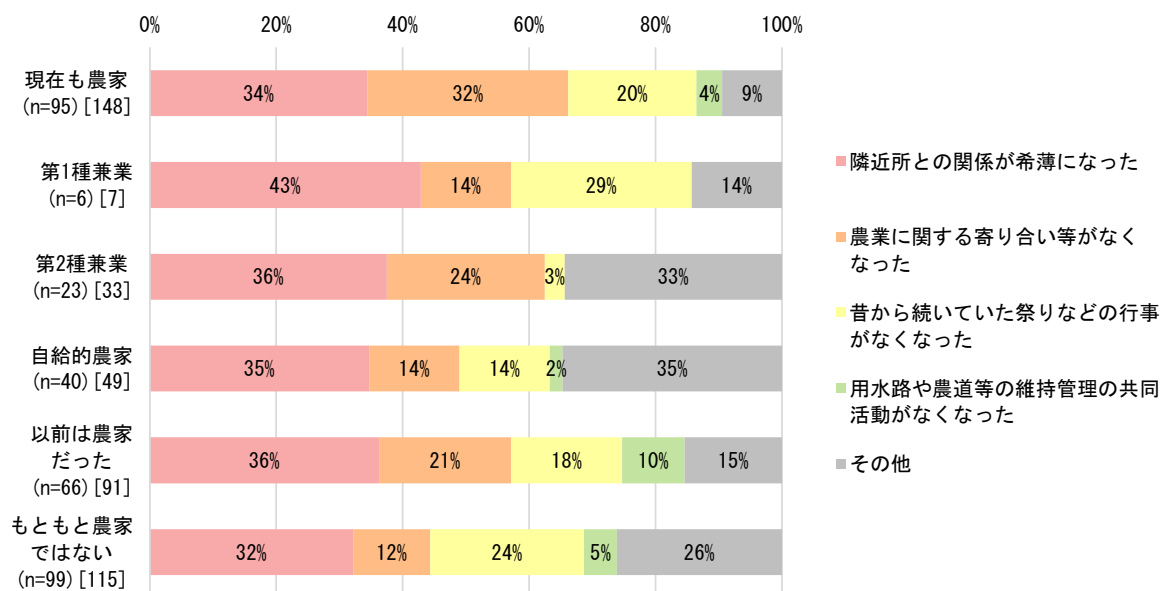


図 37 集落内の農家戸数の変化が集落活動に及ぼした変化や影響（あなたの家は農家かの回答別）

3 あなたが感じる集落（地域）の魅力や誇りについて教えてください。

問 1 1. あなたはお住まいの集落（地域）に愛着がありますか。

- ・「強くある」「ややある」の合計は 60% で、6 割が集落（地域）に愛着があると回答している。

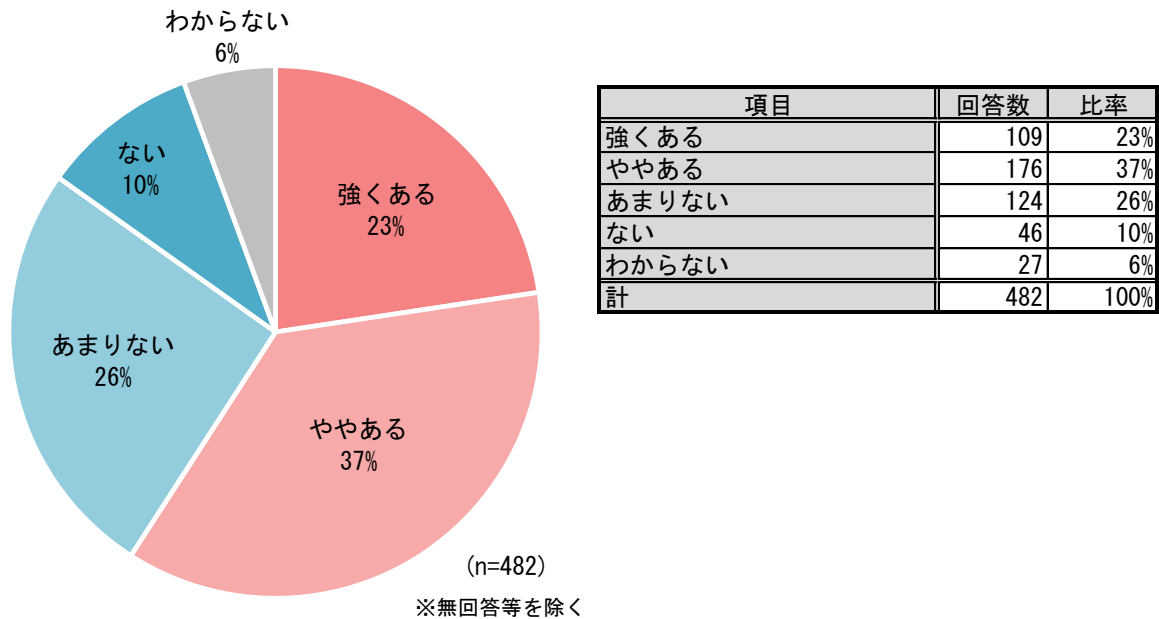


図 38 お住まいの集落（地域）への愛着の有無

【クロス集計：年代】

- ・年代が高くなるほど、愛着が「強くある」「ややある」の割合が高くなる傾向がみられる。

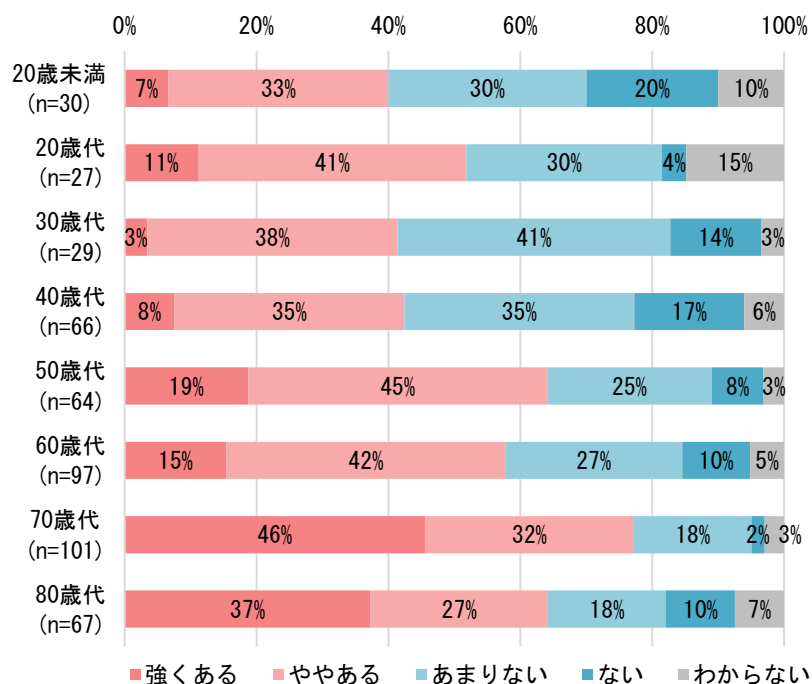


図 39 お住まいの集落（地域）への愛着の有無（年代別）

【クロス集計：性別】

・男性は、「強くある」「ややある」の割合が女性よりも高い。

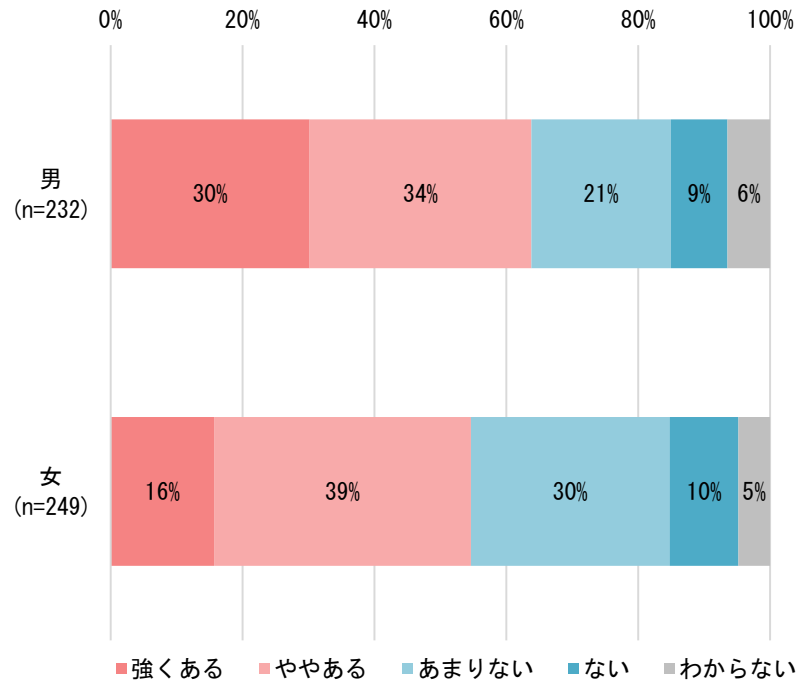


図 40 お住まいの集落（地域）への愛着の有無（男女別）

【クロス集計：住所の履歴】

・「現住地以外からの転入」と回答した人は、「あまりない」「ない」の割合が比較的高い。

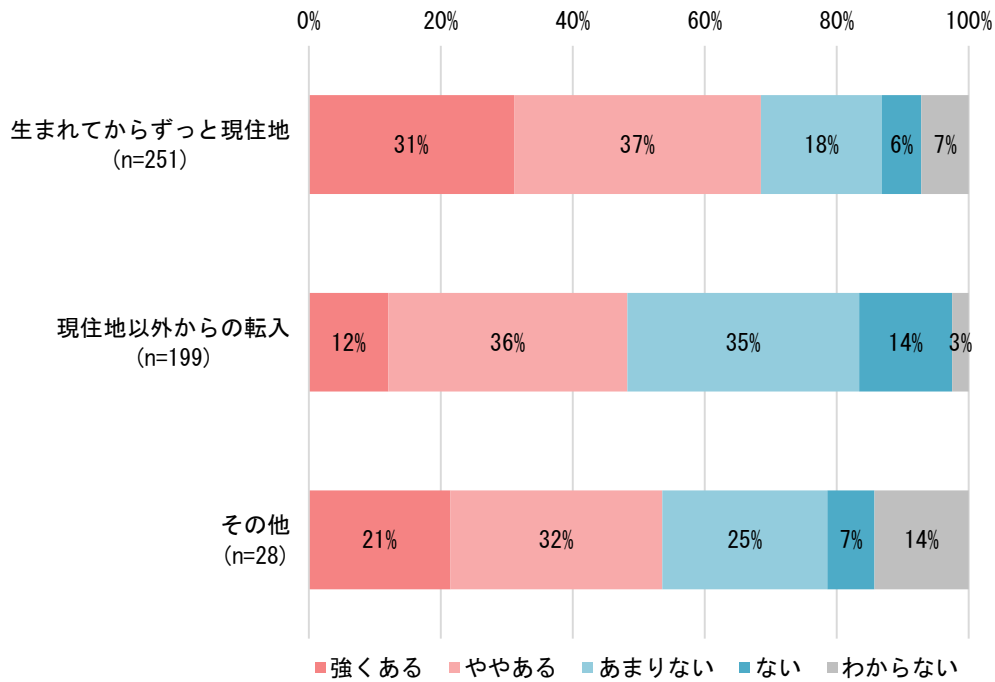
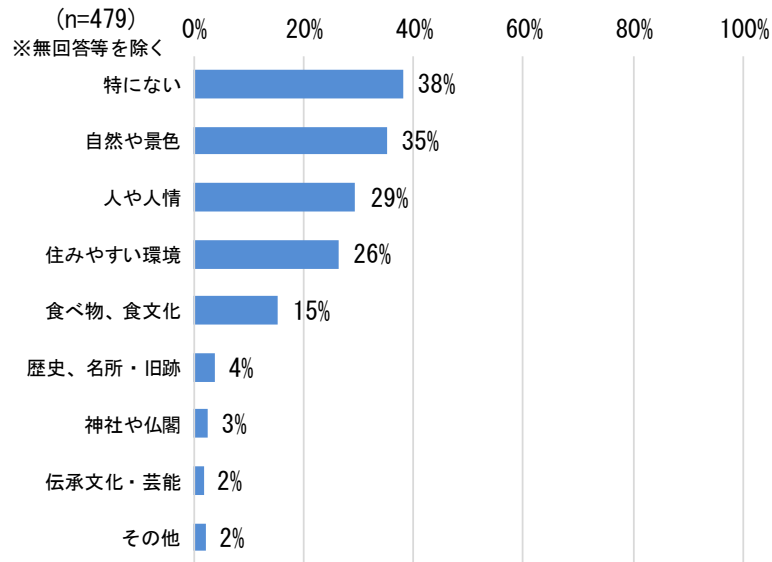


図 41 お住まいの集落（地域）への愛着の有無（住所の履歴別）

問12. あなたがお住まいの集落（地域）の魅力や誇りに思うことは何ですか。
（複数回答可）

・「特にない」の割合が38%で最も多く、次いで、「自然や景色」が35%、「人や人情」が29%となっている。



項目	回答数	比率
特にない	182	38%
自然や景色	168	35%
人や人情	141	29%
住みやすい環境	126	26%
食べ物、食文化	73	15%
歴史、名所・旧跡	18	4%
神社や仏閣	12	3%
伝承文化・芸能	8	2%
その他	10	2%
サンプル数	479	—

■その他の主な内容

項目	回答数
ない/分からない	3
バイパスが近い	2

図42 お住まいの集落（地域）の魅力や誇りに思うこと

【クロス集計：年代】

- ・「特にない」は70歳代の割合が低い。
(回答者全体の年齢構成割合との比較による。)

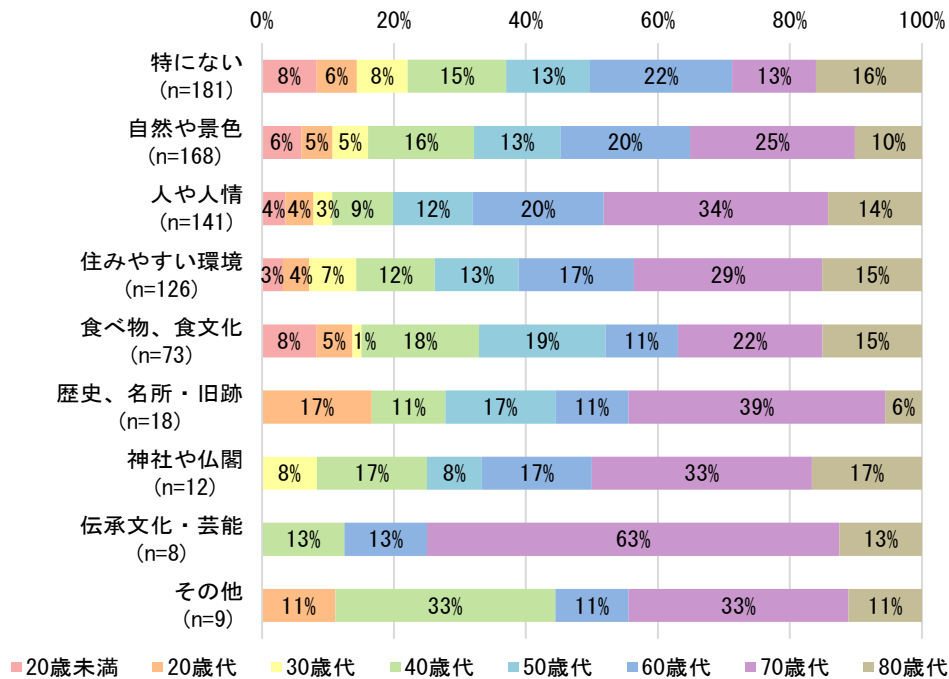


図 43 お住まいの集落（地域）の魅力や誇りに思うこと（年代別内訳）

【クロス集計：性別】

- ・「住みやすい環境」「神社や仏閣」は、男性の割合が高く、「自然や景色」「食べ物、食文化」は、女性の割合が高い。

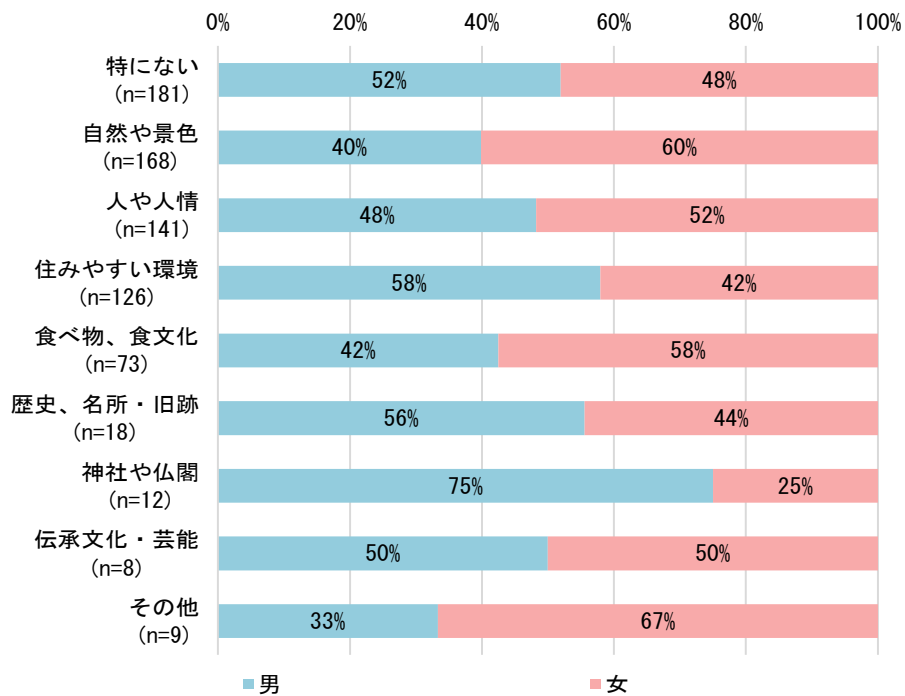


図 44 お住まいの集落（地域）の魅力や誇りに思うこと（男女別内訳）

【クロス集計：あなたの家は農家か】

- ・「特にない」と回答した人の割合は、農家かどうかによる差はみられない。
(回答者全体の年齢構成割合との比較による。)

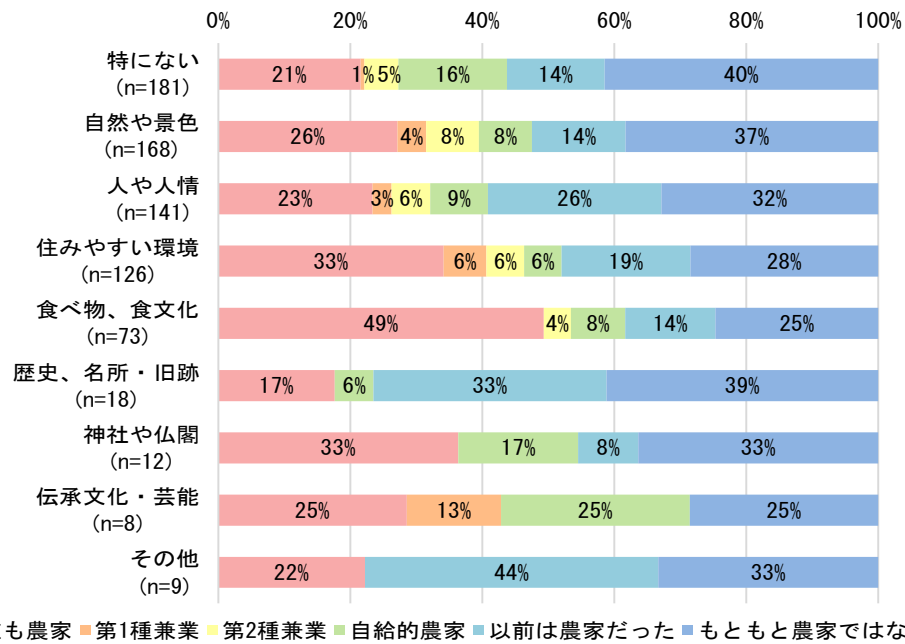


図 45 お住まいの集落(地域)の魅力や誇りに思うこと(あなたの家は農家かの回答別内訳)

【クロス集計：住所の履歴】

- ・「住みやすい環境」「歴史、名所・旧跡」「神社や仏閣」は、「生まれてからずっと現住地」と回答した人の割合が高い。

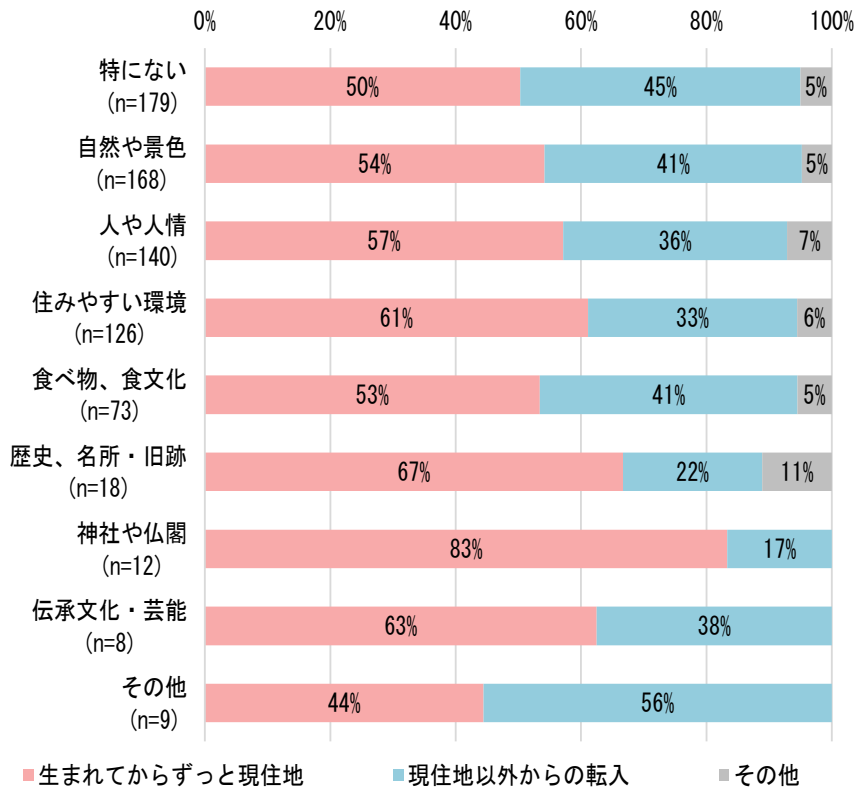


図 46 お住まいの集落(地域)の魅力や誇りに思うこと(住所の履歴別内訳)

[参考] 回答数に占める割合を集計

※ (n=000) : 回答者数、[000] : 回答数

【クロス集計：年代】

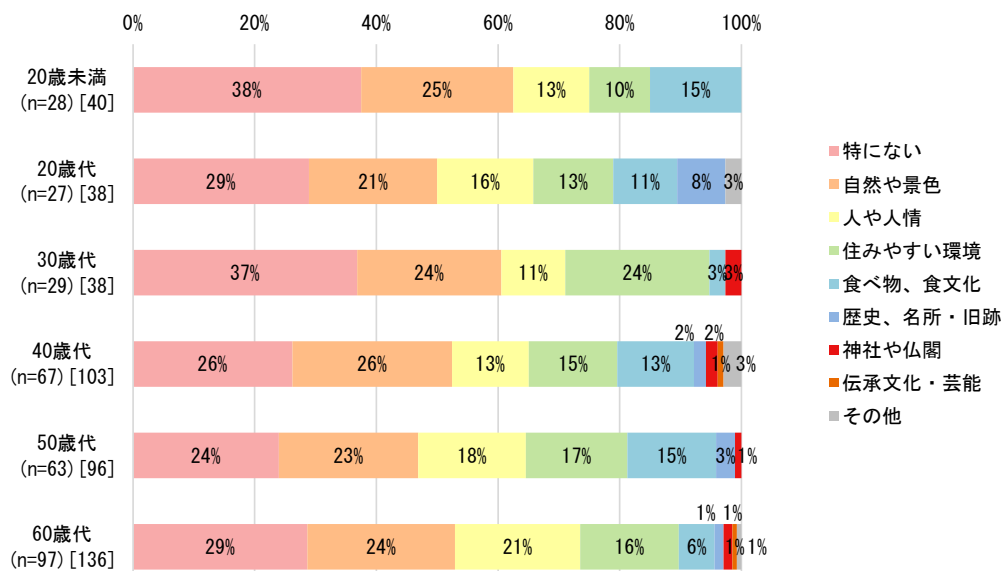


図 47 お住まいの集落（地域）の魅力や誇りに思うこと（年代別）

【クロス集計：性別】

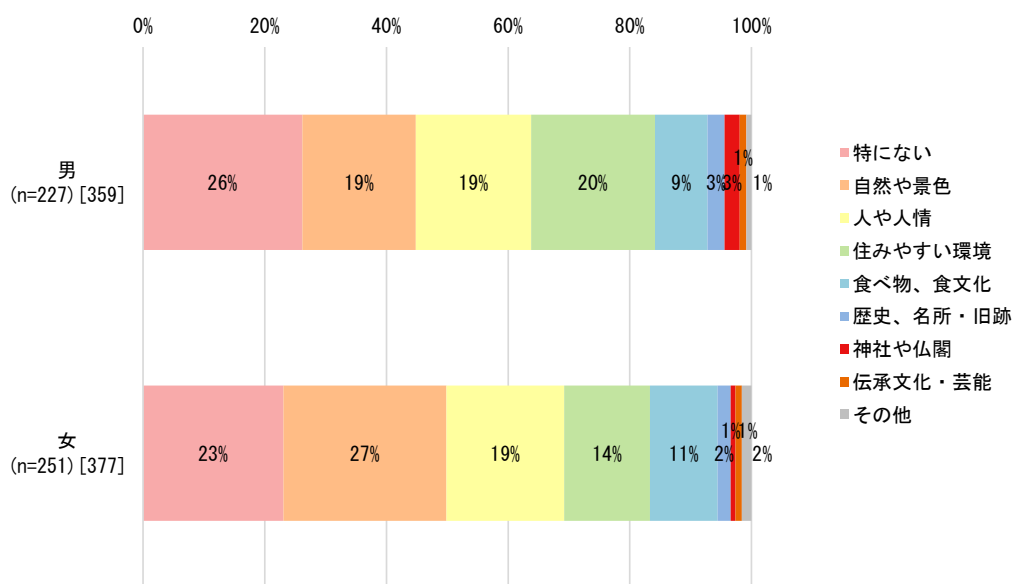


図 48 お住まいの集落（地域）の魅力や誇りに思うこと（男女別）

[参考] 回答数に占める割合を集計

※ (n=000) : 回答者数、[000] : 回答数

【クロス集計：あなたの家は農家か】

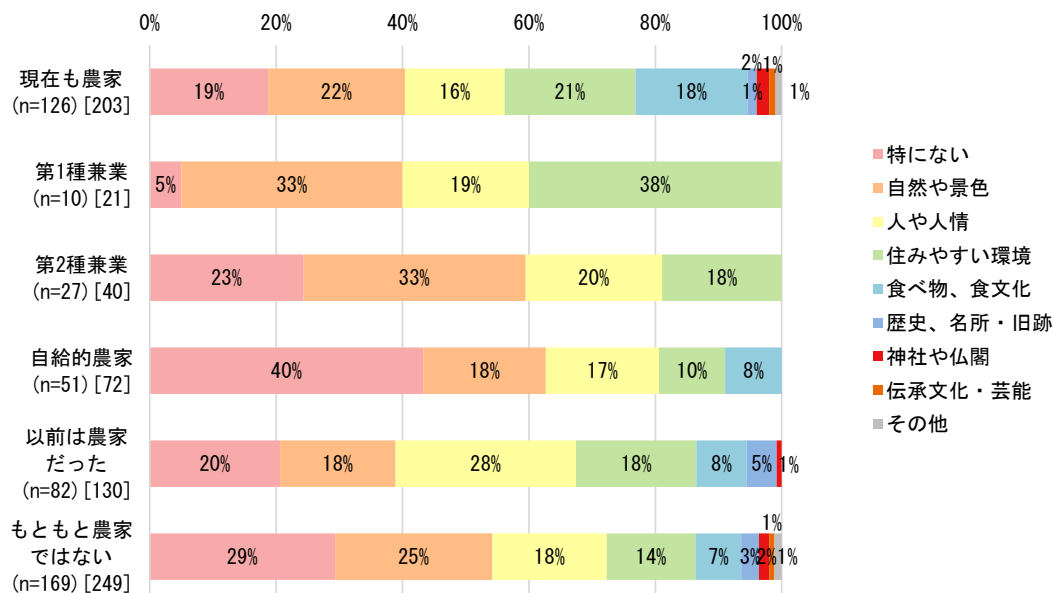


図 49 お住まいの集落（地域）の魅力や誇りに思うこと（あなたの家は農家かの回答別）

【クロス集計：住所の履歴】

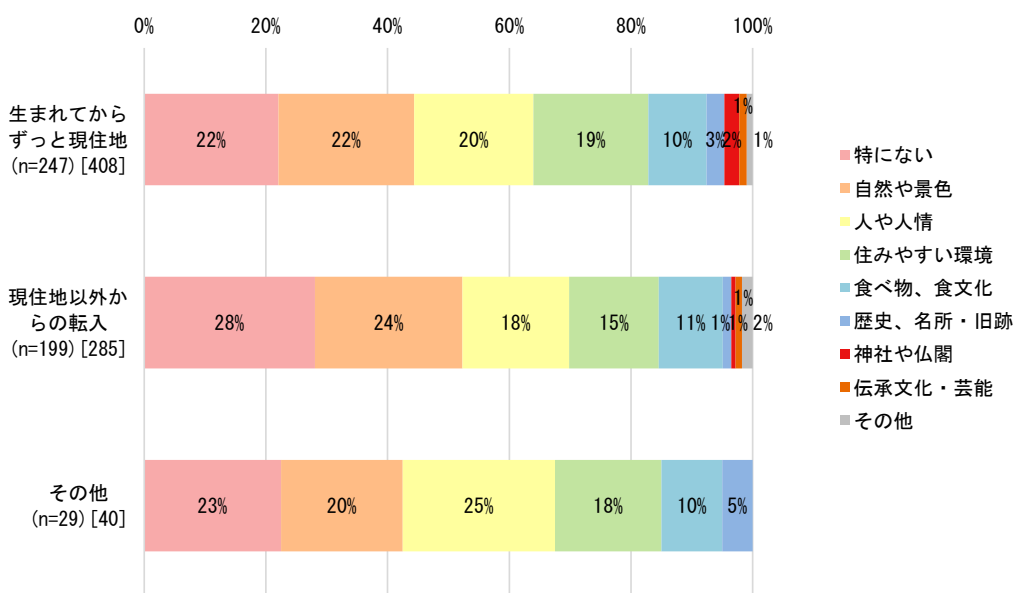


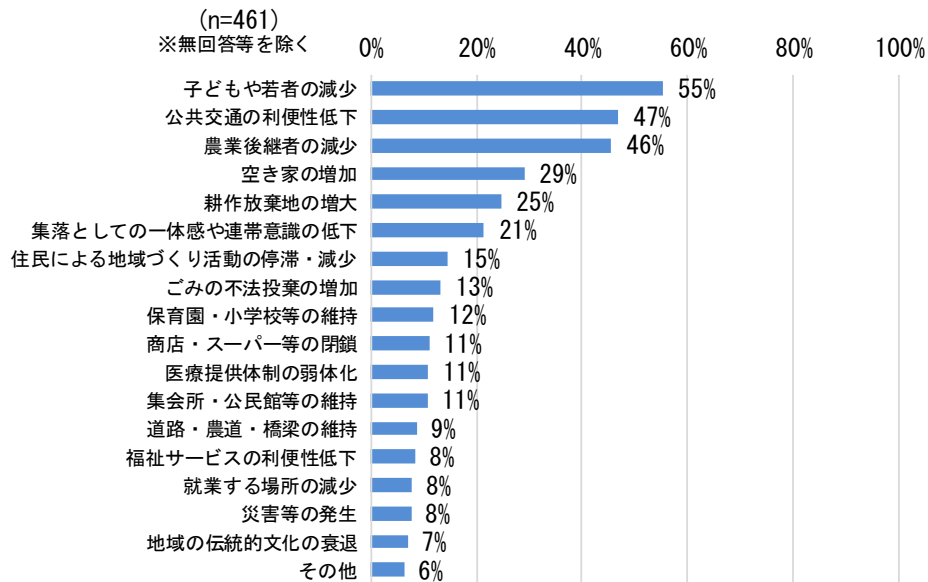
図 50 お住まいの集落（地域）の魅力や誇りに思うこと（住所の履歴別）

4 生活上の問題点と思うことについて教えてください。

問13. あなたの集落内で問題と思うことや困っていることなどがありますか。

(複数回答可)

- ・「子どもや若者の減少」の割合が55%で最も高く、次いで「公共交通の利便性低下」が47%、「農業後継者の減少」が46%となっている。



項目	回答数	比率
子どもや若者の減少	255	55%
公共交通の利便性低下	216	47%
農業後継者の減少	210	46%
空き家の増加	134	29%
耕作放棄地の増大	114	25%
集落としての一体感や連帯意識の低下	99	21%
住民による地域づくり活動の停滞・減少	67	15%
ごみの不法投棄の増加	61	13%
保育園・小学校等の維持	55	12%
商店・スーパー等の閉鎖	51	11%
医療提供体制の弱体化	50	11%
集会所・公民館等の維持	49	11%
道路・農道・橋梁の維持	40	9%
福祉サービスの利便性低下	39	8%
就業する場所の減少	36	8%
災害等の発生	35	8%
地域の伝統的文化の衰退	32	7%
その他	29	6%
サンプル数	461	—

■その他の主な内容

項目	回答数
ない/分からない	7
農家が高齢化して耕作放棄地が増えることが心配	4
公共交通が不便で高齢者は移動がない	2

図51 集落内で問題と思うことや困っていること

【クロス集計：年代】

・「子どもや若者の減少」や「公共交通の利便性低下」は、全世代ほぼ均等に課題と感じている。（回答者全体の年齢構成割合との比較による。）

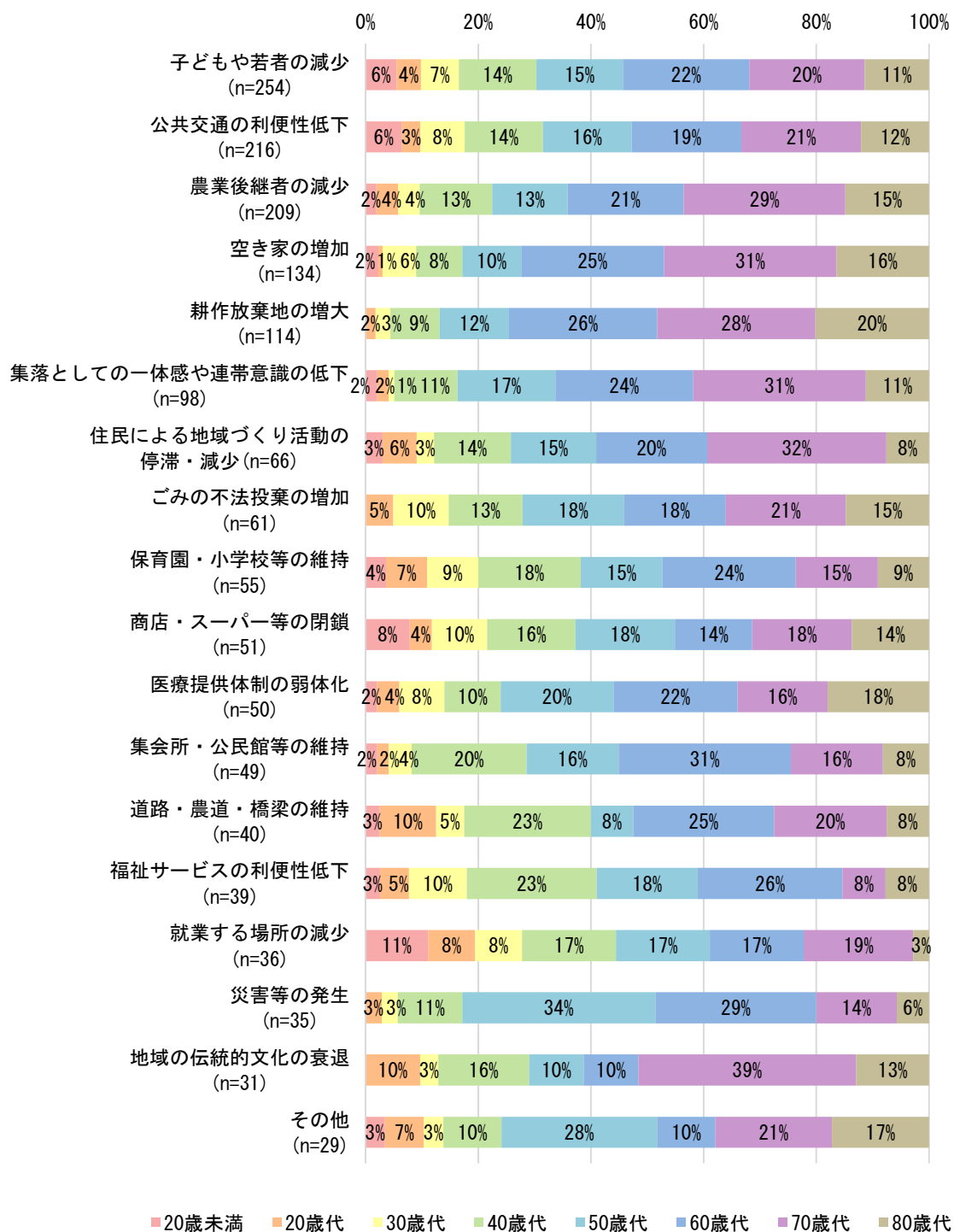


図 52 集落内で問題と思うことや困っていること（年代別内訳）

【クロス集計：性別】

- ・「子どもや若者の減少」は性別で隔たりは少ないが、「公共交通の利便性低下」は女性の割合が高く、「農業後継者の減少」は男性の割合が高い。

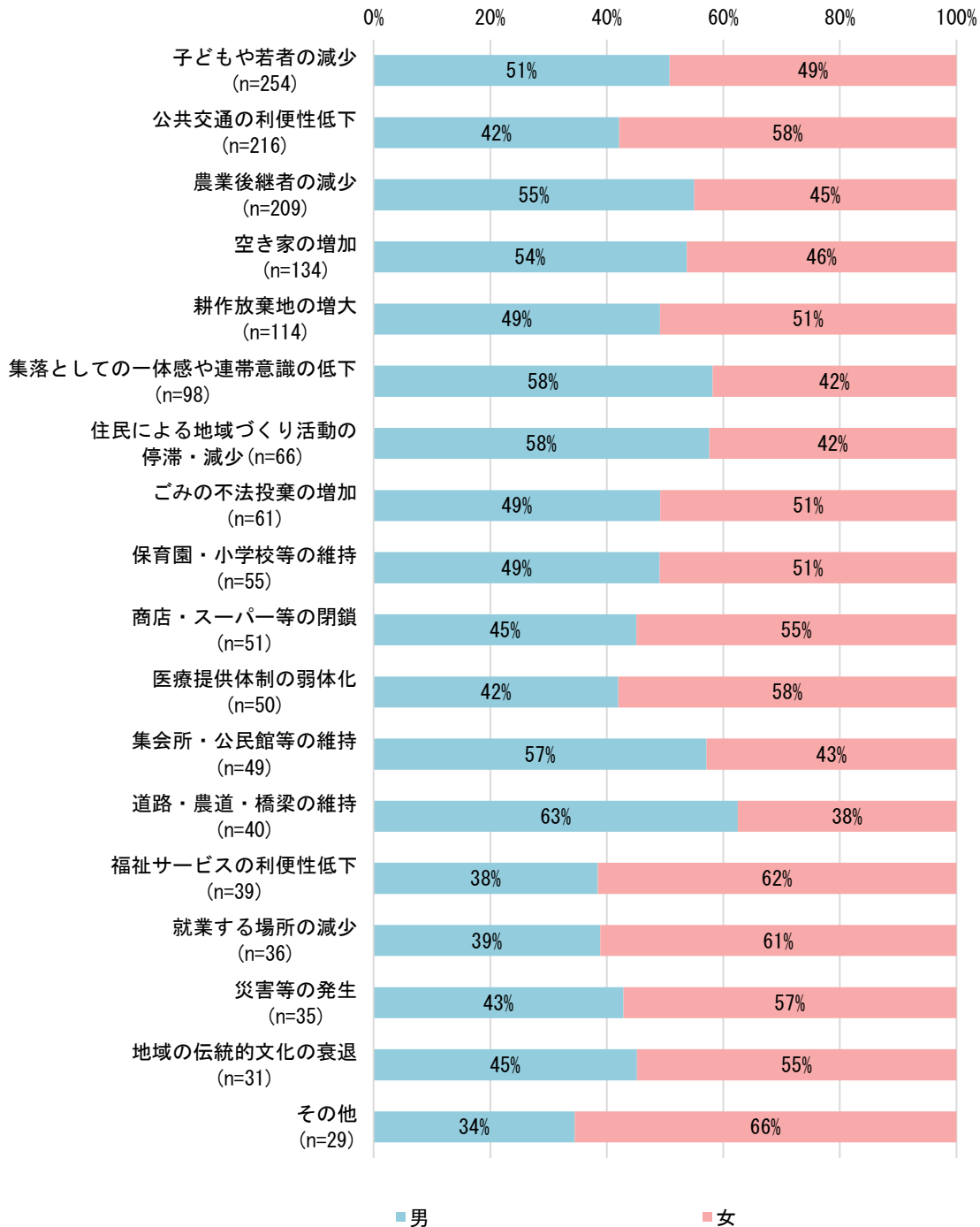


図 53 集落内で問題と思うことや困っていること（男女別内訳）

[参考] 回答数に占める割合を集計

※ (n=000) : 回答者数、[000] : 回答数

【クロス集計：年代】

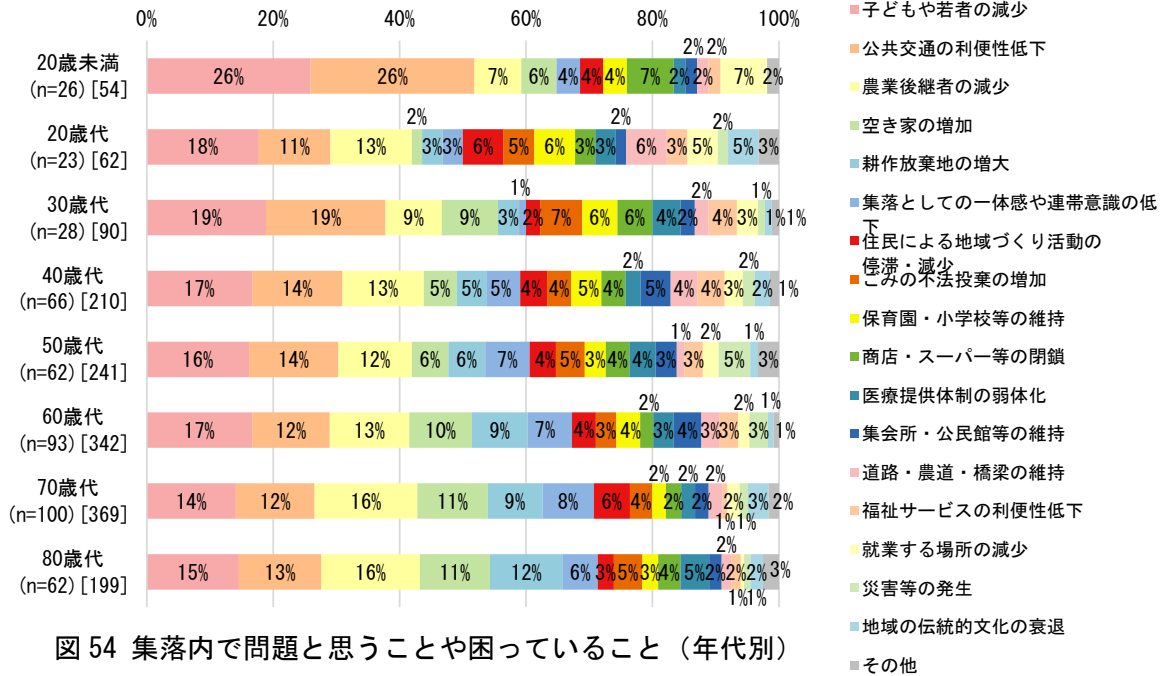


図 54 集落内で問題と思うことや困っていること（年代別）

【クロス集計：性別】

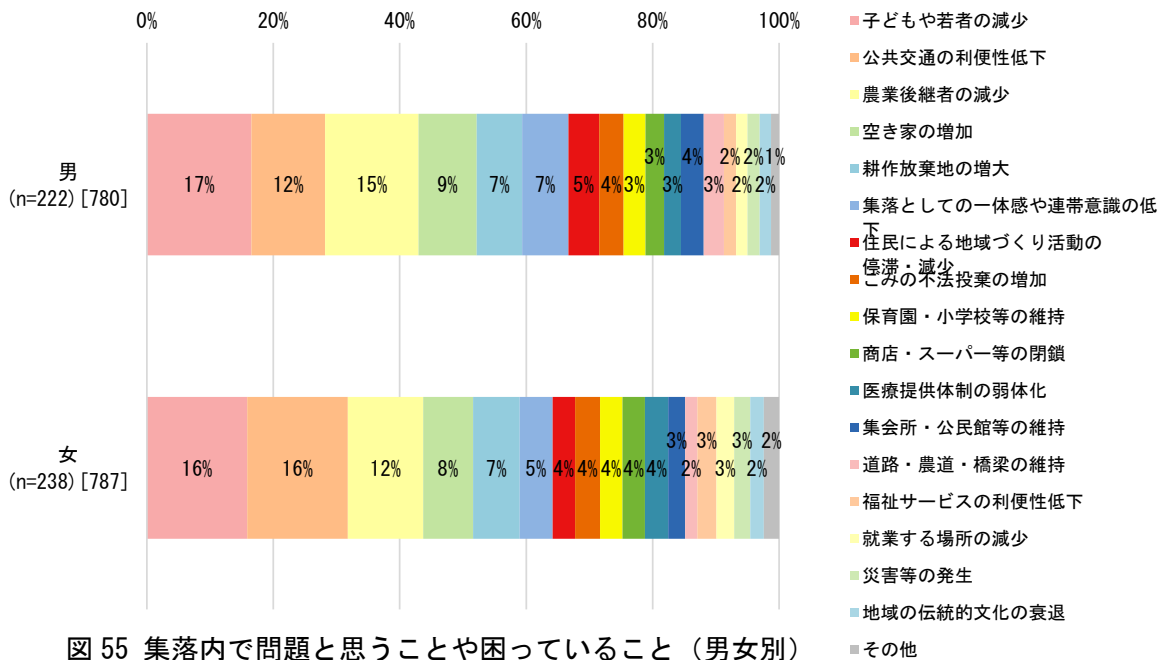
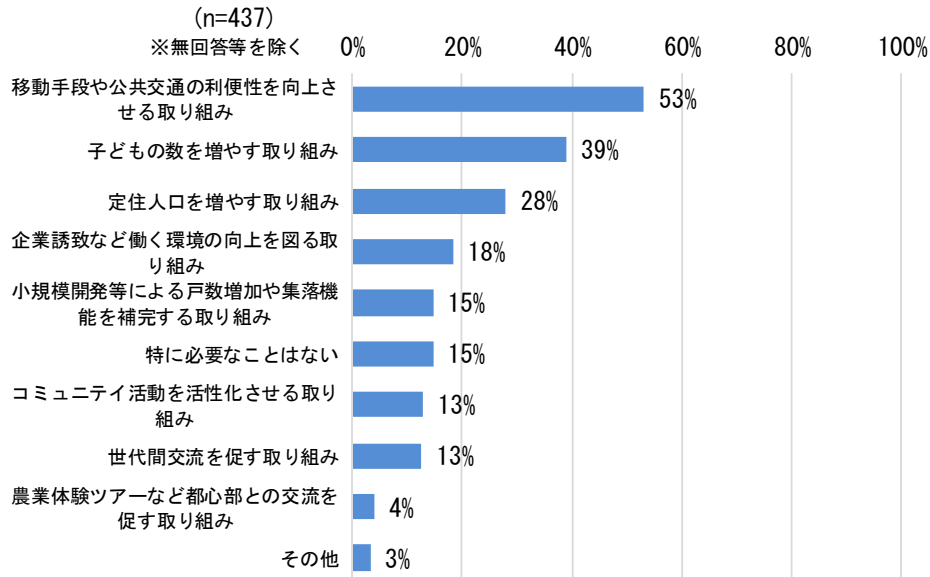


図 55 集落内で問題と思うことや困っていること（男女別）

問14. あなたの集落や集落機能を良くするために必要なことがあれば教えてください。
(複数回答可)

- ・「移動手段や公共交通の利便性を向上させる取り組み」の割合が53%で最も高く、次いで「子どもの数を増やす取り組み」が39%、「定住人口を増やす取り組み」が28%となっている。



項目	回答数	比率
移動手段や公共交通の利便性を向上させる取り組み	232	53%
子どもの数を増やす取り組み	170	39%
定住人口を増やす取り組み	122	28%
企業誘致など働く環境の向上を図る取り組み	80	18%
小規模開発等による戸数増加や集落機能を補完する取り組み	64	15%
特に必要なことはない	64	15%
コミュニティ活動を活性化させる取り組み	56	13%
世代間交流を促す取り組み	55	13%
農業体験ツアーなど都心部との交流を促す取り組み	18	4%
その他	15	3%
サンプル数	437	—

■その他の主な内容

項目	回答数
商業施設等を増やす	4
わからない	2

図56 集落や集落機能を良くするために必要なこと

【クロス集計：年代】

・「特に必要なことはない」は、40歳代以下の割合が比較的高くなっている。

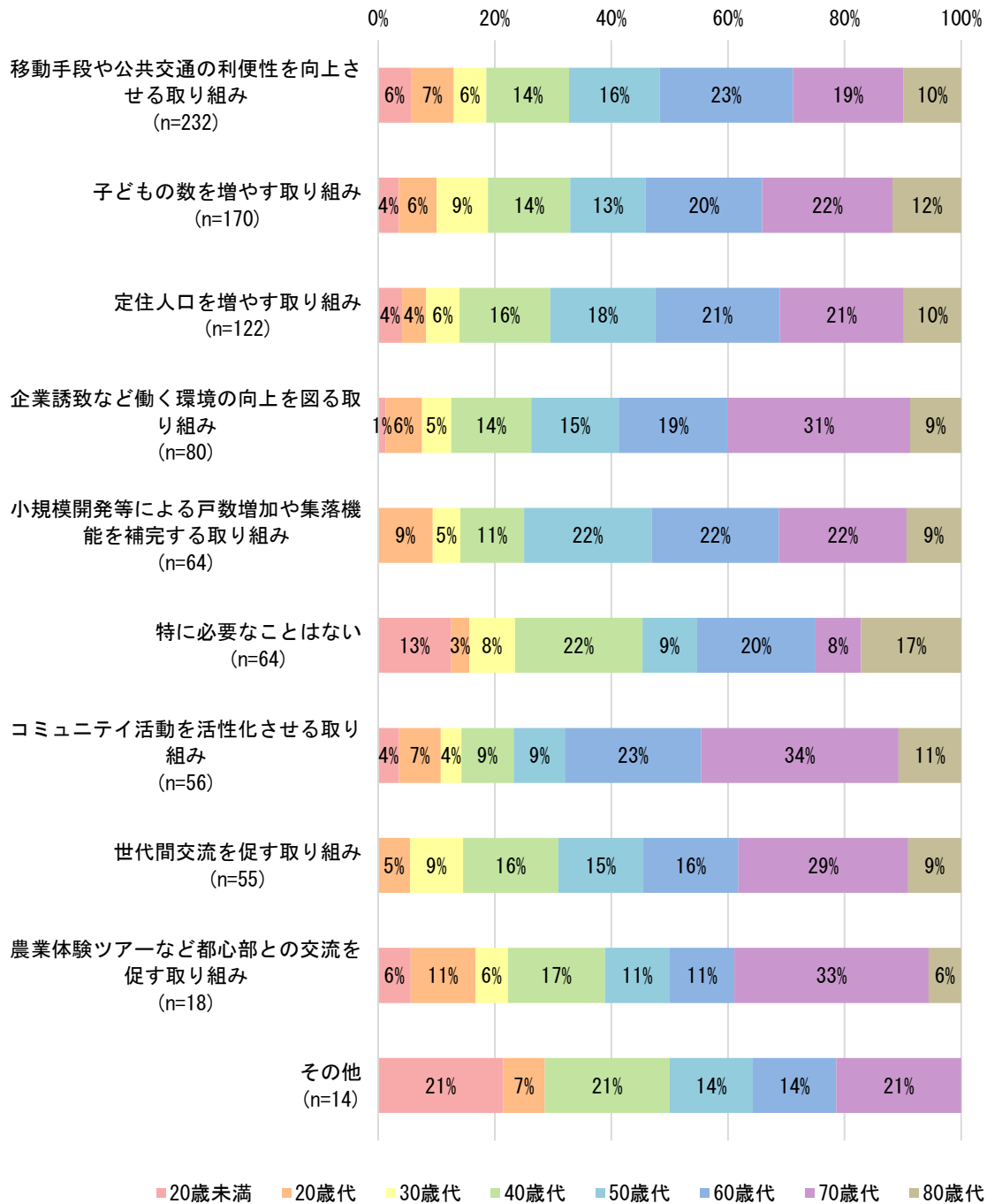


図 57 集落や集落機能を良くするために必要なこと（年代別内訳）

【クロス集計：性別】

- ・「移動手段や公共交通の利便性を向上させる取り組み」は女性の割合が高く、「小規模開発等による戸数増加や集落機能を補完する取り組み」は男性の割合が高い。

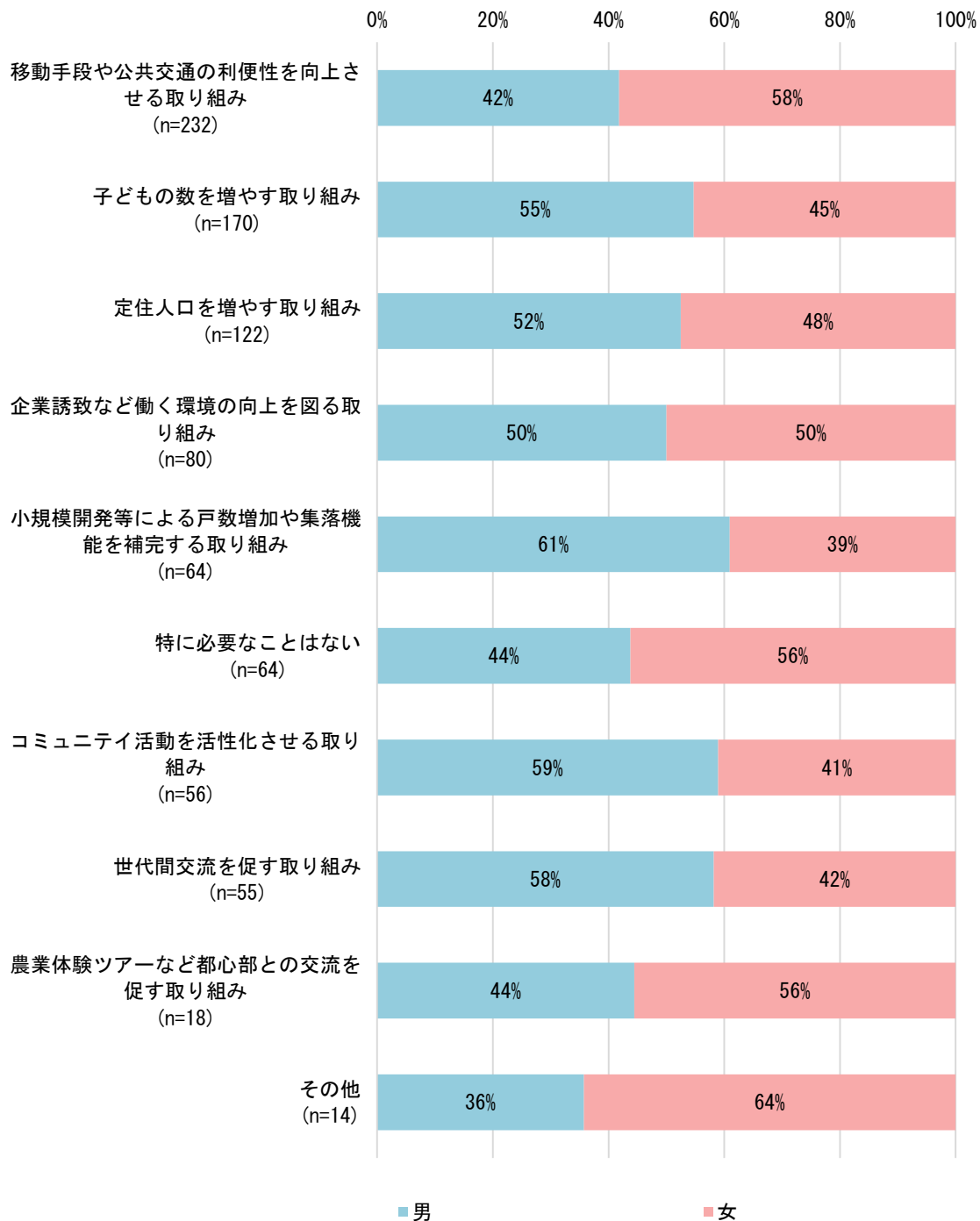


図 58 集落や集落機能を良くするために必要なこと（男女別内訳）

【クロス集計：住所の履歴】

・住所の履歴による大きな差はみられない。

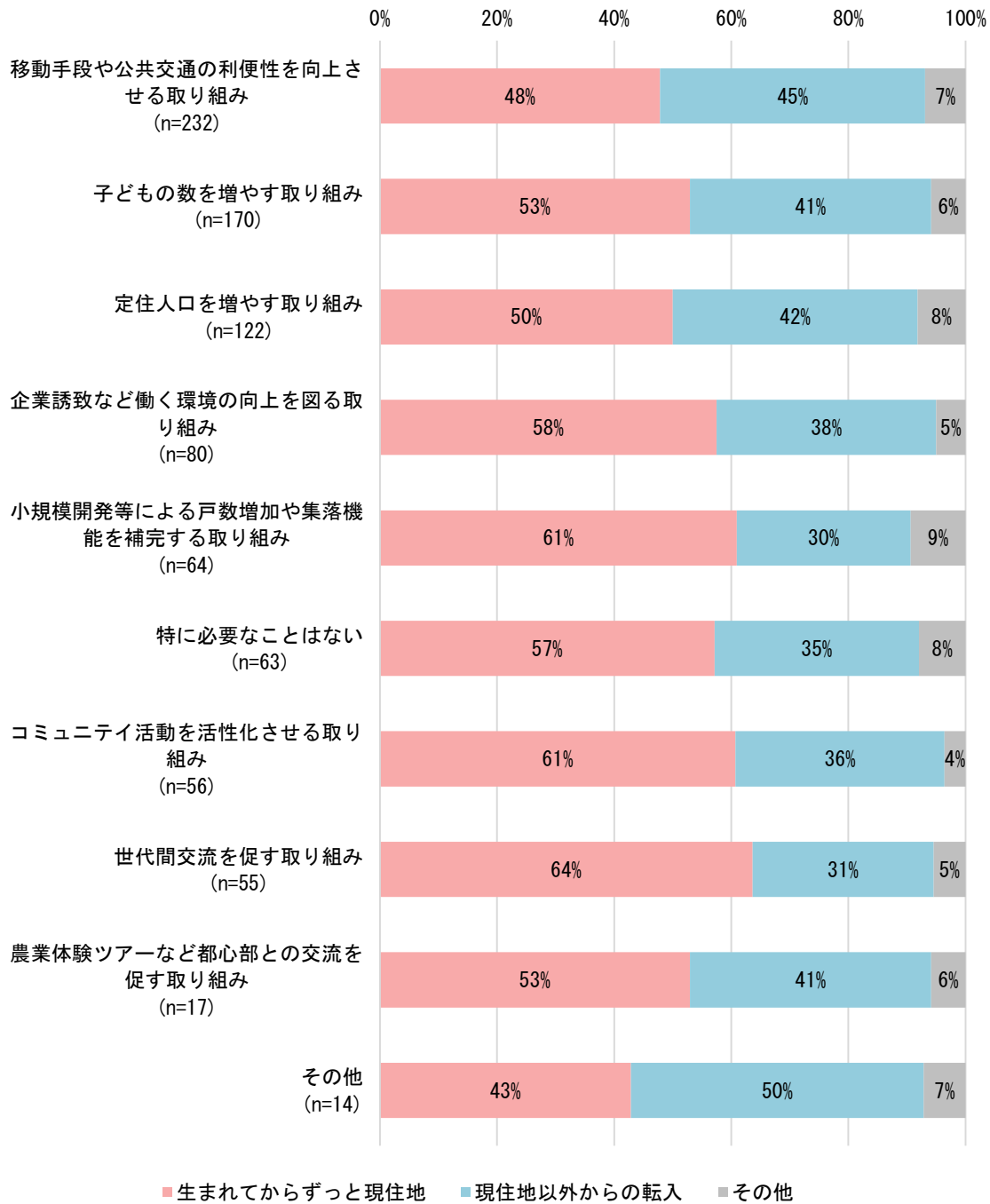


図 59 集落や集落機能を良くするために必要なこと（住所の履歴別内訳）

[参考] 回答数に占める割合を集計

※ (n=000) : 回答者数、[000] : 回答数

【クロス集計：年代】

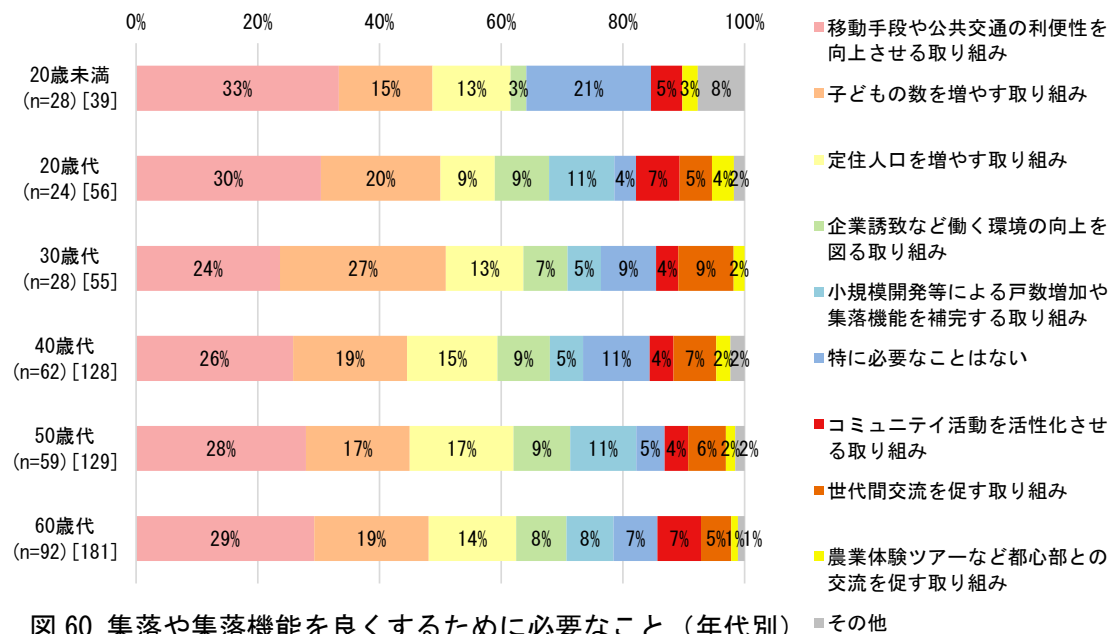


図 60 集落や集落機能を良くするために必要なこと（年代別）

【クロス集計：性別】

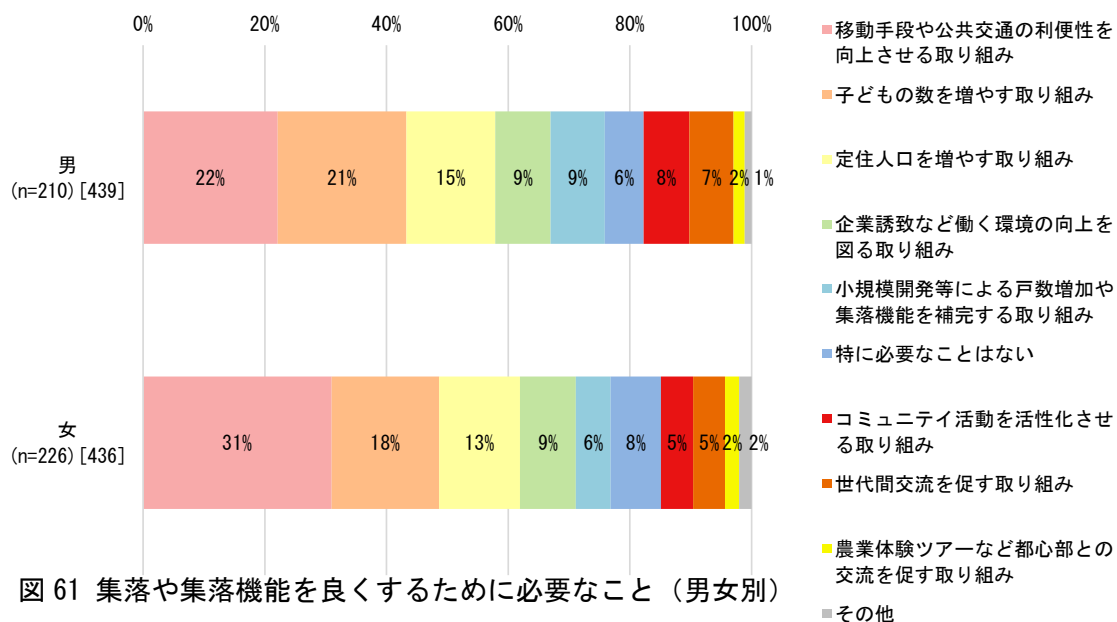


図 61 集落や集落機能を良くするために必要なこと（男女別）

[参考] 回答数に占める割合を集計

※ (n=000) : 回答者数、[000] : 回答数

【クロス集計：住所の履歴】

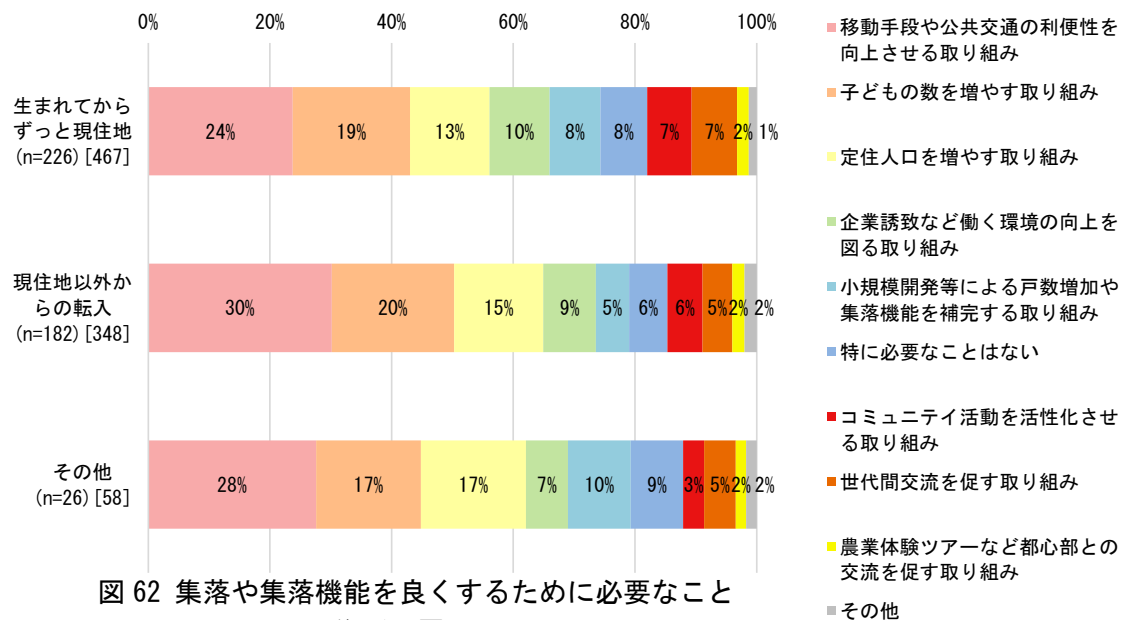


図 62 集落や集落機能を良くするために必要なこと (住所の履歴別)

問15. その他集落における課題やご意見等ありましたら、ご自由に記載願います。

- ・「交通」の割合が34%で最も高い。「問13. あなたの集落内で問題と思うことや困っていること」や、「問14. あなたの集落や集落機能を良くするために必要なこと」でも、公共交通に関する選択肢は上位となっており、不便に感じている人が多く、関心が高いと考えられる。

項目	交通	人口	農業	交流	空き家	各種施設	その他	サンプル数
回答数	25	13	10	8	6	4	16	66
比率	38%	20%	15%	12%	9%	6%	24%	—

年代	性別	回答	分類
60歳代	男	冬期間の除雪の対応をもっと考えて頂きたい。若い人が地元に戻って来られるような対策があるとよい。(助成金等)	交通 人口
60歳代	女	よく市報などで公共交通機関を利用してくださいと書いてありますが、新潟駅までのバスが10便あるかないかの所で、どうしろというのだといつも思っています。 戸数増加とか言われても、もとの農村地帯に町からの移住とかは考え方がだいぶ違って、むずかしい問題です。田を作らなくなってからも農道や水路掃除などは参加しているし、朝早くからの農薬散布もそういうものだと分かっていますが、他の地域で移住してきた人たちが日曜日の朝からの予防や草刈りがうるさいと言っているという話もききます。	交通 人口
50歳代	女	交通の便が悪いため、若い人は地域から出て行ってしまふ。戻ることは稀です。少ない子ども達のためにバスを増やしてと思うが、年寄りが利用するには、その沿線上に医者もスーパーもないため利用者は増えない。農業は儲からない時代になったので、子どもを就職させたが、どの家も勤めているから後は継げないと言って、離農していく家ばかりになってしまいました。	交通 農業
50歳代	女	公共交通の利便性が低くすぎます。耕作放棄地が増え、これからもどんどん多くなると思うし、自分も今後持っている土地の維持をどうしたらよいかかわからない。	交通 農業
60歳代	女	交通手段が充実していないので、高齢になっても車の運転をしなければならぬ。(食料品の買物、通院など)若い方が農業しない方が多く、畑が作れなく、年々、維持、管理が大変です。	交通 農業
70歳代	女	高齢のためこの先、病院、買物など思うように行けなくなる不安です。近くにバスの乗り場がありません。我が家もそうですが、この村でも結婚しない若者が多くて、私達親世代が居なくなると一人暮らしの家が多く、隣近所付き合いも出来ず不安です。	交通 交流

年代	性別	回答	分類
50歳代	女	<p>問 14.1 について：近くにお店がなく、暑い時、寒い時に高齢者が歩いたり、自転車に乗ったりして遠くの商店に行く姿を見かけます。区バスは集落には入ってこないため、バス停に行くまでが遠く、学生も学校に行くまでが大変です。集落を巡るバスに乗って、スーパー、公共施設、最寄りのバス停などに行けるようになったらいい。日常的に難しければ、週 1 バスツアー的に農村集落と街を結ぶなど。(例 朝、街の人を乗せてバス出発→農村でぶどう狩り、稲刈り体験、農村公園で体験や料理教室など。農村で降ろしたら集落を回り、高齢者や若者など街に行きたい人を乗せて街へ。民生委員やボランティアも同乗して、高齢者の手続きや買い物などを補助する-街から帰ってきたら、農村体験の人たちを乗せて帰る。) 街からは農村体験ツアーで人を乗せてくれば無駄も無く、交流にもなる。</p> <p>問 14.10 について 近所に空き家があり、ねずみやハクビシンなどが増えています。草木も大きくなり、蚊や害虫なども心配です。</p>	交通 空き家
60歳代	男	<p>1. 空き家がだんだん多くなり、空き家の老朽化と敷地内に植えてある樹木が大きくなり、枝の落下や葉の処理に困っています。(持ち主との連絡取れず) 枝の伐採も出来ない。また、仮に了解もらっても伐採費自治会負担では無理な額な為、苦慮している。また、家や納屋が傾き危険な所があります。(伐採費用を考えてもらいたい)</p> <p>2. 集落内のメイン道路に傷があり、割目とデコボコで家がガタ付きます。</p>	交通 空き家
60歳代	女	<p>インターの利便性の活用や集合ショッピング等の土地の活用が必要だと考えます。通学道路の整備では、歩道もなく子ども達が危険です。スクールバスは低学年だけでも利用できないか。またコミュニティーバスの充実をお願いしたい。バイパスの騒音や頭上の飛行機の音に悩まされています。</p>	交通 各種施設 その他
50歳代	女	<p>災害発生時、経験がないので、どうしたらいいか分からない。避難所まで遠い。冬の除雪が遅く広く除雪されない。歩道が除雪されず、通学が不便です。通学路の安全確保をお願いします。</p>	交通 その他
20歳未満	女	<p>公共交通機関をもっと増やして欲しいです。(バスの本数が少なすぎると思う)</p>	交通
20歳代	女	<p>新潟交通の路線バスを利用しているが、時刻表とおりに来ないため学校を遅刻します。朝の便が少ないため昼頃学校に行くことがある。路線バスの本数が少ない地域は区バスで補完するなど、学生や高齢者の移動手段を向上させて欲しい。以前区バスが通っていたが利用者が少ないため廃止された。路線バスが 20 分以上遅れて来ることが日常的にある。(朝の 7 時～8 時台)</p>	交通

年代	性別	回答	分類
30歳代	男	集落の立地する区が新潟市へ編入され、ずいぶん経ちましたが編入前より暮らしづらくなったことを実感するようになりました。バスの運行数は減り、生活道路となっている農道は除雪されなくなりました。本当にただ「生活する」という行為が大変です。こうやって都市部から疎外されていき、戸数が減って廃村するのだなとつくづく思います。政令指定都市に住んでいる実感も恩恵もありません！	交通
40歳代	男	公共交通が不便です。大型店舗がとても遠い。普段利用するようなドラッグストアでも遠い。車が無いとスーパーさえ行けない。日常が不便です。	交通
40歳代	女	小学校まで子どもの足で40分ぐらいかかるので、子ども達が大変なので何とかして欲しい。耕作放棄地の有効活用をお願いしたい（草が伸びて道路にまで覆っている）。冬は雪がすごいのに除雪が間に合わないため、就業時に集落から出られない。	交通
40歳代	女	電車がなく、バスも新潟市の中心地へ行くには8号線まで出る必要があり、不便すぎる。高校を選ぶ時に自転車以外の方法をとることが難しく、範囲が狭まります。	交通
40歳代	女	交通の不便。新潟交通のバスも利用しにくい。（歩いてバス停に行けない）区バスも利用できる時間が少ない。	交通
50歳代	男	農道が私道化して農作業に支障が出ている。（どろ、駐車、におい、ほこり等）昔はがまんしてもらえた事が非農家から苦情が来るため経費がかかり大変です。	交通
50歳代	女	町の活性化。古くて汚い家屋をどうにかする。交通の便が悪い。全体に開発されるともっと居住者が増えると思う。新潟市中心からはちょうど良い距離なので。	交通 その他
50歳代	女	公共交通機関を増やして欲しい。	交通
60歳代	男	このアンケートは農家が多い集落が対象のようですが、現実には当地の農家は数えるくらいしかなくほとんどが勤め人です。当集落近辺には買い物、病院、役所など生活に欠かせないものがなく、車で数キロ離れた地区まで行かなくてはならず不便な場所です。私は長男であり先祖の墓を守るため仕方なく住んでおり、好き好んでこの地に住みたい環境ではありません。農地の半分（私の見る限り）は中山間地に多い耕作放棄地のような状態で、新潟市中心部まで車で10分ちょっとで行ける距離でありながら山奥のような集落です。農村集落とは名ばかりで農家ではないので詳しくはありませんが、農地に関する規制があり開発から取り残された感（知り合いの農家から聞いた）がありますね。今は車で買物が出来ますが近い将来どうしようか妻と話しています。このままでは空き家になるねと。私の妻が言うには「私が嫁に来てから40年過ぎていのに昔のまんまの道（農道）だね」、最近、通学路で子ども達が交通事故で犠牲になるニュースを聞きますが、当集落の通学路も昔のまんまで車のすれ違いもままならない状態です。おまけに旧七号線から隣の地内の工業団地への抜け道になっており、以外にスピードを上げて通る車があり危険だなといつも感じています。できれば歩道、区切るような縁石でも設置してもらえばなと思っています。	交通 その他

年代	性別	回答	分類
60歳代	女	交通の便が悪い。通勤はみんなが自家用車です。公共交通機関がなく、区バスの停留所までも歩くと20分くらいかかる。高校生は家族が自家用車で学校や最寄り駅まで毎日送迎しなければならない。そのため、免許を持っている家族数だけ車が必要です。	交通
60歳代	女	利便性の良いコミュニティーバスなどでさえ、この地域で不便である。車の運転が出来なくなると本当に買物、通院が大変になります。	交通
60歳代	女	スーパーなどに行くのに車に乗らないといけないので、移動手段が心配です。	交通
80歳代	女	交通の便が悪すぎます。代書している私は娘です。中学校卒業後、外の地へ出ました。時々帰ってきましたが、車に乗れるようになるまではあまり帰りたくなかったです。最寄りのバスから歩いて20～30分はかかります。冬は幹線がないので、除雪もままならず陸の孤島といった感じでした。あれから50年以上経ちましたが、道路事情は殆ど変わりなし、近所に子どもさんのいる家がとっても少ないです。小学校まで歩いて30～40分、中学校まで自転車で20分以上かかります。若い人達は自分の子にこんな思いはさせたくないのでしょうか。せめてコミュニティーバスでも通ったらいいんじゃないのかなと思います。集落の人達はみんなマイカーに乗っているから不便は感じないのかなあ。	交通
60歳代	女	私は南区在住です。農業特区のため、いろいろな事に対して制約があり、大規模開発他大企業の誘致が出来ない。個人が土地を売りたいくてもなかなか出来ないし、建物を建てる事が出来ない(個人住宅)ので人口が増えない。誰が農業特区にしたのかはっきりさせて。もう少し簡単に畑、田→宅地に出来る様にしてほしい。	人口 農業
60歳代	男	年々、空き家が増えて来ており、衛生面、防火面について考えていかなければならない。現在、集落は少子高齢化が進み、また中堅の年代の方が亡くなったりしています。	人口 空き家
50歳代	男	少子高齢化を非常に感じます。少子高齢化で行事ができなくなりました。	人口
50歳代	男	市街化調整区域内に外部からの居住者が入れる法整備。役所の都合で調整区域に線引きされたことにより、勝手に田舎になり、勝手に行政サービスも後回しになっています。	人口
50歳代	女	昔からの集落のため、新しい世帯が増える事はほぼありません。今いる子どもが残る可能性も少ない。後20年くらいは減るばかりではないだろうか。	人口
50歳代	女	一昔前まで同居は当たり前でしたが、現在は子ども達が結婚し各自生活するようになり、人口減少になっていると思われる。	人口
60歳代	男	独身の数が比較的多い。子どもの数が減少している。	人口
70歳代	男	定住人口増やす若い人達が住める利便性ある地域作りをお願いします。	人口
70歳代	女	若い人達の定住しやすい環境をお願いします。	人口
70歳代	女	人口を増やしてほしい。このままでは人が減るか、いなくなる。	人口

年代	性別	回答	分類
80歳代	男	集落の中で調整化区域ですから新しい住民が来ることもなく、昔からの地縁で安定→停滞に向かっている。農業の衰退、人口の減少、少子化、今の日本のすべてが表れている地域であるが、今生活している我々は現状を否定するのではなく、精一杯生きるしかない。	人口
50歳代	男	用水路のリレートの中心部が高く、そのあたりの田に水が入りにくい。農業に従事している若手が少ない。公共交通がない。農家でない人が田んぼなどに空き缶などを捨てていく。	農業
50歳代	女	農地は簡単に売ることが出来ないと聞いた。必要のない土地なのに困るなど思っています。	農業
60歳代	男	私ごとなんですが、父が農業を営んでおり、作業小屋がいっぱいあり、小屋もくずれそう。いらぬ物がいっぱいあります。捨てたりすればいいんですけど、私の力がないため、悩んでいます。	農業
70歳代	男	もともと農村地帯なのですが、兼業農家が多く、畑も家庭菜園のようで、農業としての活気がない。農業の後継者だけでなく、子ども達が家を出て、家としての後継者もない家が多いような気がする。	農業
70歳代	男	田（耕地）の大ほ場（1ha）を早くやってもらいたい。将来の農業者の為に！！	農業
70歳代	女	稲作の整備が行われ、農業をやめてしまいました。機械などの買い替えの時までがんばって来ましたが。農業法人で行っている人たちにがんばってもらいたいです。戦時農地解放で田を4ha9aあった父がロシアから帰った時、1ha8aしかなかったそうです。がまん強い父ががんばり、最高時1反550万の田が今では50万です。	農業
20歳代	女	子どもの遊べる環境が少ない。公園で球技が出来ない等はおかしいと思う。 地域の人に監視されている感があります。干渉がすごい。そのわりには関係が薄い。人によっては、特に若い人は住みづらいと感じると思います。	交流 各種施設
30歳代	男	神社の春、秋大祭の準備が将来難しくなるのでは（左の縄ぬい、しめ縄づくり→若い人はできない、清掃→人員減など）。子ども減少で子ども神輿の存続も問題となっています。農家の自然減で地区の田んぼを地元耕作者で守れるのか。地元住民同士のコミュニケーション向上を目的に新潟市から補助金をいただき活性化につなげたい。（例、自己紹介カードを使った会食、BBQなど）	交流
50歳代	女	役員のみならず手がいない。考え方の多様性、価値の多様性、今までこうしてきたからと同じことをしようとしても難しい。コロナもあって、集まることが減少し、集まる人数の制限があり、接点がないため、関係性が薄れます。	交流
50歳代	女	みなさん周囲の家の事まで気にかけて下さっている、という事は良いことなのだと思います。しかし、誰がいつ出掛けた、今日は誰が家にいた、誰が何時頃出掛けて何時頃帰ってきたとか、誰がどこで何の仕事をしているか等々、ストーカーされてるような気分になってしまい、家に帰ってくるのが本当にイヤになります。	交流

年代	性別	回答	分類
50歳代	女	集落の年長者に息子や手伝いをする人が挨拶をしないなど言いがかりをつけられます。農業後継者（息子）が、いない人達に言われのないうわさ話や口出しをされることがあり、そのために息子が心の病に悩まされています。	交流
70歳代	男	私は戦後のベビーブームに生まれ、昭和の時代に生活し経済成長してきた中で育ち、現代の生活と比べると今は個人情報保護等で集落内でもオープンな会合が少なく時代の流れを感じます。	交流
70歳代	男	集落の維持管理、とりわけ伝統的文化の継承はほぼ老人クラブによって担われているのが現状である。若い世代は勤めていることもあり、これに関わりにくい現実もあります。ただ大事なことは、老人世代が意識的に、また計画的に維持・継承の手だてを講じることです。また、こうした課題について自治会との共同のスタッフを組織し、検討する場が必要です。何の手だても講じなければ共同のための連帯意識も生まれず、あらゆる面での衰退が加速していくことになるだろう。基本的に集落の課題は集落の責任ではあるが、同時にそれは区や新潟市の課題でもある事を行政自身は認識すべきです。財政的な援助も含めて。	交流
40歳代	男	空き家を活用する仕組み。移住者に空き家がある事を知ってもらえる方法。集落で農業法人を作ればもっと効率が良くなるのでは？	空き家
60歳代	女	空き家が年々増加しつつあるため、持ち主の確認もしくは親戚等の管理者の明確化が必要に思います。空き家敷地内の樹木が大きくなって、隣近住宅に危険が及ぶ。落葉時の処理が手間。枯れ枝の落下。高齢者住人の増加。住民数の年々低下（自然減少しかたない）	空き家
70歳代	男	空き家が多くなり管理する人がいなくて困っています。	空き家
20歳未満	女	近くにコストコやIKEAを誘致して欲しい。	各種施設
30歳代	女	昔からあった小さい商店はなくなり、現在ある商店がなくなったら不便です（車がない人は特にそうだと思う）	各種施設
20歳未満	男	いい場所だが魅力は感じられない。	その他
40歳代	男	市街化調整区域の大規模開発を認めてほしい。開発申請手続きの簡素化をお願いしたい。	その他
40歳代	女	別になし（自然や景色がこわれていく）	その他
40歳代	女	アンケートを取らずに、やるべき事をやるべきでは。	その他
50歳代	男	余計な税金を使わないでもらいたい。地域のお店商品券、年二度やってもらいたい。飲食店ばかりではなく、様々な職を応援、また使用できるように工夫してもよいと思います。上越市では、様々な部内があったように思います。ぜひ参考にしてもらいたい。お店側も望んでいると思います。	その他
60歳代	女	葬儀に関して以前よりとても大変でしたが、コロナにて簡素化されてとても助かりました。	その他
70歳代	男	自治会や農家組合の役員の下。利害関係が強過ぎます。	その他

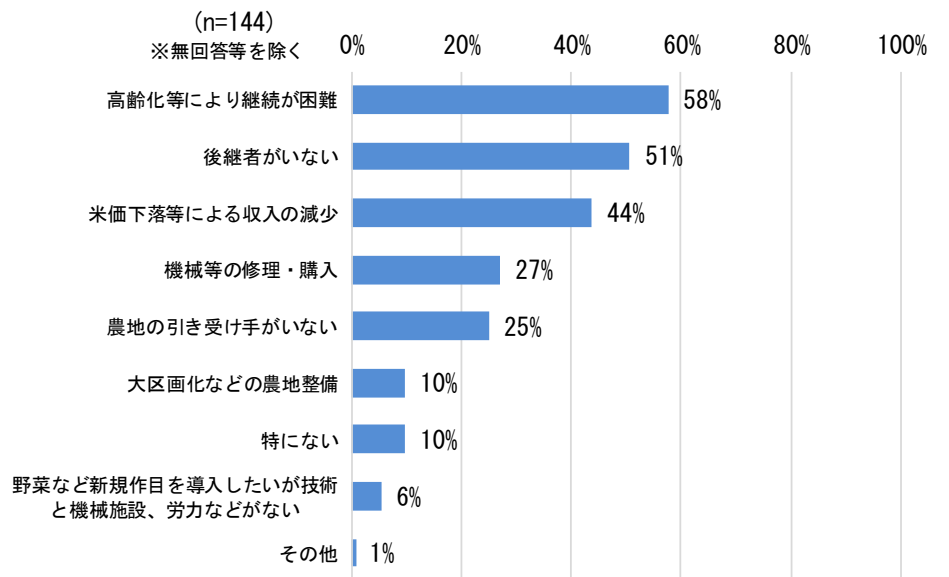
年代	性別	回答	分類
70歳代	男	新潟バイパスの車やバイクの音がうるさい。防音柵を早く作ってほしい。	その他
70歳代	女	アンケート問 14 の対策が実行できる様期待しています。	その他
70歳代	女	農家と後に加わった団地との合体集落です。まず、町内費が外の人々の話を聞くと、すごく高い。集会の後の宴会の費用も含まれていて、役員になった時以外は出席する人も少なく、サラリーマンと昔からの習慣が残っている農家との違いを感じます。	その他
80歳代	男	新潟市は何事も他市町村より遅い。	その他
80歳代	男	戦後に集落を 6 組に分割して利便性の向上に取り組んで現在も集落の機能があまっています。	その他

【ここからは農業を営んでおられる方におたずねします】

5 あなたの農業の就業状況と農業経営について教えてください。

問16. あなたの家の農業経営で、いま課題となっていることは何ですか。
(複数回答可)

- ・「高齢化等により継続が困難」の割合が58%で最も高く、次いで「後継者がいない」が51%となっており、担い手の確保について課題と感じている農家が多いと考えられる。



項目	回答数	比率
高齢化等により継続が困難	83	58%
後継者がいない	73	51%
米価下落等による収入の減少	63	44%
機械等の修理・購入	39	27%
農地の引き受け手がいない	36	25%
大区画化などの農地整備	14	10%
特にない	14	10%
野菜など新規作目を導入したいが技術と機械施設、労力がない	8	6%
その他	1	1%
サンプル数	144	—

図 63 農業経営で課題となっていること

【クロス集計：あなたの家は農家か】

- ・ 自給的農家においても、後継者や農地の引き受け手がないことが課題となっている傾向がある。

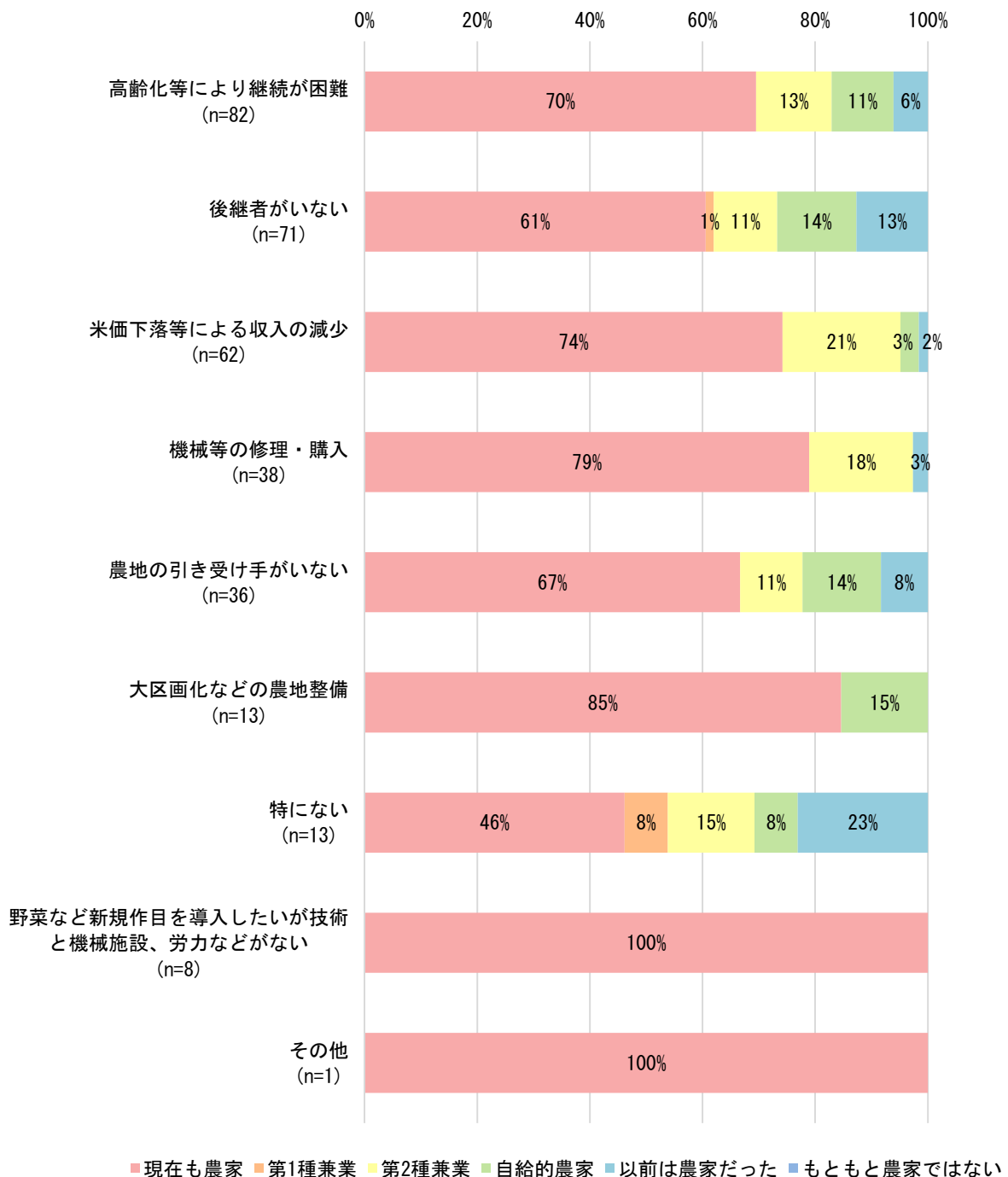


図 64 農業経営で課題となっていること（あなたの家は農家かの回答別内訳）

【クロス集計：後継者の有無】

・「米価下落等による収入の減少」「機械等の修理・購入」は、「すでに後を継いでいる」「予定者はいる」と回答した人の割合が比較的高くなっている。

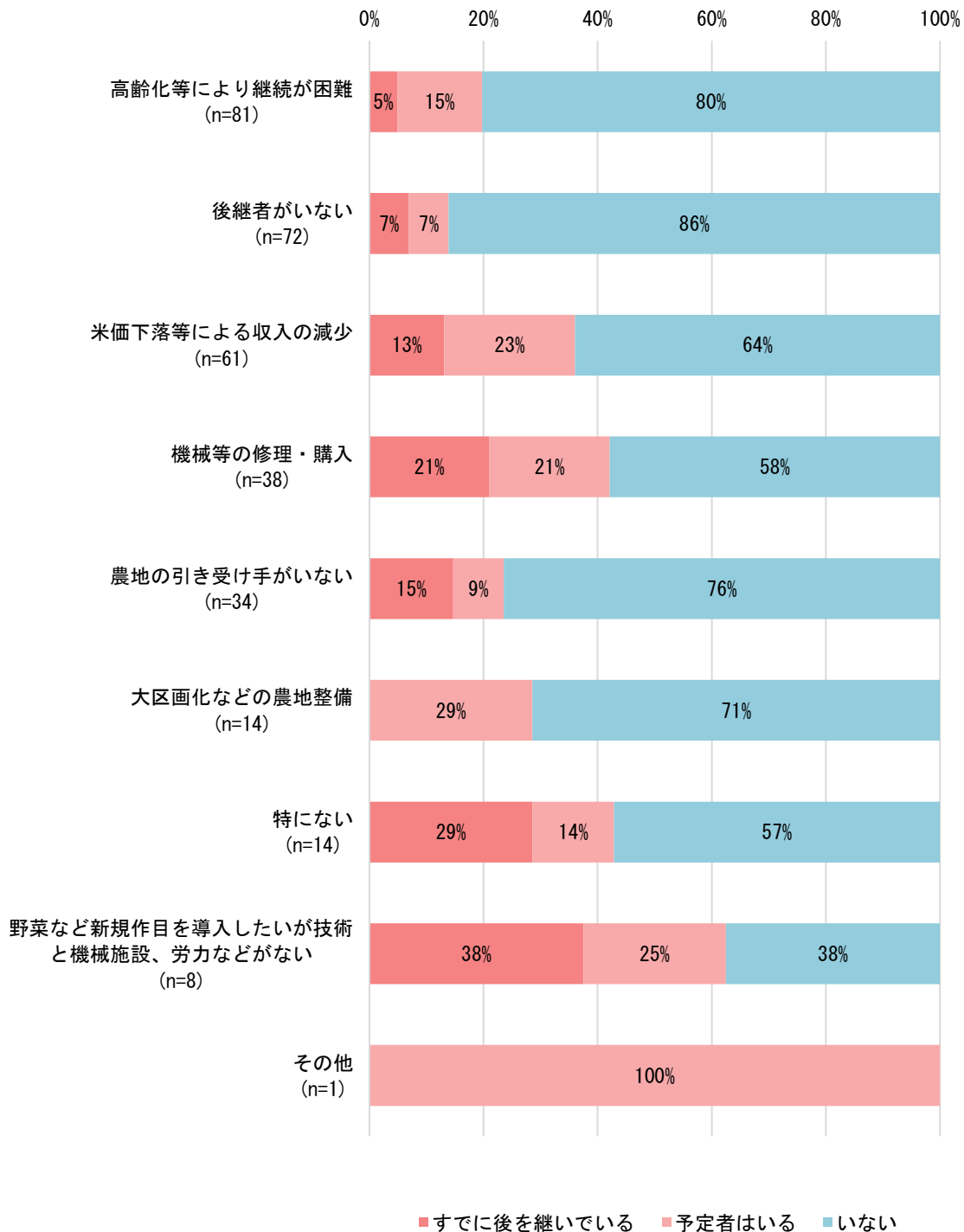


図 65 農業経営で課題となっていること（後継者の有無別内訳）

問17. 農業の後継者はいますか。

- ・「すでに後を継いでいる」「予定者はいる」の割合の合計は30%で、70%は後継者が「いない」と回答している。

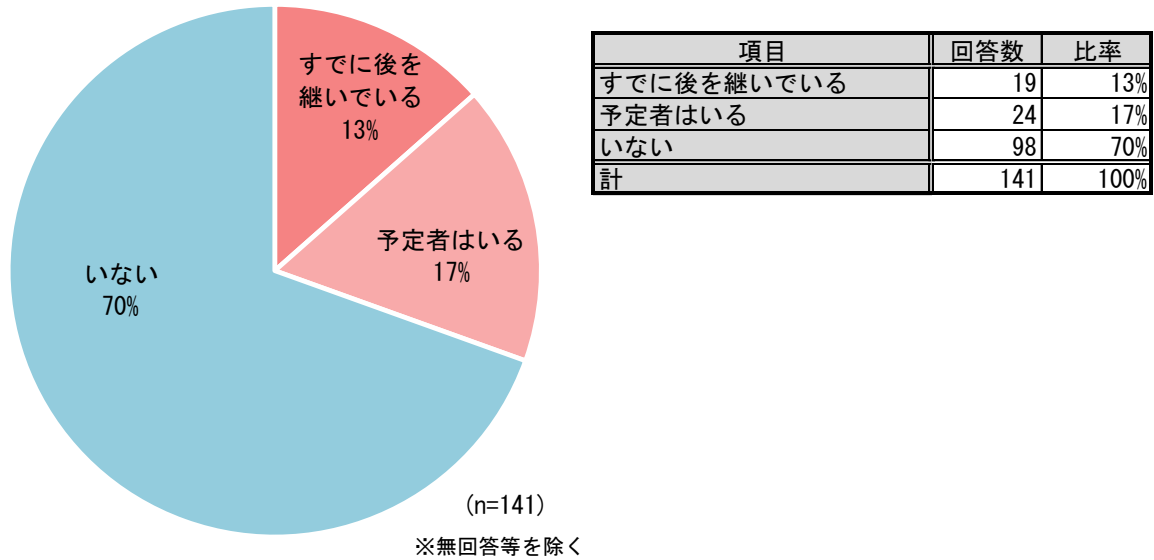


図 66 農業の後継者の有無

【クロス集計：年代】

- ・後継者が「いない」の割合は、70歳代が最も高くなっている。

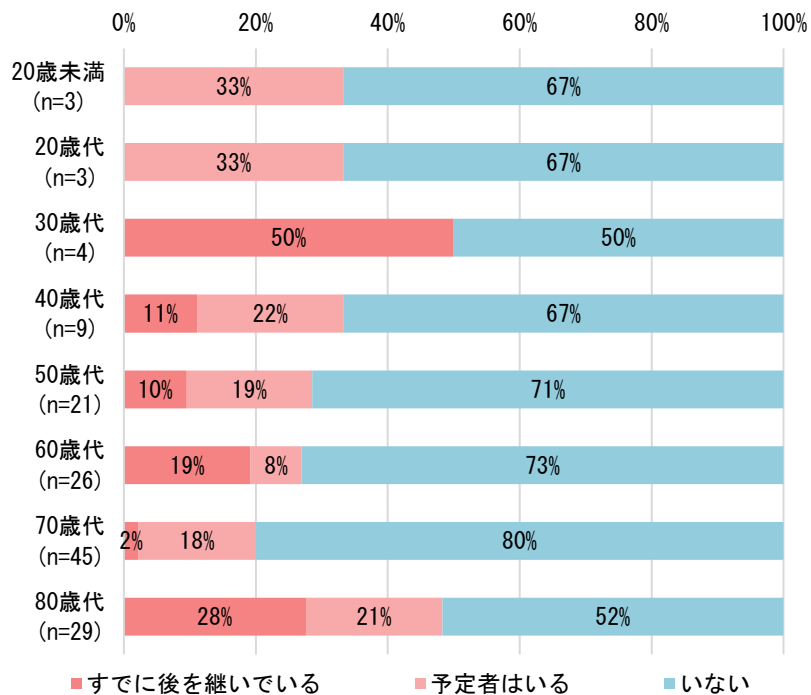


図 67 農業の後継者の有無（年代別）

【クロス集計：あなたの家は農家か】

・販売農家（農家、第1種兼業、第2種兼業）も、過半で後継者がいない。

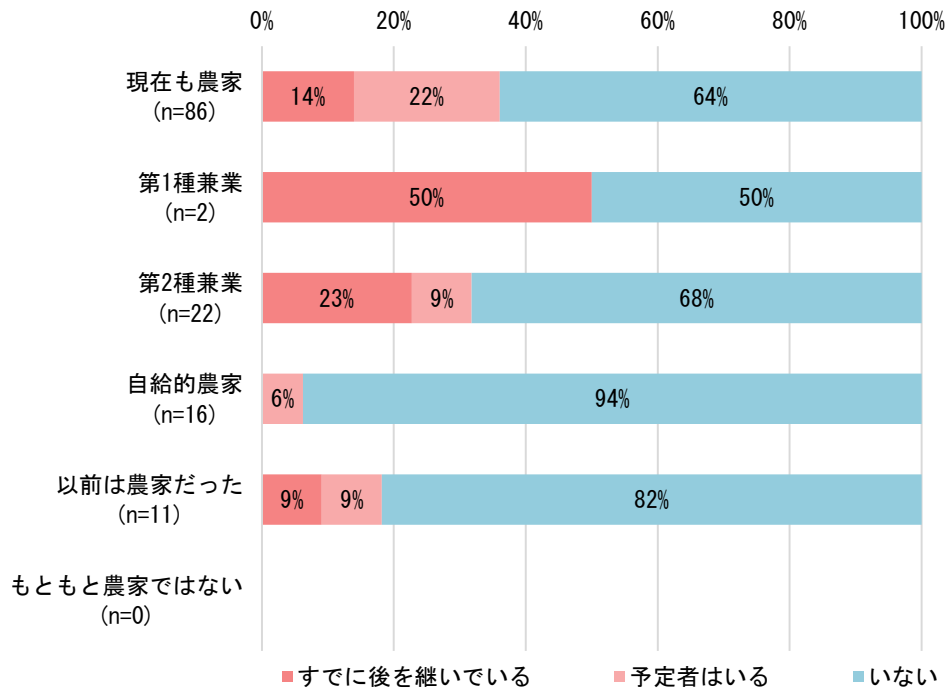
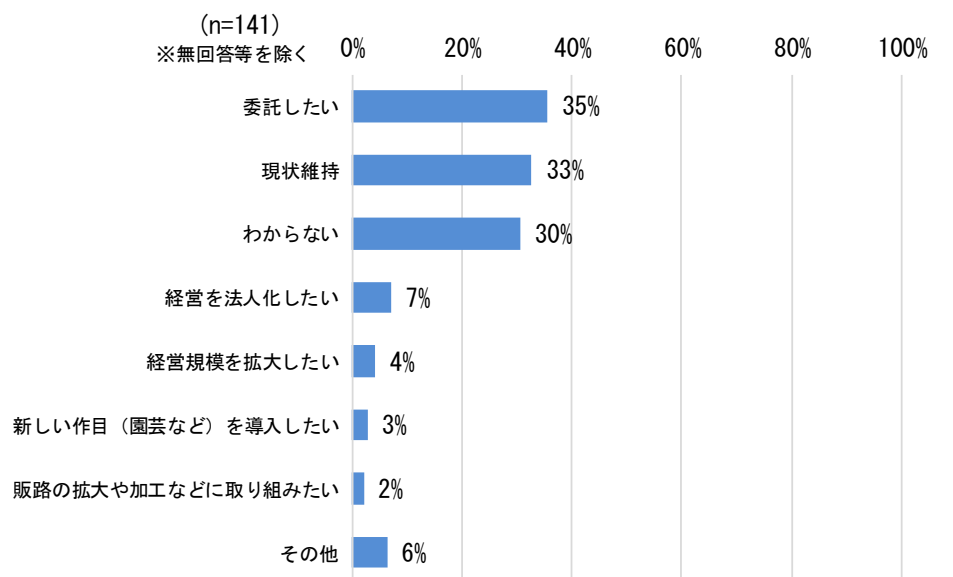


図 68 農業の後継者の有無（あなたの家は農家かの回答別）

問18. あなたの今後（5～10年）の農業経営についてお考えをお聞かせください。
（複数回答可）

- ・「委託したい」の割合が35%で最も高く、次いで「現状維持」が33%、「わからない」が30%となっている。「経営規模を拡大したい」や「新しい作目（園芸など）を導入したい」など、規模拡大や新たな取り組みをしたいという人は1割未満となっている。



項目	回答数	比率
委託したい	50	35%
現状維持	46	33%
わからない	43	30%
経営を法人化したい	10	7%
経営規模を拡大したい	6	4%
新しい作目（園芸など）を導入したい	4	3%
販路の拡大や加工などに取り組みたい	3	2%
その他	9	6%
サンプル数	141	—

■その他の主な内容

項目	回答数
委託している	2

図 69 今後の農業経営について

【クロス集計：年代】

・「委託したい」「現状維持」は、60歳代以上の割合が比較的高くなっている。

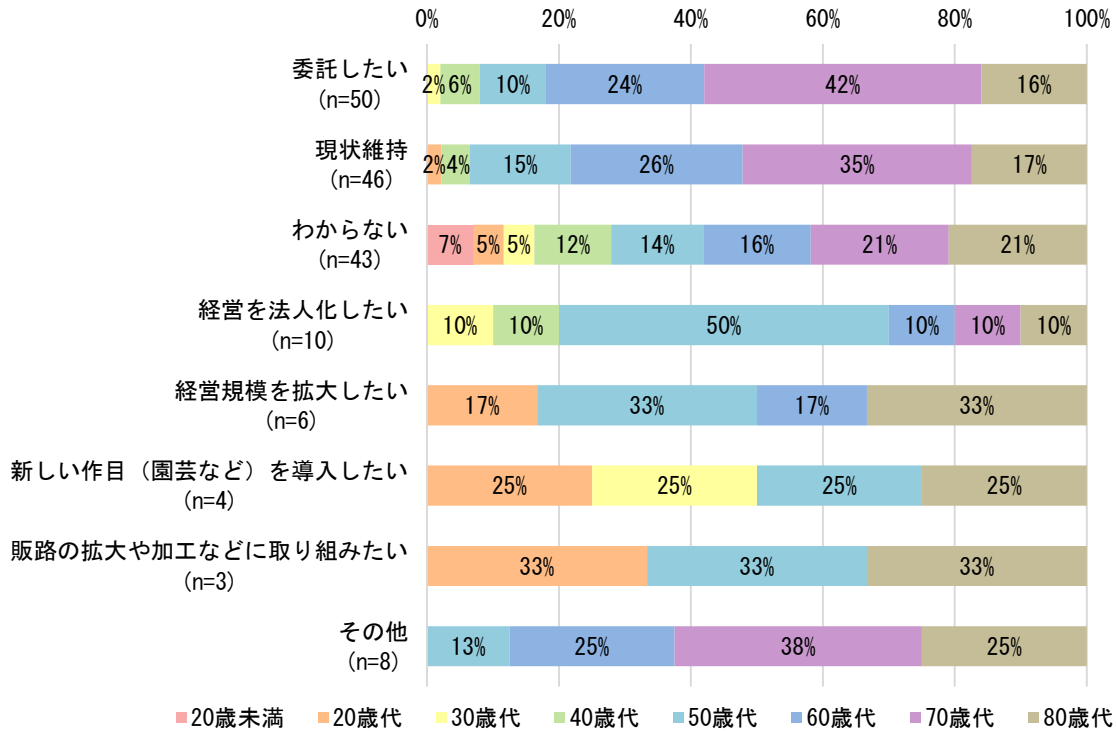


図 70 今後の農業経営について（年代別内訳）

【クロス集計：後継者の有無】

・「委託したい」は、「後継者がいない」と回答した人の割合が高い。

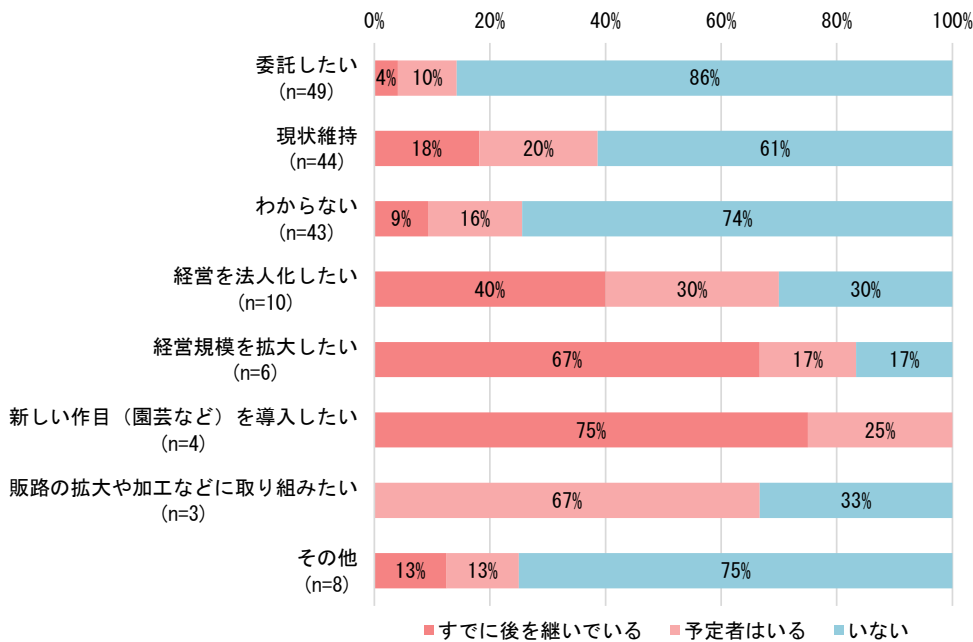


図 71 今後の農業経営について（後継者の有無別内訳）

[参考] 回答数に占める割合を集計

※ (n=000) : 回答者数、[000] : 回答数

【クロス集計：年代】

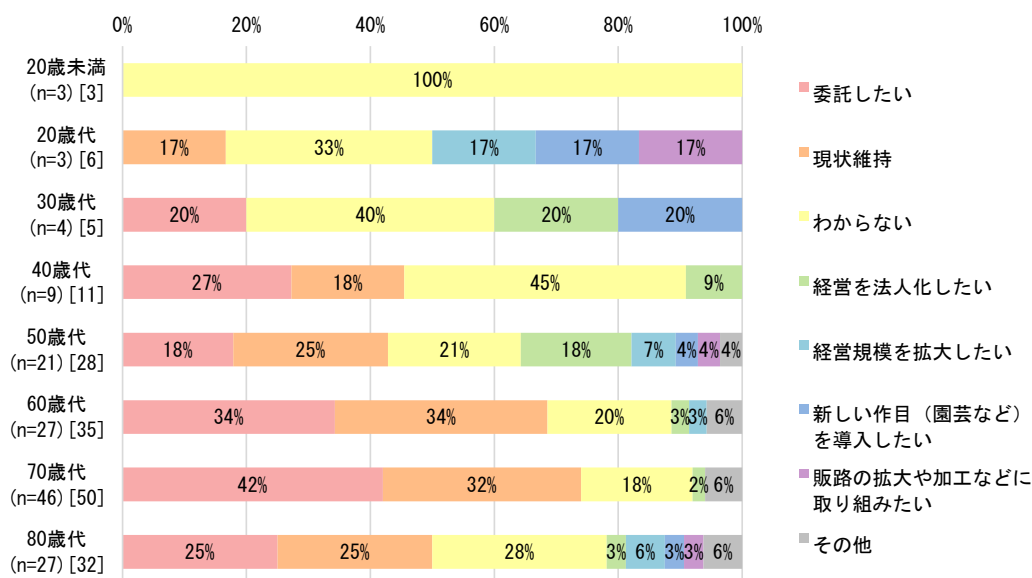


図 72 今後の農業経営について（年代別）

【クロス集計：後継者の有無】

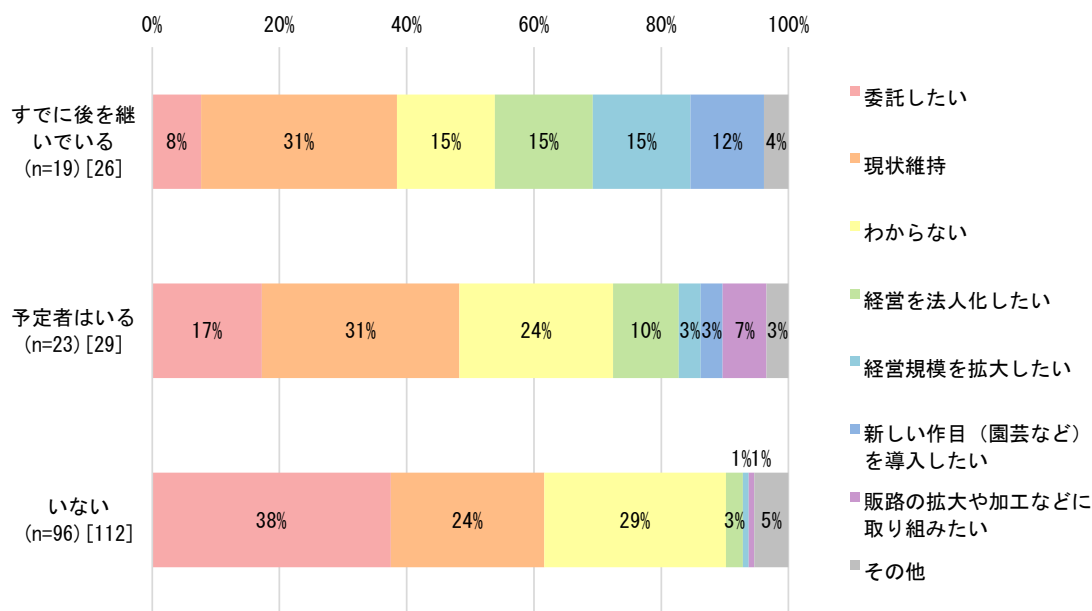
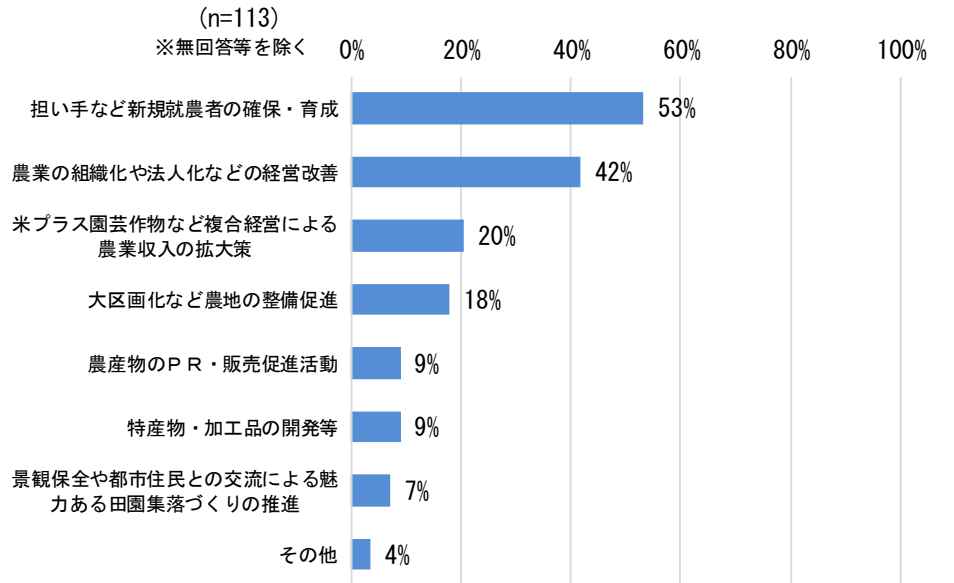


図 73 今後の農業経営について（後継者の有無別）

問19. あなたの集落の農業を持続的に発展させるためには、どのような施策が必要と考えますか。(複数回答可)

- ・「担い手など新規就農者の確保・育成」の割合が53%で最も高く、次いで「農業の組織化や法人化などの経営改善」が42%となっている。



項目	回答数	比率
担い手など新規就農者の確保・育成	60	53%
農業の組織化や法人化などの経営改善	47	42%
米プラス園芸作物など複合経営による農業収入の拡大策	23	20%
大区画化など農地の整備促進	20	18%
農産物のPR・販売促進活動	10	9%
特産物・加工品の開発等	10	9%
景観保全や都市住民との交流による魅力ある田園集落づくりの推進	8	7%
その他	4	4%
サンプル数	113	—

図 74 集落の農業を持続的に発展させるために必要な施策

【クロス集計：年代】

・「大区画化など農地の整備促進」「担い手など新規就農者の確保・育成」「農業の組織化や法人化などの経営改善」は、70歳代の割合が高い。

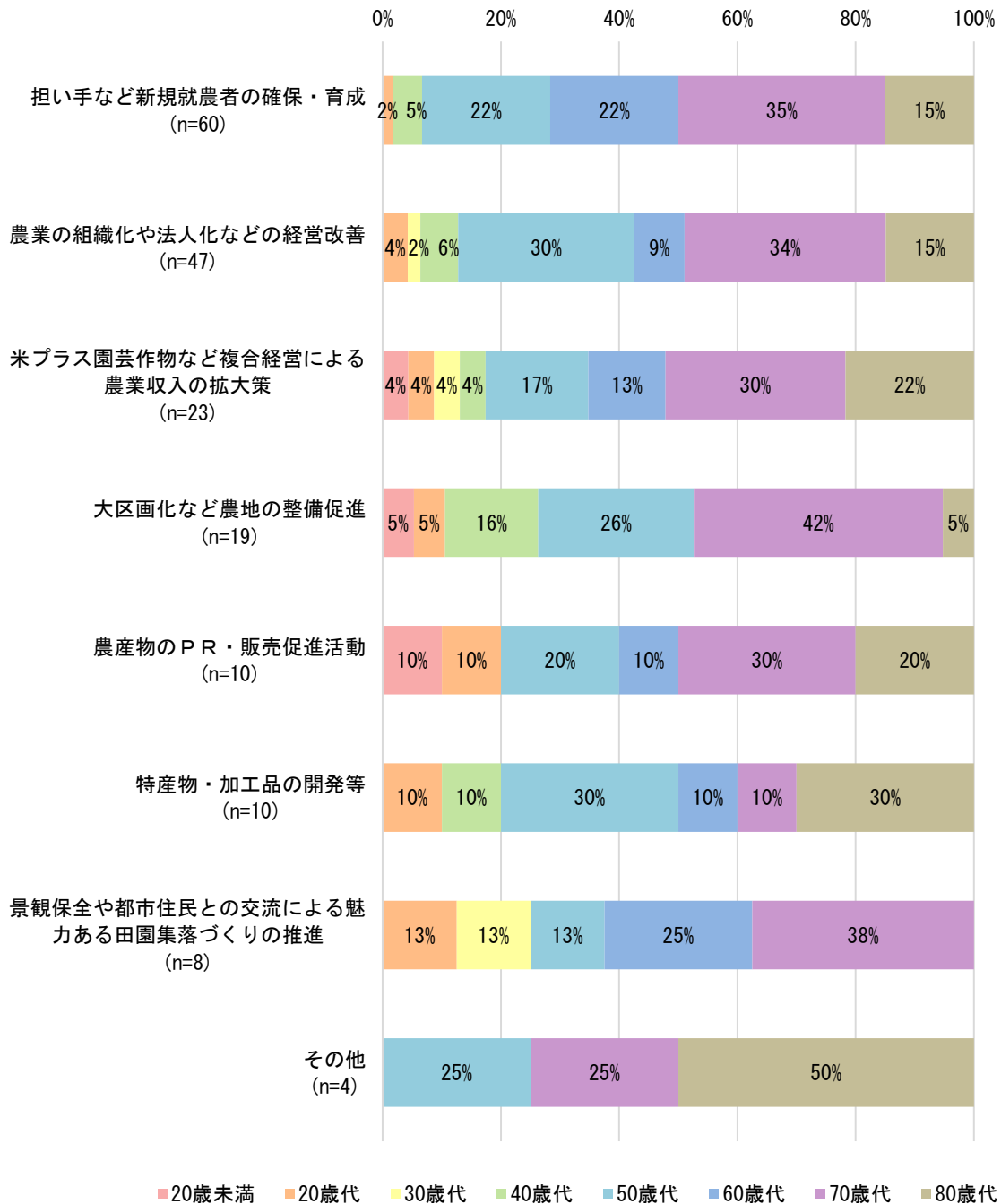


図 75 集落の農業を持続的に発展させるために必要な施策（年代別内訳）

[参考] 回答数に占める割合を集計

※ (n=000) : 回答者数、[000] : 回答数

【クロス集計：年代】

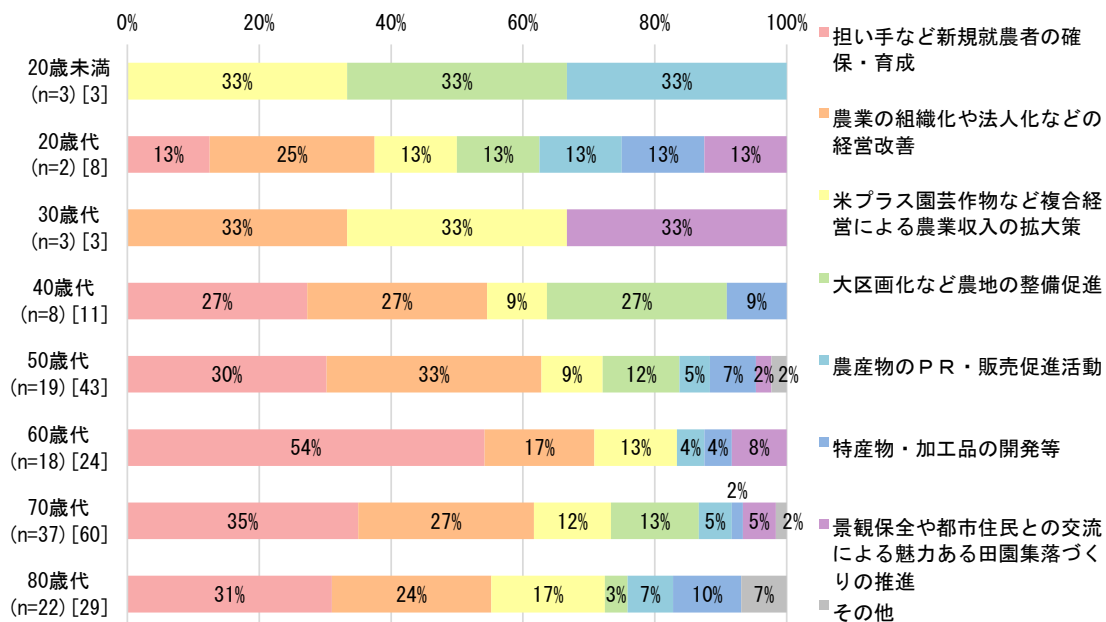


図 76 集落の農業を持続的に発展させるために必要な施策（年代別）

【問20、21は、経営者または経営の代表者の方のみお答えください】

問20. あなたの現在（本年度）の営農形態と経営面積を教えてください。

・営農形態では水稲が3/4を超えている。

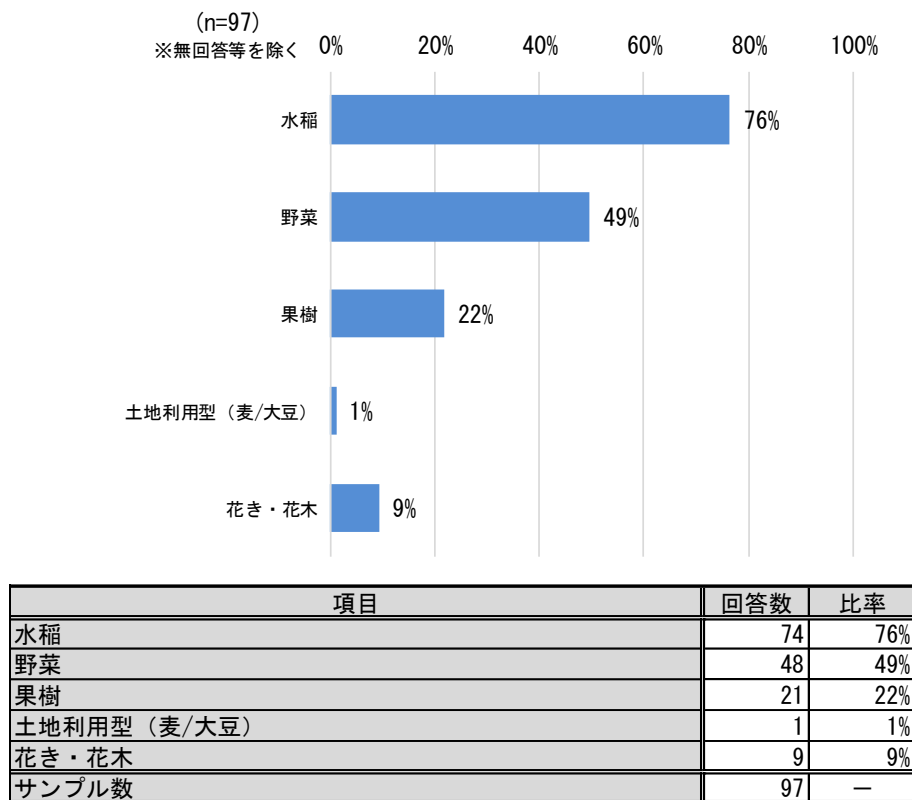


図77 現在（本年度）の営農形態と経営面積

■米：作付面積

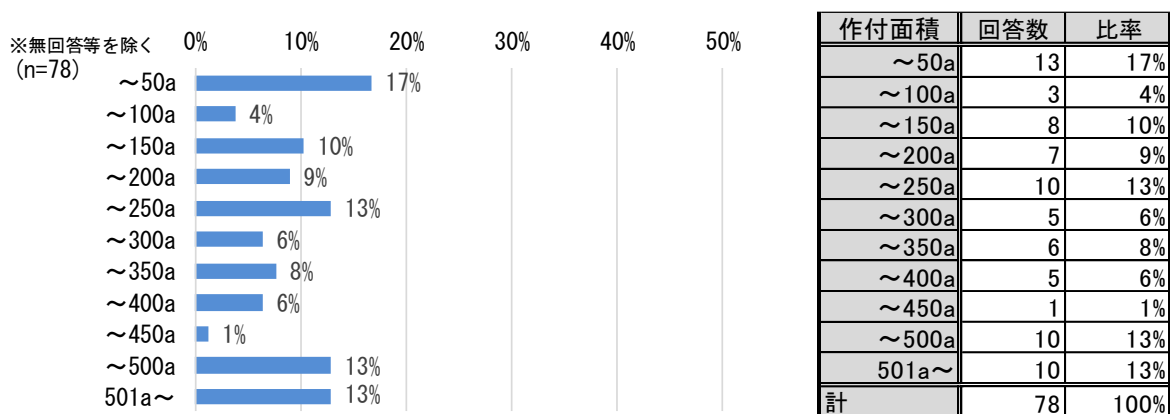
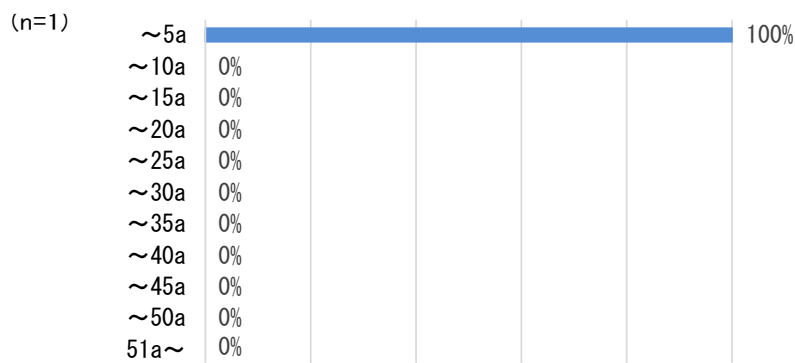


図78 米の作付面積

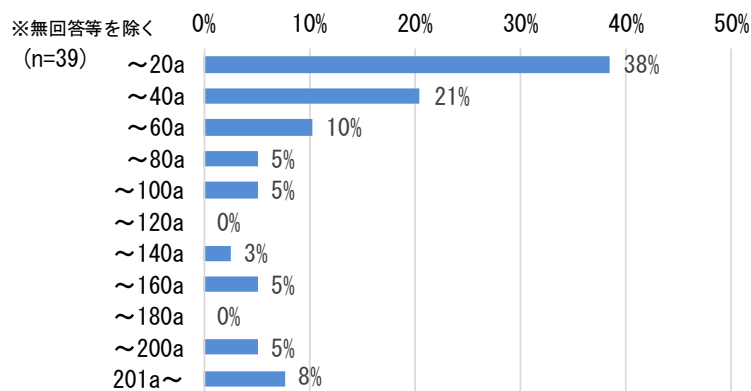
■土地利用型（麦・大豆）：作付面積



作付面積	回答数	比率
~5a	1	100%
~10a	0	0%
~15a	0	0%
~20a	0	0%
~25a	0	0%
~30a	0	0%
~35a	0	0%
~40a	0	0%
~45a	0	0%
~50a	0	0%
51a~	0	0%
計	1	100%

図 79 土地利用型（麦・大豆）の作付面積

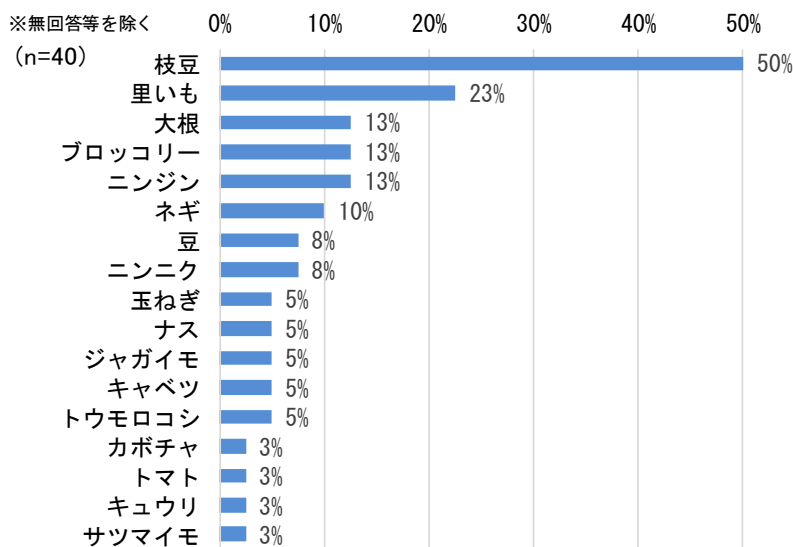
■野菜：作付面積



作付面積	回答数	比率
~20a	15	38%
~40a	8	21%
~60a	4	10%
~80a	2	5%
~100a	2	5%
~120a	0	0%
~140a	1	3%
~160a	2	5%
~180a	0	0%
~200a	2	5%
201a~	3	8%
計	39	100%

図 80 野菜の作付面積

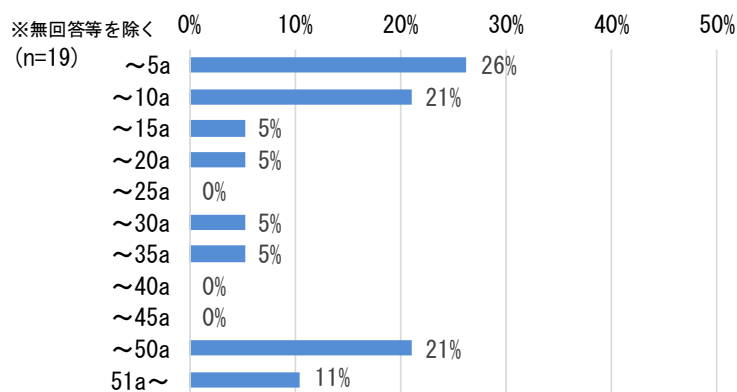
■野菜：作付品目



作付品目	回答数	比率
枝豆	20	50%
里いも	9	23%
大根	5	13%
ブロッコリー	5	13%
ニンジン	5	13%
ネギ	4	10%
豆	3	8%
ニンニク	3	8%
玉ねぎ	2	5%
ナス	2	5%
ジャガイモ	2	5%
キャベツ	2	5%
トウモロコシ	2	5%
カボチャ	1	3%
トマト	1	3%
キュウリ	1	3%
サツマイモ	1	3%
サンプル数	40	—

図 81 野菜の作付品目

■果物：作付面積



作付面積	回答数	比率
~5a	5	26%
~10a	4	21%
~15a	1	5%
~20a	1	5%
~25a	0	0%
~30a	1	5%
~35a	1	5%
~40a	0	0%
~45a	0	0%
~50a	4	21%
51a~	2	11%
計	19	100%

図 82 果物の作付面積

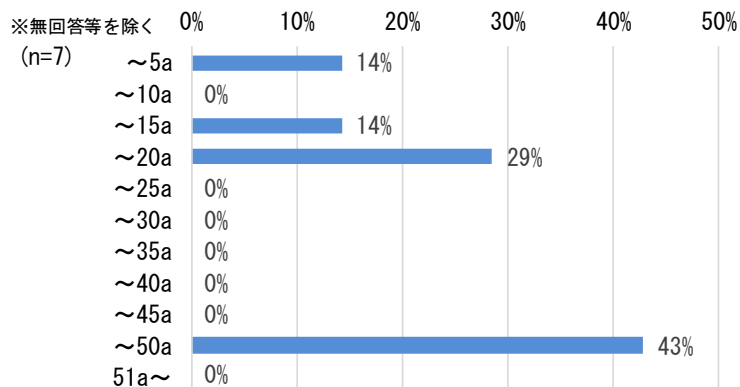
■果物：作付品目



	回答数	比率
桃	10	50%
柿	9	45%
ブドウ	1	5%
サンプル数	20	—

図 83 果物の作付品目

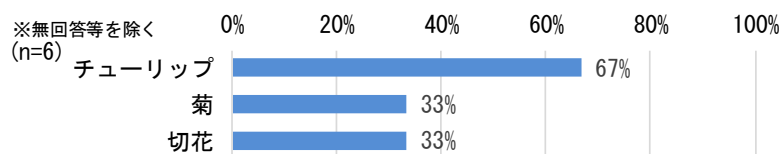
■花き・花木：作付面積



作付面積	回答数	比率
~5a	1	14%
~10a	0	0%
~15a	1	14%
~20a	2	29%
~25a	0	0%
~30a	0	0%
~35a	0	0%
~40a	0	0%
~45a	0	0%
~50a	3	43%
51a~	0	0%
計	7	100%

図 84 花き・花木の作付面積

■花き・花木：作付品目



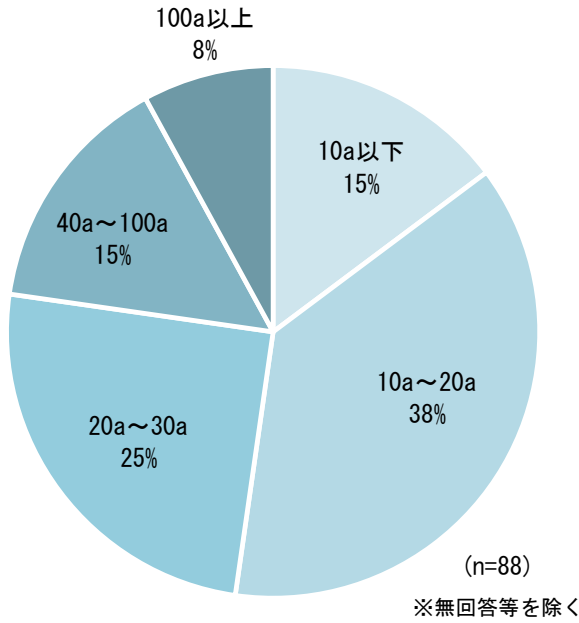
	回答数	比率
チューリップ	4	67%
菊	2	33%
切花	2	33%
サンプル数	6	—

図 85 花き・花木の作付品目

問 2 1. あなたが耕作する農地の整備状況について教えてください。

■現在の1区画の平均面積

・営農面積はさまざまである。

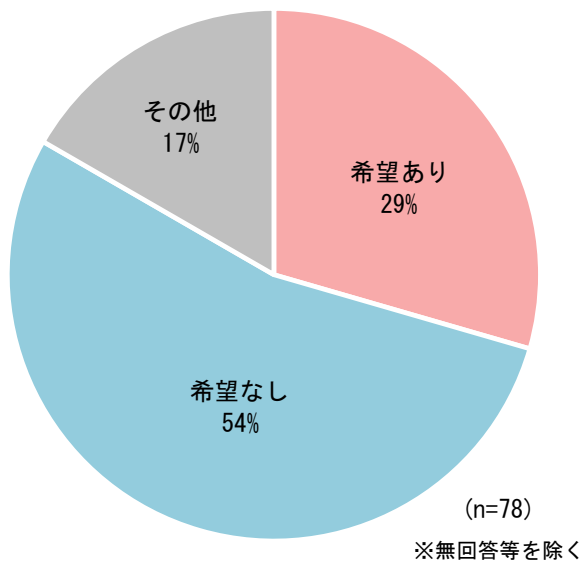


項目	回答数	比率
10a以下	13	15%
10a~20a	33	38%
20a~30a	22	25%
40a~100a	13	15%
100a以上	7	8%
計	88	100%

図 86 1 区画の平均面積

■今後のほ場整備について

・ほ場整備の希望は約 30%である。



項目	回答数	比率
希望あり	23	29%
希望なし	42	54%
その他	13	17%
計	78	100%

■その他の主な内容

項目	回答数
整備済み	8

図 87 今後のほ場整備について

【クロス集計：年代】

・50歳代で、ほ場整備を希望する割合が高い。(40歳代以下は少数のため検討除外)

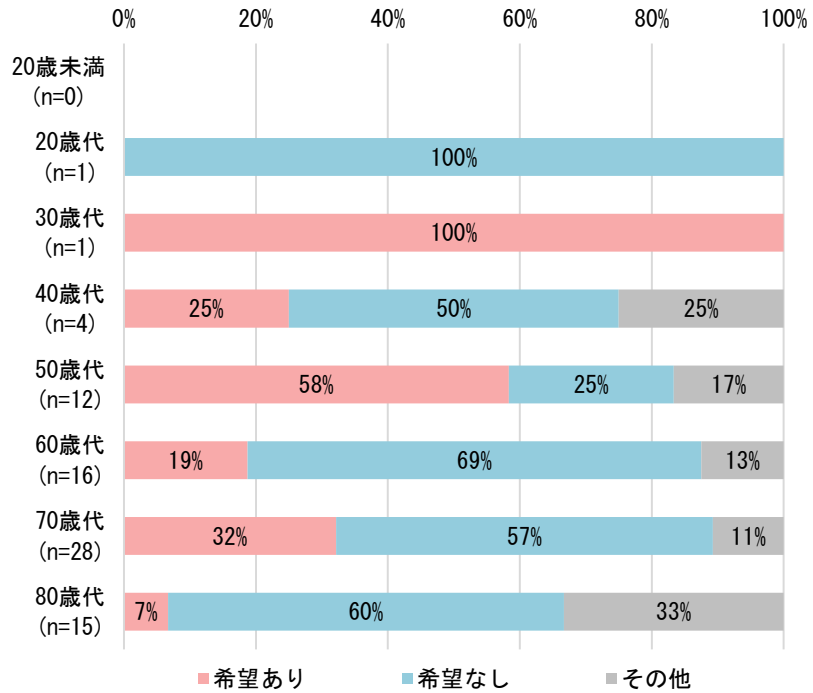


図 88 今後のほ場整備について (年代別)

【クロス集計：あなたの家は農家か】

・営農形態による差はあまりみられない。(第1種兼業は少数のため検討除外)

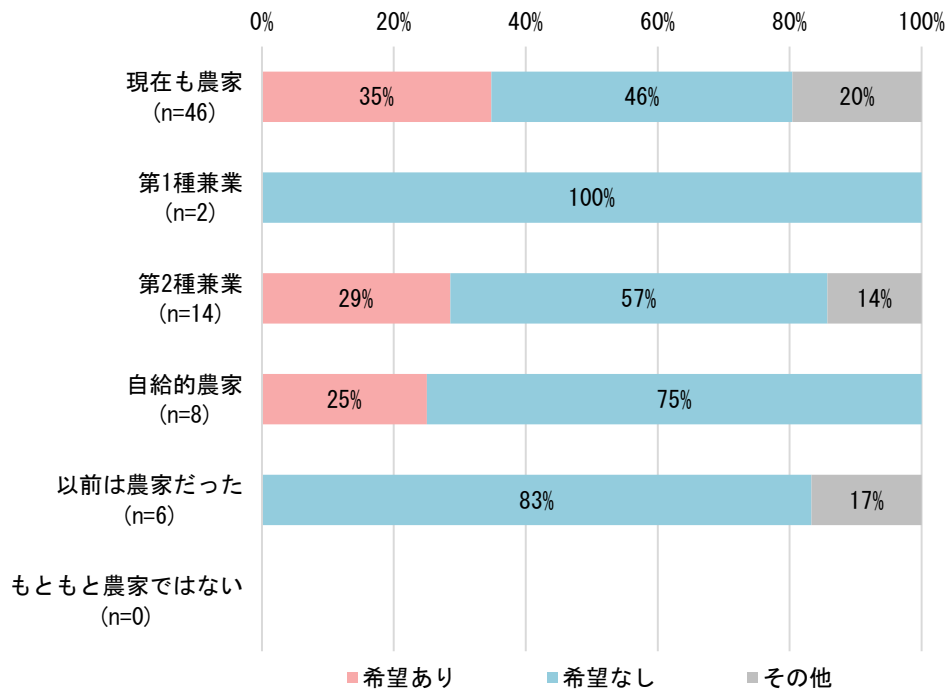


図 89 今後のほ場整備について (あなたの家は農家かの回答別)

【クロス集計：後継者の有無】

- ・後継者の有無による大きな差はみられず、後継者の有無とほ場整備の希望の関係性は薄いと考えられる。

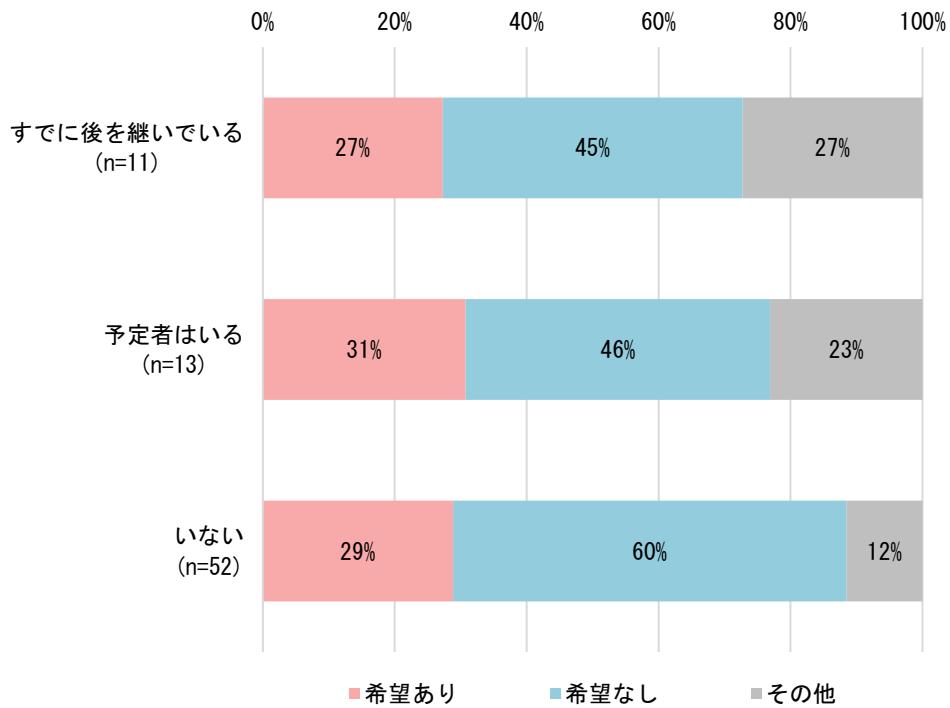
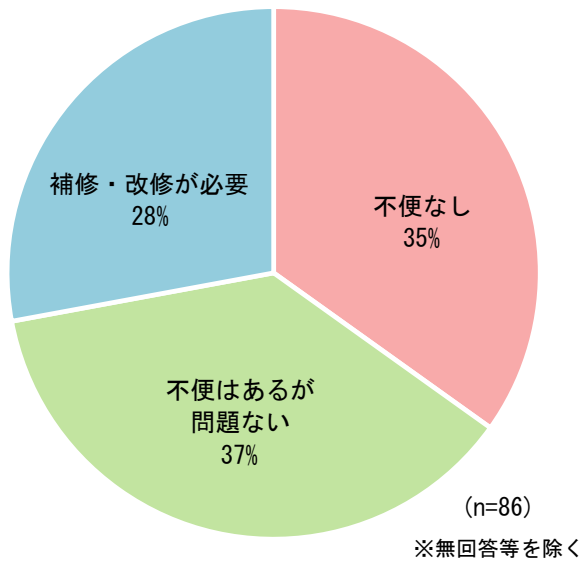


図 90 今後のほ場整備について（後継者の有無別）

■用排水の状況（現状）

- ・「補修・改修が必要」の割合が、全体の約 30%となっている。



項目	回答数	比率
不便なし	30	35%
不便はあるが問題ない	32	37%
補修・改修が必要	24	28%
計	86	100%

図 91 用排水の状況（現状）

【クロス集計：年代】

- ・50歳代で、「補修・改修が必要」と回答している割合が高い。(40歳代以下は少数のため検討除外)

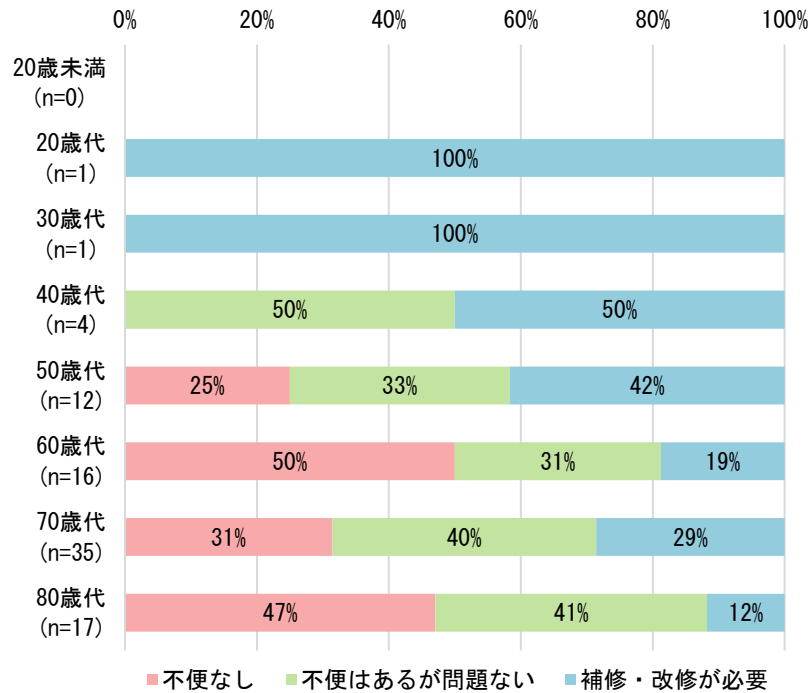


図 92 用排水の状況（年代別）

【クロス集計：あなたの家は農家か】

- ・営農形態と補修・改修の必要性に大きな変化はみられない。(第1種兼業は少数のため検討除外)

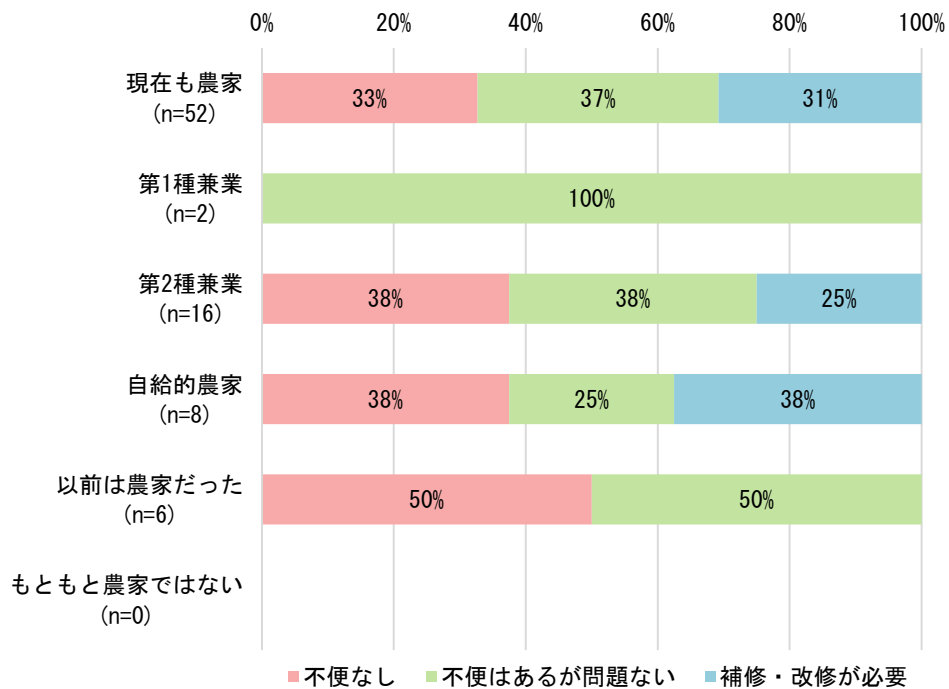


図 93 用排水の状況（あなたの家は農家かの回答別）

【クロス集計：後継者の有無】

・後継者がいないほうが補修・改修の必要性が高い結果となっている。

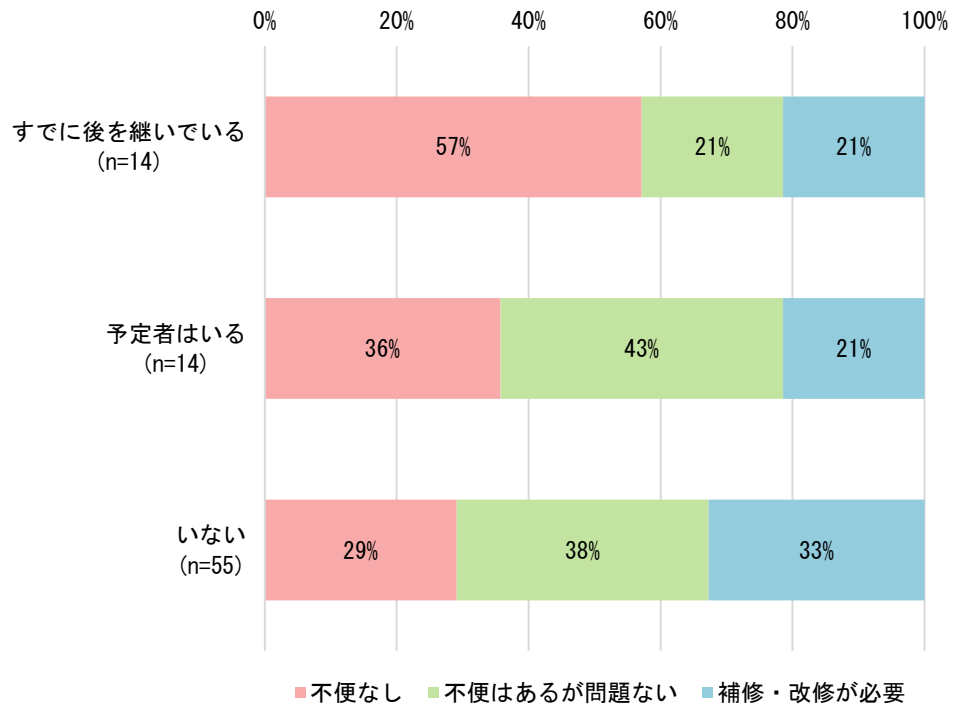


図 94 用排水の状況（後継者の有無別）

【問22は、農業経営に関わっておられる世帯員の方全員におたずねします】

問22. 今後の農業経営についての課題やご意見等がありましたら、ご自由に記載願います。

項目	経営	後継者	農業法人	その他	サンプル数
回答数	9	9	3	10	30
比率	30%	30%	10%	33%	—

年代	性別	回答	分類
20歳代	男	個別生産（米）に対する補助金等が必要です。組合（法人等）だけでは維持が困難になります。	経営
60歳代	男	農機具の更新時期に入ってきており、入替をしたいが補助金の申請のハードルが高くて苦慮しています。後継者に引き継ぎたいのですが、米価が低迷状況で引き継ぐことが出来ない状態です。	経営
60歳代	男	米価の下落、資材の上昇がみられます。	経営
60歳代	男	肥料、農薬の価格を低くし、土地改良費等固定経費の削減をお願いしたい。	経営
60歳代	男	農業機械の更新が必要になった場合、更新するか委託するか、判断材料にしています。	経営
60歳代	男	経費の増大、農産物の価格低迷が続いています。	経営
60歳代	男	行政は特定の人にしか補助金をくれない。65才以上の人は行政とJAに見捨てられました。	経営
70歳代	男	諸物価高騰のため経営は激しいです。	経営
80歳代	男	農業は現金収入採算が悪い。就業している時は毎月給料が入る（会社員40年で定年退職した）水稲+里芋生産者です。	経営
70歳代	男	私で農業は終わりです（後継者無し）。集落内組織、法人にお願いしたいです。	後継者 農業法人
50歳代	男	企業の定年65歳化が進んでいる中、50～65歳でも農業を志したい人への行政支援（減税、補助金等）を行って、高齢就農者と若い就農者の中間層を増やすと共に、農業離職者の急激な減少を防ぎ、農業基盤の維持・向上を図る政策をお願いしたい。	後継者
50歳代	女	後継者がいない。引き受け手もいない。どうしたら良いかわからない。	後継者
50歳代	女	高齢化や後継者がいないなどの問題があります。重労働で働きながらでは負担が大きい。農業の効率化を進め、若者が働きながらも引き継いでいけるような環境をつくっていかねば続かないのではと思います。	後継者
60歳代	女	後継者がいないので、この先が心配です。	後継者
70歳代	男	農業用の肥料、農薬、機械の性能が上がり、値段も高価ですが農業の収入が少ない。	後継者
70歳代	男	亡くなったあとの農地が心配です。用排水路の管理が今でもやっとなです。（人手不足）	後継者
70歳代	男	若い人が少ない。	後継者

年代	性別	回答	分類
80歳代	男	今の家の状態だと作業する人がいなくなり、水田が草やぶになる恐れがあります。	後継者
50歳代	男	大きな農業法人がない。もし委託したくても畑の作り手がない。	農業法人
80歳代	女	委託しても、大きな農業法人がない。	農業法人
30歳代	男	田んぼは委託しているが、一部で畑をしているので、今後、堤外地を国に返上しても周りの方に迷惑がかかるか心配です。	その他
50歳代	男	離農して10年が経ちます。娘のために農地を手放したい。農業収入0円、経費でマイナス。こんな事は変だと思えます。改善して下さい。	その他
50歳代	女	農地がこんなに邪魔になるなんて昔の人は思いもしなかっただろうに。	その他
50歳代	女	両親が病気になり（現在は他界）離農して10年がたちます。農業収入は0円なのに経費だけがかかる。離農した家は農地にかかる税金等の免除が必要。農家に生まれたら一生経費を払い続けていかなければならないなんておかしいと思う。	その他
70歳代	男	ほ場整備が必要です。	その他
70歳代	男	方向はとても暗いです。	その他
70歳代	男	元気の内はやりますが、先の事はわかりません。成り行き次第です。	その他
70歳代	女	農業には携わって（夫のみ）、食卓には自家製のものを食べていて安心・安全です。家族がいつまで生活できるか？野菜は他から（マーケット等）購入したくない。自給自足でいきたい。	その他
80歳代	男	技術指導が必要です。	その他
80歳代	男	果物、加工、販売が重要です。	その他

5. 調査結果の要約

(1) 代表者ヒアリング

1 集落の概況について

- ◆いずれの集落も、人口は減少傾向となっている。
- ◆一方で、世帯数は概ね横ばいとなっており、1世帯当たりの世帯員数が減っている。近隣に分家をつくるかたちで世帯が増える事例が多く、新たに転入などで世帯が増える事例は少ない。

2 生活環境について

- ◆集落内には、商店や病院がなく、近隣の集落や市街地まで行く必要がある。
- ◆民間の路線バスや区バスの停留所が集落内にあるのは4集落。ただし、バス停がある集落からも、集落からバス停が遠い、便数が少ないなど、公共交通が不便という意見がみられた。
- ◆集落が管理する集会所が各集落で設置されており、コミュニティの拠点として活用されている。
- ◆空き家は全集落で発生している。多くは3軒前後、なかには6軒というところもみられた。所有者を把握しているところが多いが、所有者が分からず荒れたままになっている事例もある。
- ◆耕作放棄地は、まったくない集落がある一方で、3集落で生じており、雑草が繁茂したり、藪状態となっている集落もある。概ね所有者は把握しているものの、継続的な管理が必要なことから所有者が対応しきれていない事例もある。

3 支え合いについて

- ◆高齢者のみの世帯では、子どもや親戚、介護ヘルパー等との交流がみられ、現時点で日常生活に困っているという状況にはないという意見が多くみられた。

4 集落行事について

- ◆全集落で、年1~2回程度のお祭りを実施しており、住民の交流の場となっている。
- ◆江湊いなどの共同作業は年1~2回実施され、概ね7~8割の住民が参加している。
- ◆草取りやゴミ拾い、公園の管理などを集落で実施しているところもある。
- ◆今後、農家や世帯数の減少、高齢化が続くと、人手が足りなくなる可能性が高い。

5 集落の課題等について

- ◆課題として、公共交通、人口減少、自治会費に関する話題が多くみられた。
- ◆公共交通については、バス停が遠いこと、便数が少ないこと、運行時間帯が限られていることなどに不便を感じているという意見が多くみられた。

- ◆人口減少では、集落外からの新規転入がほとんどないことから、特に若い世代を呼び込む取り組みが必要。現在は問題なく集落を運営できているが、5年10年先には、状況は大きく変わると考えられ、近隣集落との連携が必要になる可能性もある。
- ◆自治会費については、世帯数が少ないため1世帯の負担が大きくなっている。
- ◆各集落には独自の課題があるが、住民同士の話し合い、行政等への相談をしながら、集落で協力して課題解決に取り組んでいる姿がうかがえる。

6 地域農業の就業状況と農業経営について

- ◆いずれの集落でも、担い手の減少、後継者の不足が喫緊の課題となっている。60歳代以上の農家では、子どもが農業以外に就業しているため後継者を確保できておらず、将来が不透明な場合が多い。
- ◆ほ場整備の状況は集落によって異なる。2集落では大区画のほ場整備が完了している。一方で、ほ場整備をしていない集落では、耕作しにくいいため委託を断られたり、農業機械を使って効率化を図ることができないなどの問題が生じている。
- ◆法人を設立し大規模経営を行っている集落もあるが、他の集落では組織の立ち上げの話が出たことがあっても、実現に至っていない。

7 農業の経営課題について

- ◆農業機械や生産資材の価格上昇に伴う負担増、米価の低迷、担い手不足に関する課題意識が強くみられた。

(2) アンケート調査

1 あなたご自身のことを教えてください

- ◆問 4 では、「もともと農家ではない」が 36%、「以前は農家だった」が 17%と、農村集落の住民の約 5 割が農業に関わりがない住民となっている。
- ◆問 5 の住所の履歴では、男性は「生まれてからずっと現住地」の割合が 72%と高い一方で、女性は「現住地以外からの転入」の割合が 59%と高くなっており、性別による差が大きい。理由としては、女性は男性よりも結婚を機に転入・転出する人が多いことが考えられる。

2 集落の概況について教えてください

- ◆問 8 の移動方法では、「自家用車」が 61%で最も高く、「鉄道・バス」といった公共交通は 8%となっている。公共交通の利便性が低く、自家用車を利用する人が多いと考えられる。
- ◆問 10 の農家戸数の変化が集落活動に及ぼした変化や影響では、「隣近所との関係が希薄になった」が最も多く、農業に携わらない住民が増えたことで、農業を通じて自然ととれていた集落内のコミュニケーションが減っていると考えられる。

3 あなたが感じる集落（地域）の魅力や誇りにについて教えてください

- ◆問 11 の集落の愛着については、「強くある」と「ややある」の合計が 60%、「ない」と「あまりない」の合計が 36%となっている。属性別では、年代が高い人、男性、生まれてからずっと現住地に住んでいる人は「強くある」「ややある」の割合が高い傾向がみられる。
- ◆問 12 の集落の魅力や誇りに思うことでは、「特にない」が最も多く 38%となっており、住所の履歴や農家かどうかによる違いはあまりみられない。

4 生活上の問題点と思うことについて教えてください

- ◆問 13 の集落の問題については、「子どもや若者の減少」が最も多く、人口減少への課題意識が強くみられる。
- ◆問 14 の集落を良くするために必要なことでは、「移動手段や公共交通の利便性」が最も多くなっている。また、問 15 の自由記述でも公共交通に関する意見が多くみられる。

5 あなたの農業の就業状況と農業経営について教えてください

- ◆問 16、問 19 の農業経営の課題と必要な施策に関しては、後継者の確保・育成に関する回答の割合が高く、担い手の確保に対する危機感が強い。
- ◆問 17 では、農家のうち 7 割が後継者を確保できていない状況である。
- ◆問 18 の今後の農業経営についての考えでは、「委託したい」の割合が 35%で最も高く、次いで「現状維持」が 33%、「わからない」が 30%となっており、規模拡大や新たな取り組みに挑戦をしたいという農家は少ない。

6. 総括

【集落について】

- ◆離農が進み、農業に携わらない世帯の割合が増えて、農家と非農家の混在化が進み、集落における課題と価値観は多様化している。
- ◆アンケート調査では、約4割が集落への愛着が「ない」「あまりない」、また、魅力や誇りに思うことは「特にない」と回答している。特に若い世代はこの傾向が顕著で、集落で暮らすことに拘らない人が多いと考えられ、今後さらに人口流出が進むことが懸念される。
- ◆祭りなどの集落行事は、人口減少に伴い規模が縮小傾向にあるものの、定期的に開催されている。住民同士の関係や集落への愛着が希薄になりつつあるなかで、交流の場、伝統継承の場として重要な役割を担っている。
- ◆集落内には商店や病院がなく、市街地まで出向く必要がある。しかし、集落内にバス停がない集落もあり、バス停があったとしても家から遠い、便数が少ない、時間帯が合わないなど、公共交通の利便性は高くない。代表者ヒアリングやアンケート調査では、公共交通に関する意見が多くみられ、高齢になって自家用車を使用できなくなった場合の、日常生活での移手段に不安を感じている住民が多い。
- ◆空き家や耕作放棄地は各集落で発生しており、今後人口減少が進むにつれて増加すると想定される。管理されずに荒れたままになっている場合は、害虫が発生したり、防犯や景観などに悪影響が生じることから、継続的な対応策が必要である。

【農業について】

- ◆農業機械や資材の価格上昇、米価の低迷等により、農業経営は厳しい状況にある。特に農業機械の更新費が大きな負担となっており、農業機械の共同利用の仕組みなど、導入コストの低減が求められる。
- ◆離農や高齢化が進み、担い手の確保が喫緊の課題となっている。農業経営の組織化や法人化によって、営農の継続性を確保する必要がある。しかし、農業の組織化や法人化への関心は高いものの、集落内の話合いや調整が進まず、実現に至っている事例は少ない。
- ◆効率的な耕作のためには、ほ場の大区画化が望ましいが、集落によって整備状況は異なる。農業経営が厳しい状況の中で、農家自身の負担で整備を行うことは困難である。